KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL

2025 診療案内

近畿大学病院
KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL
特定機能病院

理念

患者本位の開かれた病院として、
安全で質の高い先進医療を提供します。

基本方針

1 特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
2 教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
3 南大阪における基幹病院および救急災害拠点として地域医療に貢献します。
4 働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。

理念

受診される皆様の権利

近畿大学病院では受診される皆様が以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために病院から必要な情報を得る権利
4. 病院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

守っていただく事項

近畿大学病院は受診者および病院の双方がお互いに尊敬し、協力し合うことが最善の医療サービスの提供につながるものであると考えますので、受診者の皆様には次のような事項を守っていただきますようお願いします。

1. 心身の健康状態、その他の必要事項について正確な情報をお伝え下さい。
2. 検査や治療などの医療行為は説明を受け納得の上で受けて下さい。
   合意できない場合はその旨お知らせ下さい。
3. 病状の変化や、治療中に生じた問題についてお知らせ下さい。
4. 病院ではお互いに礼儀正しく思いやりのある態度で接して下さい。
5. 病院内では静粛を保ち、器物は大切に取り扱って下さい。
6. 敷地内での禁酒・禁煙を守って下さい。
7. 医療費の支払い請求を受けたときには速やかにお支払い下さい。

病院長挨拶

病院長
東田 有智

近畿大学病院は1975年の開院以来、安全で質の高い先進医療を提供すると共に、教育病院として医療者を育成すべく努力を重ねてまいりました。

皆様からの温かいご支援とご協力のおかげで、開院50年目を迎えました。2025年度は、医療サービスの最適化、チーム医療の推進による診療効率と患者満足度の向上を図るため、新たに「糖尿病センター」、「炎症性腸疾患センター」、「胆膵疾患センター」、「脊椎センター」、「死因究明センター」を設置し、「内視鏡センター」、「血液浄化センター」へ名称を変更しました。新たな診療体制の下、南大阪エリア唯一の大学病院として地域における医療機関との相互連携を図るため、連携推進に力を入れ、地域医療のさらなる発展に貢献したいと考えております。

当院は地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院、大阪府難病診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院に指定を受けており、それぞれ、中心的な機能を担うセンターを配置しております。その他の分野でも診療科の枠を超えて多様な疾患に対応する診療体制を確保しております。

また、病院・診療所間連携の推進に力を入れるべく、診療情報の共有が可能となる「ICTを利用した地域医療連携ネットワーク」の構築を行っており、現在320施設を超える医療機関と連携しております。加えて、厚生労働省からの医療機関の機能分化を進める方針に則り「かかりつけ医紹介窓口」を設け、積極的な逆紹介を推進しております。

2025年11月には医学部と共に堺市泉ヶ丘地区に移転いたしますが、建設もほぼ完了し、移転に向けた準備は順調に進んでおります。最新の機能・設備を兼ね備えた病院となることで医療サービスの向上を実現することはもちろんのこと、今よりもさらに患者さんに近い病院、皆様から信頼される病院を目指してまいります。

2025年6月

病院概要

名　　称	**近畿大学病院**
所　在　地	〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
病　院　長	東田 有智
許可病床数	919床
標榜診療科	●内科 ●循環器内科 ●糖尿病・内分泌内科 ●消化器内科 ●血液内科 ●脳神経内科 ●腫瘍内科 ●呼吸器内科 ●腎臓内科 ●感染症内科 ●精神科 ●小児科 ●外科 ●消化器外科 ●小児外科 ●脳神経外科 ●心臓血管外科 ●整形外科 ●皮膚科 ●泌尿器科 ●眼科 ●耳鼻咽喉・頭頸部外科 ●産婦人科 ●放射線診断科 ●放射線治療科 ●麻酔科 ●形成外科 ●リハビリテーション科 ●救急科 ●緩和ケア内科 ●漢方内科 ●歯科 ●矯正歯科 ●歯科口腔外科 ●病理診断科

数字で見る近大病院

【診　療】(2024年度実績)

2,182人
一日平均外来患者数

25,141人
年間新入院患者数

10.4日
平均在院日数

96.7%
患者紹介率

11,162件
年間手術件数

6,554件
うち全身麻酔件数

8,295台
救急車搬送台数

12,307人
救急患者数

法令による医療機関の指定

- 特定機能病院
- 特定承認保険医療機関
- 臨床研修指定病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 肝疾患診療連携拠点病院
- エイズ拠点病院
- 災害拠点病院
- 治験拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 三次救急医療機関
- 労働者災害補償保険法による指定医療機関
- 地方公務員災害補償法による指定医療機関
- 生活保護法による指定医療機関
- 原子爆弾被爆者援護法による指定医療機関
- 戦傷病者特別援護法による指定医療機関
- 障害者自立支援法による指定医療機関
- 母子保健法による指定養育医療機関
- 感染症法による結核指定医療機関
- 特定疾患治療研究事業委託医療機関
- 小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
- 大阪府アレルギー疾患医療拠点病院
- 大阪府難病診療連携拠点病院
- がんゲノム医療拠点病院

施設基準・先進医療の情報はこちら

公式 HP

562件
ハートコール

325件
卒中コール

133件
母体搬送

17,743件
通院治療センター治療実績

3,738件
院内がん登録件数
（2023 年度実績）

【研　究】（2025 年 4 月 17 日現在実施中）

16 件
医師主導治験実施数

1,024 件
臨床研究数

167件
特定臨床研究数

地域医療連携について

当院では地域における医療機関との相互連携を図るため、病診・病病連携の推進に力を入れ、地域医療の発展に貢献したいと考えております。患者さんのご紹介につきまして、地域連携課をご利用ください。

地域連携課

TEL

紹介予約に関するお問い合わせ

072-366-0241

（受付時間 平日 9：00～20：00）

その他お問い合わせ

072-366-0257

（受付時間 平日 9：00～17：00）

FAX

直通

072-365-7161

紹介予約の手続きについて

❶診察予約申込書を FAX で送信してください。
（受付時間… 平日9：00～20：00、土曜9：00～12：00）
★祝日、年末年始、創立記念日（11月5日）は除く

❷予約日時が決まりましたら「診察予約日時のご通知」を FAX で送信いたします。

❸患者さんに予約日時等をご説明いただき、診察予約日時のご通知・紹介状等をお渡しください。

紹介予約患者さんの手続きの流れ

セカンドオピニオン外来について

当院では、主治医との良好な関係を保ちながら、診断内容や治療法に関して他の専門医の意見・判断を聞くことにより、患者さんの治療の参考にしていただくことを目的として、セカンドオピニオンを提供しております。主治医から説明を受けたが決定できない、他の治療方法を知りたいなど、判断に迷う患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介ください。診療情報提供書（検査・画像データなどを含む）をもとに当院の専門医が意見を提供させていただき、内容を書面にて主治医へご報告します。また、来院によるセカンドオピニオンに加えて、オンラインセカンドオピニオンも実施しております。感染症のリスクを避けたい方、遠隔地からお越し頂く負担を軽減したい方、また自宅など落ち着いた環境でセカンドオピニオンを受けたい方などの選択肢としてご案内ください。

■ 相談の対象となる方

患者さん本人の相談が原則です。同意書をお持ちの場合はご家族のみでも相談は可能です。なお、患者さんが未成年の場合や来院・対話が出来る状態でない場合は、続柄と本人確認できる書類（健康保険証・運転免許証など）をご提示ください。

相談日・時間帯

平日 9：00～17：00　完全予約制

（相談時間は主治医への報告書作成を含み60分とさせていただきます。）

料　金

60分以内（報告書作成を含む）

来院によるセカンドオピニオン　33,000円（消費税込み）
オンラインセカンドオピニオン　44,000円（消費税込み）
※健康保険適用外で、全額自費になります。

■ 対象とならない場合

1. 患者さん本人と家族以外からの相談
2. 主治医に対する不満、医療事故及び裁判係争中に関する相談
3. 近畿大学病院へ転医希望の場合
4. 医療費の内容、医療給付に関する相談
5. 死亡患者を対象とする場合
6. 診療情報提供書および検査資料を持参できない場合

申 込 方 法

- 「セカンドオピニオン（オンラインセカンドオピニオン）申込書」
- 「セカンドオピニオン同意書」
- 「診療情報提供書、各種検査データ」
- 「セカンドオピニオン外来問診票」

を当院ホームページよりダウンロードいただき、**近畿大学病院 地域連携課 セカンドオピニオン外来担当者宛** に郵送、もしくは FAX にてお申込みください。尚、お返事には1週間程度かかります。当日のお返事はできませんのでご了承ください。
完全予約制となっております。お電話にて予約日をお知らせし、予約票を郵送または FAX にてお送りいたします。
詳細は当院ホームページをご確認ください。

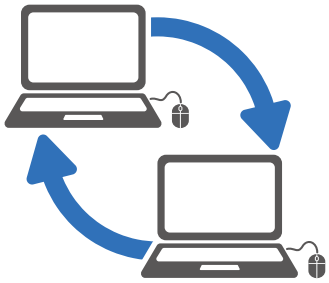
連携医登録について

地域の医療機関との機能分担を図り、信頼関係のある質の高い病診・病病連携を推進することを目的とした連携医登録の主旨にご賛同いただける場合は、連携医登録させていただきます。

ICTを利用した地域医療連携ネットワークシステムについて

■ 概要

地域の医療機関をつなぐ連携ネットワークを構築することにより、診療情報（カルテ情報、画像、レポート等）の閲覧が可能になります。情報提供施設（近畿大学病院）は、「SS-MIX2標準ストレージ」にデータを出力し、地域連携サーバを経由して連携先の医療機関に診療情報を公開（24時間情報閲覧可）



■ セキュリティーについて

情報参照施設や情報提供施設とデータセンター間は SSL/TLS クライアント認証を利用して高度なセキュリティーが確保された通信網を使用。

■ 情報参照施設側に必要なもの

インターネットに接続できるパソコンが１台あれば、地域医療連携システムをご利用いただけます。

【パソコンの環境条件】

① Internet Explorer10または11Edge が動作すること。※サポート OS についてはお問い合わせください。

②**インターネット回線**

1）回線速度は10M 以上、ただし画像連携も含む場合 100M 以上であること（推奨）。
推奨回線速度は快適にご利用できる目安です。

2）アクセス回線契約と接続事業者（ISP）契約を行うこと（必須）。

③**ネットワーク接続設定**

1）SSL/TLS クライアント認証基盤はインターネット経由で接続し、接続先ドメインは「wwws.humanbridge.net」となります。

2）サービスのご利用にあたり、下記のネットワーク要件を満たす必要があります。

・上記ドメインの名前解決ができること。

・上記ドメインに対して「https（443/tcp）」でアクセス可能なこと。

■ 情報参照していただけるもの

●患者基本情報　●病名　●処方歴　●検歴
●各種オーダ情報　●サマリー　●画像情報　●各種レポート

■ 外来予約取得（新機能）

当院の紹介患者さん用の外来予約枠を WEB で取得することが可能になりました。
その場で予約票を患者さんにお渡しいただけますのでお待たせすることがございません。

■ その他

・当院へ通院歴のある患者さんから同意をとっていただき、同意書を近畿大学病院地域連携課まで FAX していただくと、すぐにその患者さんの情報を公開します。

・施設基準に適合しているとして近畿厚生局へ届出されますと、「電子的診療情報評価料」として30点算定していただけます。
（診療情報提供料（I）を算定する他の保険医療機関からの１回の診療情報提供に対し１回のみ）

・2018年８月よりこのシステムを利用し、常時診察予約を取得いただける機能を追加いたしました。

KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL

各診療科のご案内

2025年6月現在

※診療科担当医師は助教以上を掲載しております。

1	循環器内科	10
2	内分泌・代謝・糖尿病内科	11
3	消化器内科（肝臓）	12
	消化器内科（胆膵）	13
	消化器内科（消化管）	14
4	血液・膠原病内科（血液グループ）	15
	血液・膠原病内科（膠原病グループ）	16
5	腎臓内科	17
6	脳神経内科	18
7	腫瘍内科	19
8	呼吸器・アレルギー内科	20
9	メンタルヘルス科	21
10	小児科・思春期科	22
11	外科（上部消化管）	23
	外科（下部消化管）	24
	外科（内視鏡外科）	25
	外科（肝胆膵）	26
	外科（呼吸器）	27
	外科（乳腺・内分泌）	28
12	脳神経外科	29
13	心臓血管外科	30
14	整形外科	31
15	皮膚科	32
16	形成外科	33
17	泌尿器科	34
18	眼科	35
19	耳鼻咽喉・頭頸部外科	36
20	産婦人科	37
21	放射線診断科	38
22	放射線治療科	39
23	麻酔科	40
24	歯科口腔外科	41
25	漢方診療科（東洋医学研究所）	42
26	リハビリテーション科	43

1 循環器内科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 中澤 学 主任教授

出身大学 東邦大学
専門分野 心血管カテーテル治療、虚血性心疾患、心臓弁膜症、心房中隔欠損症、血管病理学
専門医資格 総合内科専門医・循環器専門医

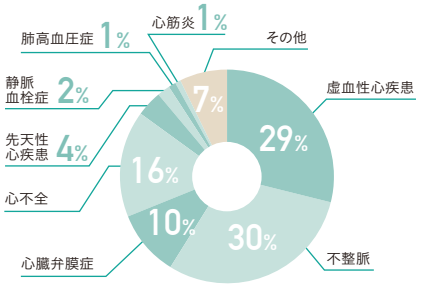
特殊［専門］疾患

- 心筋梗塞、狭心症などの虚血性心疾患
- 閉塞性動脈硬化症などの末梢血管疾患
- 上室性および心室性不整脈
- 心不全
- 心筋症
- 心臓弁膜症
- 成人先天性心疾患
- 急性大動脈解離、動脈瘤などの大動脈疾患
- 急性肺血栓塞栓症、肺高血圧症などの肺循環障害

診療科の特徴

当科は約25人程度のスタッフで外来、入院診療を行っています。また、日夜問わず“ハートコール”による緊急患者の全応需体制をとっております。
我々は幅広い循環器疾患に対して最先端の医療を提供する専門診療科として、高い専門性と実績を誇ります。特にカテーテルインターベンションに力を入れており、PCI（経皮的冠動脈インターベンション）、TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）、MitraClip（経カテーテル僧帽弁接合不全修復術）といった代表的な治療はもとより、EVT（末梢血管インターベンション）、ASD閉鎖、PFO閉鎖、Watchmanデバイス留置、BPA（バルーン肺動脈形成術）など、国内で施行可能なカテーテル治療のほとんどに対応しています。これらの高度な治療を支えるため、当科には多数の循環器専門医、インターベンション専門医が在籍しており、安全かつ質の高い医療の提供に努めています。また、低侵襲治療ですので短期間で退院できるのも特徴です。不整脈領域においても、地域の中核病院として重要な役割を果たしています。年間を通じて多くのカテーテルアブレーションやペースメーカー、ICD、CRTなどの植込み型デバイス治療を行っており、専門医による高度な診断と適切な治療が日常的に行われています。さらに心不全診療にも注力しており、心不全チームを中心に、心臓リハビリテーション、薬物療法、デバイス治療、さらには終末期ケアまで、多職種連携による包括的なアプローチを展開しています。外来および入院診療の両面において、患者一人ひとりに合わせた最適な医療の提供を目指しています。このように、近畿大学病院循環器内科は、循環器疾患のあらゆる領域に対応可能な総合力を有し、常に進化し続ける医療の現場で地域医療に貢献しています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

日本国内で行われている、虚血性心疾患、構造的心疾患、不整脈に対する低侵襲治療のほぼすべてに対応可能です。冠動脈インターベンションはもちろんのこと、弁膜症や構造的心疾患に対するカテーテル治療である、経カテーテル大動脈弁留置術、僧帽弁クリップ術、経皮的心房中隔欠損症閉鎖術なども心臓外科医、麻酔科医、コメディカルスタッフとともにハートチームとして積極的に取り組んでおります。また、不整脈に対するカテーテルアブレーション、ペースメーカー留置術に加え、抗凝固薬で出血リスクがある患者さんに対する左心耳閉鎖術も積極的に行っています。緊急患者さんに対する“ハートコール”は全応需を徹底し24時間体制で診療に日々励んでおります。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
栗田 隆志	教授	福岡大学	不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT	循環器専門医
上野 雅史	准教授／医局長	近畿大学	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患、抗血小板療法	総合内科専門医・循環器専門医
野田 崇	准教授	広島大学	不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT	総合内科専門医・循環器専門医
安岡 良文	講師	近畿大学	不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT	―
松村 光一郎	講師／病棟医長	金沢医科大学	循環器一般、心不全	総合内科専門医・循環器専門医
中村 貴	医学部講師	近畿大学	循環器一般	総合内科専門医・循環器専門医
三好 達也	医学部講師／外来医長	神戸大学	心臓弁膜症、心臓超音波検査、構造的心疾患	循環器専門医・超音波専門医
松添 弘樹	医学部講師	関西医科大学	心臓弁膜症、心筋症、心臓超音波、心不全	総合内科専門医・循環器専門医・超音波専門医
丸山 将広	医学部講師	近畿大学	不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT	循環器専門医
河村 尚幸	医学部講師	近畿大学	循環器一般、心血管カテーテル治療	循環器専門医
藤田 晃輔	医学部講師	近畿大学	循環器一般、心血管カテーテル治療	循環器専門医
吉田 彩乃	医学部講師	東京女子医科大学	心臓弁膜症、心臓超音波検査	総合内科専門医・循環器専門医・超音波専門医
筧 和剛	医学部講師	近畿大学	循環器一般、心血管カテーテル治療	―
田中 基英	医学部講師	近畿大学	不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT	―
髙橋 邦彰	助教	三重大学	循環器一般、心血管カテーテル治療、臨床研究	―
奥根 真楠	助教	近畿大学	循環器一般	―
大西 教平	助教	近畿大学	循環器一般	循環器専門医
副島 奈央子	助教	近畿大学	循環器一般、心臓超音波検査	―
船内 陽平	助教	近畿大学	循環器一般	―
箱崎 頌平	助教	札幌医科大学	循環器一般	―
山田 信広	助教	近畿大学	循環器一般、心血管カテーテル治療	―
濱中 慶	助教	近畿大学	循環器一般	―
南 遙香	助教	近畿大学	循環器一般	―
加山 優	助教	兵庫医科大学	循環器一般	―
櫻根 寛之	助教	近畿大学	循環器一般	―

2 内分泌・代謝・糖尿病内科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 前田 法一 主任教授

出身大学 大阪大学
専門分野 糖尿病、内分泌代謝疾患、動脈硬化症、肥満症
専門医資格 糖尿病専門医・内分泌代謝科専門医

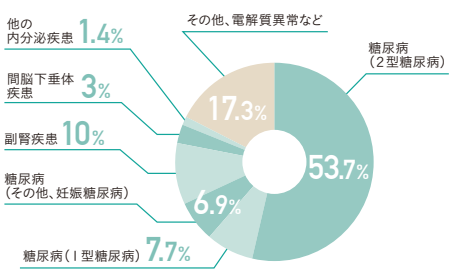
特殊［専門］疾患

- 1型糖尿病、2型糖尿病、その他の糖尿病（膵性、薬物性など）、妊娠糖尿病
- 肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症（FH含む）、高血圧
- 甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病）、副甲状腺機能亢進症
- 原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、副腎偶発腫
- 先端巨大症、クッシング病、下垂体機能低下症、尿崩症

診療科の特徴

当科では緊急の集中治療を要する高血糖緊急症を日頃から数多く受け入れ、救命しています。外来診療では、先進デバイスを要する1型糖尿病、合併症や併存疾患を有し管理に難渋する2型糖尿病、膵切除後や薬剤性等のその他の糖尿病、妊娠に関わる糖尿病など、全国の糖尿病専門施設の中でもトップクラスとなる年間約4000例の糖尿病を診療しています。一般的な2型糖尿病診療も近年の新薬登場により様変わりしていますが、1型糖尿病に対しても最新の持続血糖モニター（CGM）やインスリンポンプを駆使した先進的な診療をおこなっています。また、外科的膵切除後には高頻度に糖尿病が発症しますが、当院では外科との緊密な連携により、術後の糖尿病発症リスクを評価し、早期治療介入による合併症進展予防体制を構築しています。また体調変動や他疾患の治療に応じて血糖変動をきたす場合の血糖管理など、あらゆる糖尿病診療に対応可能です。
肥満症、動脈硬化を専門とする前田は、高度肥満症症例について二次性肥満を除外した上で、治療に前向きな方には丁寧な栄養指導と薬物治療、必要であれば肥満外科手術への橋渡しをおこない、また家族性高脂血症など難治性の脂質異常症も受け入れて診療しています。
内分泌疾患では、バセドウ病や橋本病といった甲状腺疾患、先端巨大症、下垂体機能低下症、尿崩症などの下垂体疾患、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫など副腎性高血圧の診断や治療、CT等でたまたま発見された副腎偶発腫の精査、副甲状腺機能亢進症による高カルシウム血症なども診療しています。
また、近年がん治療において多くの診療科で使用されるようになった免疫チェックポイント阻害薬では、稀に内分泌細胞が標的となる免疫学的有害事象として、甲状腺ホルモン異常、下垂体性副腎ホルモン異常、インスリン欠損による糖尿病発症が問題になりますが、当科では他診療科との密な連携により、安心して腫瘍治療を受けられる体制を準備しています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

当科は全国81の糖尿病専門施設が参画した糖尿病の大規模臨床研究において、血糖値、血圧、脂質、体重の総合評価部門の全国一位を5期連続で獲得した実績があります。
新病院の外来棟には、栄養相談室、看護外来、合併症検査室を併設した「糖尿病センター」を新設し、専門医・管理栄養士・看護師・薬剤師による円滑なチーム医療をおこないます。通常治療で管理に難渋する症例や、治療の見直しに悩まれる症例、合併症評価の依頼などがありましたらご紹介頂ければ、治療最適化と合併症評価をおこなった上で診療情報提供書とともに貴院に再度紹介し、双方向性の密な病診・病病連携体制を構築して参ります。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
能宗 伸輔	教授／医局長	宮崎医科大学	糖尿病、1型糖尿病、内分泌代謝疾患、老年病医学	総合内科専門医・糖尿病専門医・内分泌代謝科専門医・老年科専門医
馬場谷 成	講師	近畿大学	糖尿病、内分泌代謝疾患、甲状腺疾患、老年病医学	総合内科専門医・糖尿病専門医・内分泌代謝科専門医・老年科専門医
廣峰 義久	講師／病棟医長	大阪大学	糖尿病内分泌疾患、老年病医学、サルコペニア	総合内科専門医・糖尿病専門医・老年科専門医
武友 保憲	医学部講師／外来医長	近畿大学	糖尿病、内分泌代謝疾患、老年病医学	総合内科専門医・糖尿病専門医・内分泌代謝科専門医・老年科専門医
吉田 左和	医学部講師	近畿大学	糖尿病、内分泌疾患、老年病医学	糖尿病専門医・老年科専門医
奥田 祐輝	助教	近畿大学	糖尿病、内分泌代謝疾患	糖尿病専門医
小川 誠人	助教	島根大学	糖尿病、内分泌代謝疾患	糖尿病専門医
西野 正嗣	助教	福岡大学	糖尿病、内分泌疾患	―

3 消化器内科（肝臓）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 工藤 正俊 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B型肝炎、C型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格 総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・超音波専門医・核医学専門医

特殊［専門］疾患

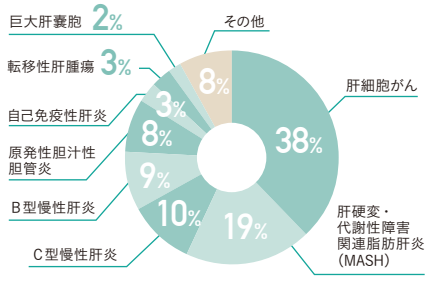
- 肝疾患
  （急性肝炎・慢性肝炎・
  肝硬変・肝細胞がん）
- B型肝炎
- C型肝炎
- 自己免疫性肝炎
- 転移性肝がん
- アルコール性肝疾患
- 門脈圧亢進症
- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）
- 脂肪肝

など

診療科の特徴

当科の肝臓グループでは、あらゆる肝疾患に対して専門的かつ先進的な医療を提供しています。ウイルス性肝炎（B型・C型）、生活習慣病と関連する脂肪性肝疾患（MASLD）、肝硬変、肝細胞がん、肝内胆管がんといった幅広い疾患に対応し、正確な診断と効果的な治療を行っています。
特に肝がんの治療では、当科は国内外で高い評価を受けており、世界をリードする診療・研究実績を誇っています。ラジオ波焼灼療法（RFA）や肝動脈化学塞栓療法（TACE）に加え、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など多彩な内科的治療を**組み合わせる**ことで、より良い治療効果を追求しています。
当科が主導して開発・実用化した分子標的薬「レンバチニブ（レンビマ）」は、現在、世界中で使用されている肝がん治療薬であり、その研究成果は国際的なガイドラインにも反映されています。また、レンバチニブとTACEを組み合わせTACEの治療効果を高めた**「LEN-TACE治療」**や、最新の免疫チェックポイント阻害剤と分子標的薬（アテゾリズマブ+ベバシズマブ）で腫瘍を縮小させ、RFAや外科手術へつなげて根治をめざす**「ABCコンバージョン」**など、当科発のコンセプトに基づいた新しい治療法が全世界に広まりつつあります。
近年では切除不能な肝がんに対して、レンバチニブと免疫チェックポイント阻害剤ペムブロリズマブをTACEと併用する国際共同第3相試験を実施し、病気の進行を抑える期間（無増悪生存期間）の有意な延長、さらに全生存期間の延長傾向も示す成果が**当消化器内科を代表施設**として発表しました。これは世界中の肝がん治療の進歩に大きく貢献する成果といえます。
全国や海外からも多くの患者さんが当院を訪れており、**「世界最高水準の肝疾患診療」**を提供する体制を整えています。肝臓に関するお悩みがある方は、ぜひ安心して当科にご相談ください。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS 複合免疫療法と肝がんの個別化治療

肝がん治療において「複合免疫療法」が大きな進歩を遂げています。これは、がん細胞を攻撃する免疫の力を高める薬を組み合わせる治療法で、進行肝がんに対して大きな効果を発揮します。分子標的薬と免疫チェックポイント阻害剤を組み合わせたアテゾリズマブ+ベバシズマブ、2種類の異なる作用の免疫チェックポイント阻害剤を併用するデュルバルマブ+トレメリムマブ、さらに最近報告されたニボルマブ+イピリムマブがあります。それぞれが異なる働きで抗腫瘍免疫を活性化させますが、この作用は強力であり、根治が不可能と考えられていた多数の転移を持つ進行例でも、がんが縮小し、「根治」が目指せるケースが増えてきました。一方、複合免疫療法にも複数の種類があり、従来の分子標的薬も含め、どの治療薬がどのような例に大きな効果が見込めるかを予測する研究も盛んに行われています。このような個別化治療を視野に入れた研究により、肝がんの予後が大きく改善することが期待されます。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
西田 直生志	教授	大阪医科大学（現 大阪医科薬科大学）	消化器全般、肝疾患、ウイルス性肝炎、代謝性肝疾患、肝がんの診断と治療	総合内科専門医・消化器病専門医・肝臓専門医
上嶋 一臣	医学部講師／特命准教授	神戸大学	肝疾患、肝細胞がんの診断と治療、肝がん化学療法、ウイルス肝炎治療	消化器病専門医・総合内科専門医・肝臓専門医・消化器内視鏡専門医・救急科専門医・がん治療専門医
萩原 智	医学部講師／特命准教授／外来医長	近畿大学	消化器全般、肝疾患、肝炎、肝細胞がんの診断と治療	消化器病専門医・肝臓専門医
南 康範	医学部講師	近畿大学	消化器全般、肝疾患、肝がんの診断と治療、内視鏡診断と治療	外科専門医・超音波専門医・消化器病専門医・肝臓専門医・消化器内視鏡専門医
田北 雅弘	医学部講師	近畿大学	肝がんの診断と治療、肝炎の診断と治療	消化器病専門医・肝臓専門医・消化器内視鏡専門医
千品 寛和	医学部講師	近畿大学	肝がんの診断と治療、肝炎の診断と治療	—
盛田 真弘	助教	富山大学	肝がんの診断と治療、肝炎の診断と治療	消化器病専門医・肝臓専門医
松原 卓哉	助教	兵庫医科大学	肝疾患と消化器疾患	—
岡井 夏輝	助教	近畿大学	肝疾患と消化器疾患	—
大丸 直哉	助教	近畿大学	肝疾患と消化器疾患	—
瀬海 郁衣	助教	久留米大学	肝疾患と消化器疾患	—

3 消化器内科（胆膵）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 工藤 正俊 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B型肝炎、C型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格 総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・超音波専門医・核医学専門医

特殊［専門］疾患

- 総胆管結石
- 閉塞性黄疸
- 胆管細胞がん
- 胆道がん
- 膵がん
- 自己免疫性膵炎
- 慢性膵炎
- 急性膵炎

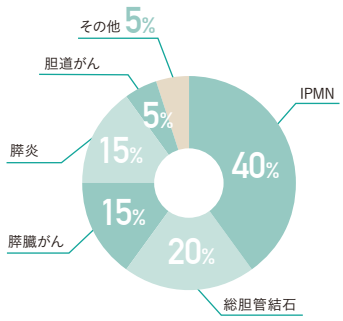
など

診療科の特徴

胆膵グループ

当科の胆膵グループは、あらゆる胆道疾患と膵疾患に対して専門的かつ先進的な医療を提供しています。胆膵疾患は多岐にわたり、胆道疾患では胆道がん（胆管がん、胆嚢がん、乳頭部がん）、急性胆嚢炎、急性胆管炎、胆石・総胆管結石が、膵疾患では膵がん、急性膵炎、慢性膵炎、早期慢性膵炎、膵嚢胞性疾患が挙げられます。当グループは件数、質ともに国内随一の内視鏡診断・処置に加え、最新の知見を組み合わせることで、世界水準の診療を提供します。
予後不良の膵がんに関しては、地域連携システム構築による膵がん早期診断プロジェクトを推進し国内ロールモデルとなっており、世界初の膵がん特異的スクリーニング法の開発にも関わっています。手術可能な状況で診断し得た症例は当院肝胆膵外科と常に連携をとりながら術前化学療法を行い、残念ながら手術適応外で診断された症例では、最新の免疫チェックポイント阻害剤療法、化学療法、放射線治療、緩和医療といった様々な選択肢から患者さんにとって最も良い医療を行なっています。
時に致死的経過をとる重症急性膵炎に対しては、治療に必須である超音波内視鏡下感染性膵壊死ドレナージを行い、南大阪膵炎地域連携システムを構築し地域の死亡率改善にも貢献してまいりました。我々の取り組みは急性膵炎診療ガイドラインにも掲載されています。
また主に膵がんや胆道がんによる閉塞性黄疸は消化管閉塞もきたすため、超音波内視鏡下に経消化管的胆道ドレナージ（EUS-BD）が必要になる場合がありますが、我々はこれらの手技を黎明期より導入しており、処置件数は全国トップレベルであり、全国の施設から我々の本手技に対する教育や運営を学びにこられています。
早期慢性膵炎や、乳頭機能不全といった胆膵疾患では稀な疾患である病態でお苦しみの患者さんも全国や海外から当院に多く紹介受診されています。胆膵疾患に関するお悩みがある方は、いつでも当科にご相談ください。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

膵がんは小さな病変でも根治治療が難しく、予後不良ながん腫であります。膵がんの予後を改善するためには、微小膵がん（上皮内がんや10mm 以下膵がん）の診断が重要とされています。しかしながら、腫瘍径の小さい病変は各種検査で直接検出することが困難であるため、上腹部痛や背部痛を有する患者さんおよび膵がんのリスクファクター（膵管拡張や膵嚢胞、慢性膵炎、膵がんの家族歴、糖尿病の悪化、急性膵炎の既往）などを有する患者さんに、積極的に膵がんの存在を疑って、専門施設での積極的な検査が望ましいとされています。当院ではこのようなリスク因子を持った患者さんに超音波内視鏡検査や内視鏡的膵管造影精査（ERCP）を積極的に行うことで多くの微小膵がんの診断実績を上げています（上皮内がん：10 例、10mm 以下膵がん：15 例（2021 年 2 月現在））。該当する症状や所見のある患者さん、御不安な患者さんがいらっしゃいましたら、是非とも当科へご受診ください。また地域の先生方にも積極的に御紹介をお願いします。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
竹中 完	医学部講師／特命准教授／医局長／病棟医長	近畿大学	消化器全般、胆・膵疾患の診断と治療	消化器内視鏡専門医・消化器病専門医・肝臓専門医
鎌田 研	医学部講師／特命准教授	近畿大学	消化器全般、胆・膵疾患の診断と治療	総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・超音波専門医・肝臓専門医
三長 孝輔	医学部講師／特命准教授	京都大学	消化器全般、胆・膵疾患の診断と治療	総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医
大本 俊介	医学部講師	近畿大学	消化器全般、胆・膵疾患の診断と治療	消化器病専門医・消化器内視鏡専門医
山﨑 友裕	医学部講師	和歌山県立医科大学	消化器全般、胆・膵疾患の診断と治療	消化器病専門医・消化器内視鏡専門医
吉田 晃浩	助教	近畿大学	消化器一般	消化器内視鏡専門医・消化器病専門医
田中 秀和	助教	近畿大学	消化器一般、胆・膵疾患の診断と治療	－
大塚 康生	助教	島根大学	消化器一般、胆・膵疾患の診断と治療	－
益田 康弘	助教	近畿大学	消化器一般	総合内科専門医・消化器病専門医
栗本 真之	助教	近畿大学	消化器一般	－
原 茜	助教	近畿大学	消化器一般	－

3 消化器内科（消化管）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 工藤 正俊 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B型肝炎、C型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格 総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・超音波専門医・核医学専門医

特殊［専門］疾患

- 食道がん
- 胃がん
- 大腸ポリープ・大腸がん
- 十二指腸・小腸腫瘍
- 食道・胃静脈瘤
- 胃・十二指腸潰瘍
- 潰瘍性大腸炎
- クローン病

など

診療科の特徴

当科の消化管グループでは、**食道・胃・十二指腸・小腸・大腸に至るすべての消化管疾患**に対して、**高度かつ専門的な診断・治療**を提供しています。当グループの中核には、**消化器内視鏡診療**があります。内視鏡センターでは、上部・下部消化管内視鏡をはじめとするあらゆる内視鏡検査に対応しており、**十分な検査体制を整えて、広く検査依頼を受け入れています。**

■ 対応疾患と診療体制

- **良性疾患**：逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病 など
- **悪性疾患**：食道がん、胃がん、十二指腸がん、大腸がん など

悪性疾患に対しては、内視鏡に加えてCT・MRIなどの各種画像診断を駆使し、**外科・腫瘍内科と緊密に連携したチーム医療**を実践。早期腫瘍に対しては、**内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っており、瘢痕や再発例など治療困難症例にも対応**しています。
また、小腸疾患に対しては、**バルーン小腸内視鏡・カプセル内視鏡**などを用いた精密な診断・治療が可能で、豊富な経験を有しています。

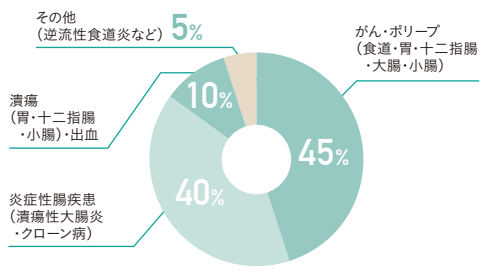
■ 炎症性腸疾患への取り組み

潰瘍性大腸炎やクローン病などの**炎症性腸疾患（IBD）については、診療のみならず免疫・腸内細菌に関する基礎研究も積極的に展開**しており、**国際的な研究実績**を上げています。
IBDセンターでは、小腸内視鏡、免疫学・遺伝子学的検査などを組み合わせた**総合的な診断体制**のもと、患者ごとの病態に応じた最適な治療方針を決定。**最新の生物学的製剤による治療経験も豊富**で、難治例・重症例にも対応しています。

■ 救急対応も万全

消化管出血や腸閉塞などの急性疾患にも迅速に対応し、**緊急内視鏡による止血・減圧処置などの救急医療**にも力を入れています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

近年、消化管の内視鏡診療は驚異的な進化を遂げています。AIによる病変検出支援やNBIやBLI拡大、LCIなどの画像強調技術により、微細な早期がんの発見精度が飛躍的に向上。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も、技術の進歩とともに高難度病変や高齢者への適応が拡大しています。さらに、カプセル・バルーン内視鏡による小腸病変の可視化、炎症性腸疾患に対するバイオマーカーと画像診断の融合など、まさに“見て治す”から“予測し治ゆへ導く”内視鏡診療へと進化中です。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
辻 直子	教授	京都府立医科大学	消化器全般、上・下部消化管	消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・臨床検査専門医・総合内科専門医
渡邉 智裕	准教授／特命教授	京都大学	消化器全般、消化器免疫疾患	総合内科専門医・肝臓専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医
本庶 元	講師	金沢大学	消化器全般、内視鏡診断と治療	総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・超音波専門医
米田 頼晃	医学部講師	北里大学	消化器全般、内視鏡診断と治療（特に下部消化管）、炎症性腸疾患	消化器内視鏡専門医・消化器病専門医・総合内科専門医・大腸肛門病専門医
永井 知行	医学部講師	近畿大学	消化器全般、内視鏡診断と治療	総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医
河野 匡志	医学部講師	近畿大学	消化器全般、内視鏡診断と治療	消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医
正木 翔	医学部講師	川崎医科大学	消化器全般、内視鏡診断と治療	消化器病専門医・消化器内視鏡専門医
半田 康平	助教	近畿大学	消化器一般	―
吉田 早希	助教	近畿大学	消化器一般	―

4 血液・膠原病内科（血液グループ）

近畿大学病院HP　診療科HP

特殊［専門］疾患

- 造血器腫瘍
  （白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）
- 骨髄不全
  （再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症など）
- 赤血球系疾患
  （鉄欠乏性貧血、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血など）
- 白血球系疾患
  （好中球減少症、ウイルス感染症、免疫不全症など）
- 血栓・止血疾患
  （免疫性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固、凝固因子異常症など）

診療科の特徴

治療方針

血液内科で扱う疾患の多くは、造血器腫瘍を含む難治性疾患であり、その診断や治療には専門的な知識と経験が必要とされます。当科は、日本血液学会認定血液専門医16名を含む24名の医師が在籍し、日本血液学会専門研修認定施設に認定されています。外来は、一般血液疾患、造血器腫瘍を専門とする医師2名、初診対応医師1名の3診体制で、病棟は、無菌室13床を含む58床を有しており、数名のチーム体制で診療を行っております。

◎各種血液疾患に対する正確な診断、エビデンスに基づいた最新治療（抗がん剤治療、分子標的治療、免疫調節治療、がん免疫療法、輸血療法など）の実践
：当科は、特定非営利活動法人成人白血病治療共同研究機構（JALSG）、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の他、全国の共同研究グループに多数所属し、活動しています。

◎造血器腫瘍、骨髄不全などの適応症例に対する積極的な造血幹細胞移植の施行
：当院は、日本造血・免疫細胞療法学会より「日本骨髄バンク及び公的さい帯血バンクから提供される造血幹細胞を用いて移植を施行する施設」として認定されています。2024年度は同種移植26件、自家移植12件実施しました。

◎各科との連携による全身性疾患や合併症に対する質の高い診療の提供

◎多職種との連携による患者のライフステージに応じた切れ目のない医療の提供
：緩和ケアセンター、がん相談支援センターと連携し、思春期・若年成人（AYA）世代の造血器腫瘍患者への対応、移植後長期フォローアップ、及び終末期医療への対応を行なっています。

◎患者さんやご家族との間での適切なインフォームドコンセントの追求

◎患者さんのご希望を尊重したアドバンス・ケア・プランニングの実践

◎他院からのセカンドオピニオンへの対応

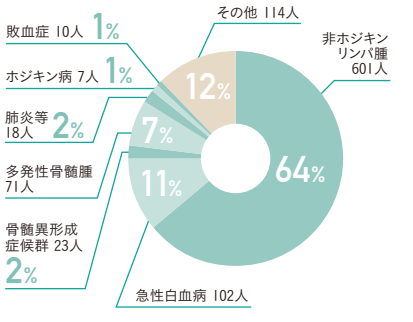
輸血・細胞治療センターのご案内

◎当院は、日本輸血・細胞治療学会が定める「各施設において、適切な輸血管理が行われているか否かを第三者によって点検し、安全を保証する制度（I&A制度）」に準拠した輸血機能評価認定施設です。当センターには、専門知識や十分な経験を有する検査技師が11名在籍しており、24時間常駐する体制で輸血医療の安全確保に努めています。

◎ 内科系、外科系診療科において、血液製剤および血漿分画製剤が必要な症例に対し、安全かつ適正な製剤を提供し、副作用などを管理しています。

◎造血器腫瘍や固形腫瘍治療などに用いる自家末梢血幹細胞の採取や保管管理、成人や小児の造血器疾患に対する同種造血幹細胞移植（骨髄、末梢血、臍帯血）や間葉系幹細胞、治療用細胞製剤に用いる細胞の処理や保管管理などを行っています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

これまで造血器腫瘍の多くは難治性疾患とされてきました。しかし、近年の分子生物学、分子遺伝学における技術革新により、疾患の原因となる遺伝子異常などの分子病態が明らかにされ、これら異常に対する分子標的薬、抗体薬、細胞製剤など新たな治療薬が数多く開発されています。腫瘍特異的で、副作用の少ない治療薬の登場は、従来の抗がん剤中心の造血器腫瘍の治療方針を大きく変え、治療成績は大きく改善してきています。また、ゲノム情報などの解析結果を元にした個別化医療への応用も試みられています。

当院の血液内科では、新規治療薬の有効性や安全性を明らかにするための治験や臨床研究に積極的に参加し、最良で最先端の医療の追求に取り組んでいます（2025年4月時点の治験数：急性白血病5件、骨髄異形成症候群 / 骨髄増殖性腫瘍7件、慢性白血病6件、悪性リンパ腫27件、骨髄腫4件、その他4件（https://www.med.kindai.ac.jp/gancenter/cts.html に一部掲載））。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
松村　到	教授	大阪大学	造血器腫瘍、造血幹細胞疾患、造血幹細胞移植、貧血疾患、白血球系疾患、出血性疾患	総合内科専門医・がん薬物療法専門医・血液専門医
辰巳　陽一	教授	近畿大学	白血球系疾患、造血器腫瘍、出血性疾患、造血幹細胞疾患	血液専門医
田中　宏和	教授	浜松医科大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	総合内科専門医・血液専門医
森田　泰慶	准教授／医局長／病棟医長	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞疾患	総合内科専門医・血液専門医
平瀬　主税	准教授	近畿大学	造血器腫瘍	総合内科専門医・血液専門医
芹澤　憲太郎	講師／外来医長	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	総合内科専門医・がん薬物療法専門医・血液専門医
口分田　貴裕	医学部講師	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	総合内科専門医・がん薬物療法専門医・血液専門医
花本　晶	助教	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	血液専門医
藤本　昂	助教	川崎医科大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	血液専門医
波江野　高大	助教	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	血液専門医
三宅　義昭	助教	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	―
加藤　由里子	助教	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	―
深野　あや乃	助教	近畿大学	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	―

4 血液・膠原病内科（膠原病グループ）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者 木下 浩二 教授
出身大学 近畿大学
専門分野 リウマチ・膠原病一般、腎臓病一般、アレルギー性疾患
専門医資格 総合内科専門医・リウマチ専門医・腎臓専門医・アレルギー専門医

特殊［専門］疾患

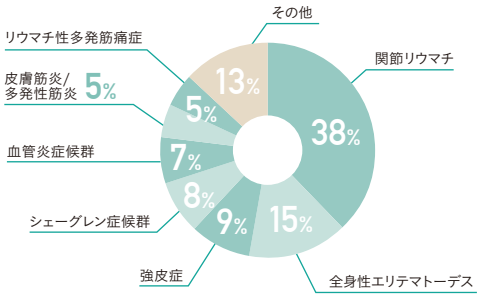
- リウマチ性疾患
  関節リウマチ、成人スティル病、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症、反応性関節炎、炎症性腸疾患に伴う関節炎）など

- 膠原病性疾患
  全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、多発性筋炎／皮膚筋炎、混合性結合組織病、ベーチェット病、高安動脈炎、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、IgA血管炎、IgG4 関連疾患など

診療科の特徴

膠原病内科では、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎／皮膚筋炎、強皮症、血管炎、シェーグレン症候群などのリウマチ・膠原病全般を主な診療対象としています。現在、約2,500名の患者さんが当科に通院されておられます。
膠原病とは、免疫のシステム異常をきたし全身のあらゆる臓器に慢性的な炎症を引き起こす疾患群の総称であり、未だその原因は明らかではありませんが、健康な状態であれば外部からの病原菌や異常な細胞に対してのみ働く免疫力が、なんらかの原因でこのシステムに異常を起こし、自身を構成する成分に対して免疫が反応してしまい、本来は病原菌にのみ反応するリンパ球や抗体が自身の細胞に対して作られてしまい、さらにさまざまな免疫系の細胞や炎症を引き起こす物質が関与して慢性的な炎症が起こると考えられております。
私たちの診療科で扱う疾患はいずれも原因不明の難病であり、現在でも根治的な治療法はありませんが、科学的根拠（エビデンス）に基づいて、個々の患者さんの症状、合併症、社会的背景に応じて治療方針をたてています。近年の生物学的製剤の導入により、関節リウマチの治療は飛躍的に進歩しましたが、有効な治療法のない難治性病態が数多く残っています。それらに対しては、これまでの研究に基づいたあらたな治療法を積極的に行っています。また膠原病は、症状や臓器障害が全身に及ぶことがあり、当科のみならず、各内科・皮膚科・眼科・整形外科・産婦人科等必要な診療科と緊密な連携をしながら診療にあたっています。
膠原病は専門性の高い診療科ですが、症状が多彩であるため様々な患者さんが受診される間口が広い診療科です。気になる症状や検査所見がありましたらお気軽にご相談いただければと存じます。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

関節リウマチの治療では、ピンポイントに病因物質を狙い撃ちにする「生物学的製剤」が使用され、劇的に症状を改善することがよく知られていますが、全身性エリテマトーデス（SLE）でも同様に有効性が期待できる「生物学的製剤」が開発され使用できるようになってきました。SLEの病態にかかわるBリンパ球を標的としたベリムマブや炎症性サイトカインの一つであるIFN-αを標的としたアニフロルマブなどですが、いずれも疾患活動性、再発率が改善されステロイド使用量が減らせたという報告が出ています。
当科ではこれらの薬剤の使用経験が豊富であり、また新規治療薬の治験や臨床研究にも積極的に取り組んでおります。診断や治療にお困りの症例がございましたらお気軽にご相談ください。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
野﨑 祐史	准教授／医局長	近畿大学	リウマチ・膠原病一般、腎臓病一般、アレルギー性疾患	総合内科専門医・リウマチ専門医・腎臓専門医・アレルギー専門医
志賀 俊彦	医学部講師／病棟医長	近畿大学	リウマチ・膠原病一般、腎臓病一般	総合内科専門医・リウマチ専門医・腎臓専門医
李 進海	医学部講師／外来医長	近畿大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
伊丹 哲	助教	近畿大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
冨田 大介	助教	近畿大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
石村 香織	助教	近畿大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
山澤 広嵩	助教	近畿大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
福田 里香	助教	兵庫医科大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
森本 祐美	助教	川崎医科大学	リウマチ・膠原病一般	リウマチ専門医
土本 和司	助教	近畿大学	リウマチ・膠原病一般	―

5 腎臓内科

近畿大学病院HP　診療科HP

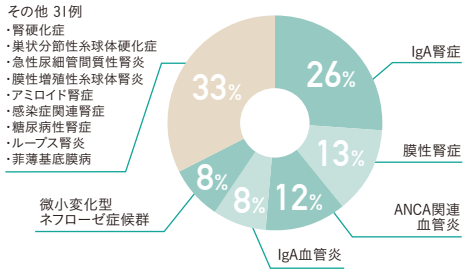
責任者／診療部長 有馬 秀二 主任教授

出身大学 東北大学
専門分野 腎臓病一般、血液浄化療法、高血圧
専門医資格 総合内科専門医・腎臓専門医・老年科専門医

特殊［専門］疾患

- 腎臓病一般
  急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、IgA腎症、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症・糖尿病関連腎臓病、腎硬化症、ループス腎炎、急速進行性糸球体腎炎、尿細管間質性腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病、慢性腎不全、遺伝性腎疾患（多発性嚢胞腎など）、ANCA関連血管炎、Fanconi症候群など
- 血液浄化療法
  （血液透析・腹膜透析・血漿交換療法・免疫吸着療法）による腎疾患・代謝性疾患の治療
- 高血圧一般
  - ・二次性高血圧
    （原発性アルドステロン症、腎実質性高血圧、腎血管性高血圧、クッシング症候群、褐色細胞腫、睡眠時無呼吸症候群など）
  - ・合併症を伴う高血圧
  - ・治療抵抗性・難治性高血圧、高血圧緊急症、妊娠高血圧症候群など

疾患別診療実績（患者数割合）



診療科の特徴

当科では腎臓病および高血圧の診療を行っています。いずれも水・電解質代謝や全身の多臓器に影響を及ぼすことから、当科では腎臓という専門領域はもとより、循環動態や電解質管理などを含めた広範囲にわたる知識と判断力を駆使した診療を心がけています。腎臓分野では、急性腎障害や慢性腎臓病（CKD）のみならず、遺伝性疾患や希少疾患を含めた全ての腎臓病の診断・治療を行い、各種電解質異常なども担当しています。腎臓病患者さんの食事を含めた生活指導・透析予防指導なども行っておりますので、指導目的のご紹介もお待ちしております。また、末期腎不全患者さんには腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）の導入を患者さんやご家族の意思、身体・生活状況を多角的に検討し、協同で意思決定を行いながら最適の方法を選択していきます。南大阪の基幹病院として合併症を含めたあらゆる腎臓病の診療を網羅するとともに、関連病院の先生方と連携を取りながら地域医療に貢献したいと考えています。高血圧分野では合併症を有する高血圧、難治性高血圧・妊娠高血圧や精査が必要な二次性高血圧の診断・治療を得意としておりますので、お困りの症例がございましたら、お気軽にご紹介ください。
当科では専門的見地に基づいた質の高い医療とともに、一人一人の患者さんに寄り添う全人的な医療を提供することを心がけております。

TOPICS 大阪府における慢性腎臓病対策（CKD連携／専門医への紹介基準）

慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease: CKD）は慢性に経過する腎疾患の全てを含めた概念で、腎障害の存在（尿蛋白など）と腎機能の低下という2つの要素のいずれか、または両方が3か月を超えて持続する病態です。極めて頻度が高く、国内の成人CKD患者数は約2000万人と推計されています。CKDが進行して腎不全に至ってしまうと透析や腎移植が必要になってしまうとともに、心筋梗塞や脳梗塞などの心血管病の合併リスクが高まります。大阪府ではかかりつけ医と専門医、および行政が診療連携ネットワーク（図）を構築して積極的なCKD対策を行っています。当院も基幹病院として参加しています。腎臓病について疑問などがありましたら、お気軽にご紹介ください。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
中谷 嘉寿	准教授／医局長	大阪医科大学（現 大阪医科薬科大学）	腎臓病一般、血液浄化療法、糖尿病	総合内科専門医・腎臓専門医・糖尿病専門医
坂口 美佳	講師	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医
村島 美穂	講師	京都大学	腎臓病一般、血液浄化療法	総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医
渡瀬 謙仁	医学部講師／病棟医長	徳島大学	腎臓病一般、血液浄化療法	総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医・老年科専門医
中野 志仁	医学部講師／外来医長	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	総合内科専門医・腎臓専門医
古林 法大	助教	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	腎臓専門医・透析専門医
髙橋 実代	助教	愛知医科大学	腎臓病一般、血液浄化療法	総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医
岡田 宜孝	助教	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	総合内科専門医・腎臓専門医
今西 茜衣里	助教	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	腎臓専門医
真鍋 昌平	助教	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	腎臓専門医
福田 雄基	助教	近畿大学	腎臓病一般、血液浄化療法	―

6 脳神経内科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 永井 義隆 主任教授

出身大学 大阪大学

専門分野 神経内科一般、神経変性疾患

特殊［専門］疾患

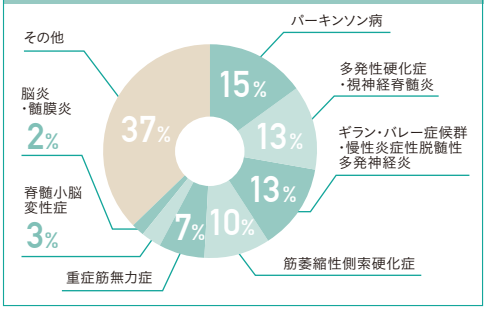
- 神経変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、ハンチントン病など）
- 不随意運動（本態性振戦、眼瞼痙攣、ジストニアなど）
- 中枢性脱髄性疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎など）
- 自己免疫性疾患（神経ベーチェット病、サルコイドーシスなど）
- 免疫性末梢神経障害（ギラン・バレー症候群、フィッシャー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）など）
- 遺伝性・代謝性末梢神経障害（シャルコー・マリー・トゥース病、家族性アミロイドーシスなど）
- 重症筋無力症、ランバート・イートン筋無力症候群
- 脳血管障害（脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作など）
- 筋疾患（筋ジストロフィー、多発性筋炎、ミトコンドリア病など）
- 代謝性疾患（ゴーシェ病、ファブリー病、ウィルソン病など）
- 感染性疾患（髄膜炎、脳炎、クロイツフェルトヤコブ病など）
- 頭痛（片頭痛、群発頭痛、筋緊張性頭痛など）、三叉神経痛
- てんかん
- その他、周期性四肢麻痺、ベル麻痺、中毒性疾患、腫瘍など

診療科の特徴

当科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気を診療する内科で、これらの病気では、歩行障害、ふらつき、手足の脱力やしびれ、ふるえ、呂律が回りにくい、物忘れ、めまい、立ち眩み、頭痛、眼瞼下垂、複視、けいれん、失神、意識障害など多彩な神経・筋症状が現れます。取り扱う病気はパーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、ハンチントン病などの神経変性疾患、脳梗塞、脳出血などの脳血管障害、片頭痛、筋緊張性頭痛などの頭痛、てんかん、多発性硬化症、視神経脊髄炎などの中枢神経の脱髄性疾患、ギラン・バレー症候群や慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、家族性アミロイドポリニューロパチーなどの免疫性・遺伝性・代謝性末梢神経障害、重症筋無力症、筋ジストロフィーや多発性筋炎などの筋疾患、髄膜炎、脳炎などの感染性疾患、先天性代謝異常症など多岐にわたります。

近畿大学病院脳神経内科は、1988年に大阪府下の大学病院では最初の独立した神経内科教室として開設され、以来専門的な脳神経内科診療を行っています。初代の高橋光雄教授の時代に専門的な脳神経内科診療を開始し、第2代目の楠 進教授の時代に、ギラン・バレー症候群などの免疫性末梢神経障害の日本国内外での中心的な教室へと成長しました。2021年から第3代目の永井義隆教授が着任し、これまでの実績に加えて、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、アルツハイマー病などの神経変性疾患の病態・治療研究を展開する、国内唯一の基礎と臨床が融合した教室へと発展しています。2025年の時点で、スタッフ約25名（うち日本神経学会専門医17名）が診療・研究を行っております。当科では、専門の脳神経内科医が丁寧な問診および詳しい神経学的診察を行い、MRI、SPECTなどの画像診断、脳波や筋電図などの電気生理学的検査、自己抗体や遺伝子検査などの生化学的検査の結果をふまえて病気を診断します。その上で、最新の知見に基づいた適切な治療を行っています。また、入院症例については、毎週医局員全員が参加するカンファレンスで十分に検討したうえで、診療方針を決定しています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

当科では、最先端の脳神経内科診療に加えて、開発中の新薬の治験など先進医療を行っております。特に高い実績があるギラン・バレー症候群などの免疫性末梢神経障害については、独自の自己抗体測定を行っており、全国の大学・病院からも測定の依頼があります。また、重症筋無力症や脳炎などを含めて免疫性神経疾患に対する新薬の治験を行っております。また、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などの神経変性疾患を含めて様々な疾患の遺伝子診断を行い、新薬の治験や最新の専門治療を行っております。アルツハイマー型認知症や片頭痛に対する抗体医薬治療、四肢痙縮や痙性斜頸に対するボツリヌス注射治療を行っておりますので、地域連携課を通じて、どうぞお問い合わせ下さい。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
三井 良之	教授	和歌山県立医科大学	神経内科一般、神経難病診療	神経内科専門医・総合内科専門医
平野 牧人	教授	大阪大学	神経内科一般、遺伝診療	神経内科専門医・臨床遺伝専門医・総合内科専門医
西郷 和真	教授	近畿大学	神経内科一般、遺伝診療	神経内科専門医・臨床遺伝専門医・総合内科専門医
桑原 基	講師／医局長	近畿大学	神経内科一般、神経免疫疾患	神経内科専門医・総合内科専門医
寒川 真	講師／病棟医長	近畿大学	神経内科一般、神経免疫疾患	神経内科専門医・総合内科専門医
田港 朝也	医学部講師	東北大学	神経内科一般	神経内科専門医
吉川 恵輔	医学部講師	近畿大学	神経内科一般	神経内科専門医
福本 雄太	医学部講師／外来医長	近畿大学	神経内科一般	神経内科専門医
寺山 敦之	助教	金沢医科大学	神経内科一般	神経内科専門医
坂田 花美	助教	福岡大学	神経内科一般	―
名村 仁志	助教	近畿大学	神経内科一般	―
道浦 徹	助教	近畿大学	神経内科一般	神経内科専門医
中村 寛人	助教	近畿大学	神経内科一般	―
久富 隆寛	助教	近畿大学	神経内科一般	―
平井 敦樹	助教	川崎医科大学	神経内科一般	―
山本 眞紀子	助教	愛知医科大学	神経内科一般	―

7 腫瘍内科

近畿大学病院HP　診療科HP

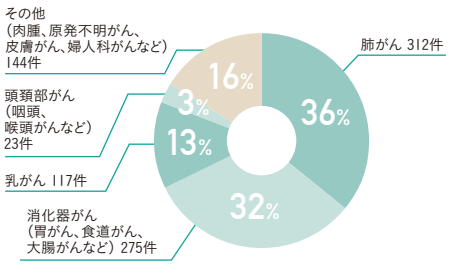
責任者／診療部長 林 秀敏 主任教授

出身大学 大阪大学
専門分野 肺がん、原発不明がん、薬物療法、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬、新規抗がん剤の臨床試験
専門医資格 総合内科専門医・がん薬物療法専門医・呼吸器専門医

特殊［専門］疾患

- 肺がん、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍
- 食道がん、胃がん、大腸がん
- 乳がん
- 頭頸部（咽喉頭・舌など）がん
- 肉腫、原発不明がん、その他希少がん
- その他全ての固形がんの薬物療法対象例

疾患別診療実績（患者数割合）



診療科の特徴

当科は、肺がん、食道がん、胃がん、結腸直腸がん、乳がん、頭頸部がん、肉腫、希少がん、その他固形がんに対する薬物療法を行っており、外来診療においては、各がん腫の専門外来の設置をする事で、患者さんに安心してがん治療を受けて頂ける体制を整えております。薬物療法に関しては、各がん腫に応じた新規抗がん剤の使用、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬を用いた治療など、がんの先端治療臨床試験（治験）への参加が可能となっております。また一方で、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬等の副作用に対する専門的なマネジメントも行える体制を整えております。
その他、各がん腫毎に腫瘍外科医、放射線腫瘍医との密接な連携（キャンサーボード）を行う事で集学的治療を行えるよう努めており、また、薬物療法と並行した緩和ケアを行う事で症状緩和にも努めております。
がんの診断および検査に関しては、気管支鏡、胸腔鏡、針生検などの検査による迅速な診断を行うとともに、採取した検体や手術検体を用いて遺伝子パネル検査とエキスパートによる解析、ゲノム診断を行うことで、あらたながん遺伝子に対しての新薬を使用できるようにするための治験も多くのがん腫の患者さんに対して積極的に行っております。最近では新たなタイプの薬剤である抗体薬物複合体（ADC、抗体薬に既存の抗がん剤が結合することでがん細胞を選択的に攻撃する）が開発され、既に乳がん、胃がん、肺がんで広く使用されています。当科はこれらの臨床開発にも初期から関わっており今後患者さんに新たな治療を提供できると考えております。
加えてAYA世代や高齢者医療に関してもサポートチームを形成し、包括的に診療を行っております。

TOPICS

現在がんの薬物治療は従来の抗がん剤に加えて、ある特殊ながん遺伝子の変化（変異）に対して効果を持つ分子標的治療薬や、患者さんの免疫を 利用してがんを攻撃する免疫チェックポイント阻害薬の3本柱で行われています。特に近年では免疫チェックポイント阻害薬の治療範囲が拡大しており、様々ながん種で多くの患者さんが免疫チェックポイント阻害薬治療を受けられるようになりました。一方で免疫による特殊な副作用（免疫関連有害事象）の対策も必要です。また、今後は新たなタイプの様々な免疫療法も登場することが予想されます。当科はいろいろな種類のがん患者さんの治療を行う腫瘍内科単科としては日本最大規模であり、数百件以上の免疫チェックポイント阻害薬による治療これまでに行っております。これらの治療経験や実績を生かし、免疫関連有害事象についても迅速に対応します。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
中川 和彦	特任教授	熊本大学	肺がんの早期診断・治療、固形がんの薬物療法、がんの分子標的治療、新規抗がん剤臨床試験、縦隔腫瘍の診断治療	―
米阪 仁雄	准教授	近畿大学	肺がんの診断、固形がんの薬物療法、呼吸器内視鏡、新規抗がん剤の臨床試験	がん薬物療法専門医
田中 薫	准教授／外来医長	近畿大学	肺がん、頭頸部がん、固形がんの薬物療法、肺がんの診断（気管支鏡、CTガイド下肺生検）、新規抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医・気管支鏡専門医・がん薬物療法専門医
吉田 健史	講師	近畿大学	固形がんの薬物療法、緩和ケア、新規抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医・がん薬物療法専門医
岩朝 勤	講師／医局長	近畿大学	薬物療法、乳がんの薬物療法、肺がんの診断、呼吸器内視鏡、抗がん剤の臨床試験	がん薬物療法専門医
谷﨑 潤子	講師／病棟医長	近畿大学	肺がん、頭頸部がん、原発不明がんの薬物療法、薬物療法（免疫チェックポイント阻害剤、分子標的薬）、新規抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医・がん薬物療法専門医
高濱 隆幸	医学部講師	香川大学	固形がんの診断・薬物療法、がんゲノム医療、新規抗がん剤の臨床試験	呼吸器専門医・がん薬物療法専門医
三谷 誠一郎	医学部講師	奈良県立医科大学	消化器がん・固形がんの薬物療法、新規抗がん剤（免疫チェックポイント阻害剤、分子標、的薬含）の臨床試験、消化器内視鏡	総合内科専門医・消化器病専門医・がん薬物療法専門医
稲垣 千晶	医学部講師	千葉大学	消化器がん・固形がんの薬物療法、新規抗がん剤（免疫チェックポイント阻害剤、分子標、的薬含）の臨床試験、消化器内視鏡	総合内科専門医・消化器病専門医・がん薬物療法専門医
渡邉 諭美	医学部講師	大阪市立大学	薬物療法、乳がんの薬物療法、肺がんの診断、呼吸器内視鏡、抗がん剤の臨床試験	がん薬物療法専門医
金村 宙昌	助教	熊本大学	肺がんの診断、固形がんの薬物療法、新規抗がん剤の臨床試験、呼吸器内視鏡	呼吸器専門医・がん薬物療法専門医
川中 雄介	助教	近畿大学	固形がんの薬物療法、固形がんの薬物療法、抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医
土肥 和佳	助教	琉球大学	肺がんの診断、固形がんの薬物療法、抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医
大倉 將生	助教	近畿大学	固形がんの薬物療法、固形がんの薬物療法、抗がん剤の臨床試験	―
村田 大樹	助教	佐賀大学	固形がんの薬物療法、固形がんの薬物療法、抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医
杉原 綾乃	助教	愛媛大学	固形がんの薬物療法、固形がんの薬物療法、抗がん剤の臨床試験	総合内科専門医

8 呼吸器・アレルギー内科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 松本 久子 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 呼吸器疾患、重症喘息、気管支拡張症・難治性気道疾患、COPD、慢性咳嗽、アレルギー内科
専門医資格 総合内科専門医・呼吸器専門医・アレルギー専門医・感染症専門医・気管支鏡専門医

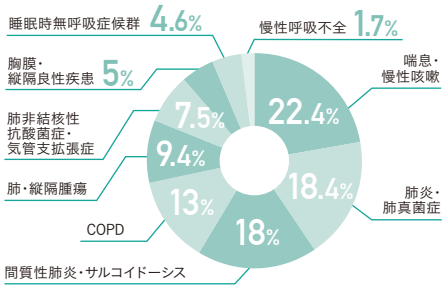
特殊［専門］疾患

- 気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、慢性咳嗽、気管支拡張症
- 特発性間質性肺炎、サルコイドーシスなどの間質性肺疾患
- 肺非結核性抗酸菌症、肺真菌症などの呼吸器感染症
- 急性（ARDS）・慢性の呼吸不全
- 睡眠時無呼吸症候群
- 肺高血圧症
- じん肺、アスベスト肺などの職業性肺疾患
- 肺がんなどの悪性疾患
- 胸膜炎、胸水、気胸などの胸膜疾患

診療科の特徴

当科は、気道、肺、胸膜、縦隔を含む呼吸器系の疾患を対象とした専門領域です。慢性疾患（喘息、慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、気管支拡張症、間質性肺炎など）、感染症（肺炎、結核、非結核性抗酸菌症など）、急性・慢性の呼吸不全、腫瘍性疾患（肺がん、胸膜中皮腫）、睡眠時無呼吸症候群や肺高血圧症、肺血栓塞栓症などが含まれます。気道・肺は直接外界に接するためアレルギー・免疫異常を呈しやすく、様々な全身性疾患に合併することも多いです。どの疾患も呼吸困難や咳嗽、痰、胸痛など、日常生活に大きな影響を与える症状を伴い、放置すると生命に関わる疾患が多いため、早期診断と継続的な管理が重要です。
当科では大学病院の責務として、難治例・重症例を積極的に受け入れています。丁寧な問診を含めた総合診療力と、画像診断、呼吸機能検査、喀痰検査、気管支鏡、CTガイド下肺生検、胸腔鏡、右心カテーテル検査、アプノモニター、ポリソムノグラフィーなど多様な検査を駆使し、早期診断、正確な病態の把握に努めています。重症喘息やCOPDに対する生物学的製剤の導入、進行性肺線維症に対する抗線維化薬の導入や合併する肺高血圧症に対するアプローチなど、ガイドライン・最新の知見に基づいた治療・管理を行うとともに、新薬の治験も行っています。薬物治療に加えて、リハビリテーション部門など多職種と連携し、患者さんに寄り添いながら自己治癒力の促進を図ることで、多様な呼吸器疾患・病態に対して包括的な対応を行っています。また地域の医療機関との病病連携、病診連携を推進し、予防医療にもつとめ地域医療全体の向上を目指しています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

- 気道系疾患では、重症喘息・COPDに対する生物学的製剤の導入、難治性慢性咳嗽に対する系統的アプローチ、気管支拡張症・COPDに対する呼吸リハビリを含めた集学的治療を行っています。新薬の治験も行っていますので、重症喘息、慢性難治性咳嗽、気管支拡張症でお困りの場合は是非ご紹介ください。
- 間質性肺疾患では、クライオ肺生検を行い、診断精度向上のため呼吸器内科医、放射線科医、病理医による合議（MDD: multidisciplinary discussion）を取り入れ、間質性肺疾患の診断を積極的に行い、新薬の治験も行っています。間質性肺疾患でお困りの場合は是非ご紹介ください。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
東田 有智	特任教授	近畿大学	呼吸器内科、アレルギー内科	アレルギー専門医・呼吸器専門医・気管食道科専門医
吉田 耕一郎	教授	川崎医科大学	呼吸器感染症、院内感染対策、深在性真菌症	総合内科専門医・感染症専門医
佐野 博幸	教授	鳥取大学	気管支喘息の診断と治療、アレルギー性肺疾患の診療と治療、COPDの診断と治療	アレルギー専門医・呼吸器専門医・呼吸器内視鏡専門医
西山 理	准教授	名古屋大学	間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、びまん性肺疾患、呼吸リハビリテーション、肺高血圧症、肺感染症	アレルギー専門医・総合内科専門医・気管支鏡専門医・呼吸器専門医・感染症専門医・がん薬物療法専門医・気管食道科専門医
佐野 安希子	医学部講師／病棟医長	鳥取大学	気管支喘息の診断と治療、アレルギー性疾患の診断と治療、	アレルギー専門医・呼吸器専門医・総合内科専門医・気管支鏡専門医・感染症専門医
西川 裕作	医学部講師／医局長	近畿大学	呼吸器疾患、アレルギー疾患	アレルギー専門医・呼吸器専門医・総合内科専門医
大森 隆	医学部講師／外来医長	近畿大学	呼吸器疾患、アレルギー疾患	―
山﨑 亮	医学部講師	近畿大学	呼吸器疾患、アレルギー疾患、間質性肺炎、びまん性肺疾患、呼吸リハビリテーション、肺高血圧症	呼吸器専門医
吉川 和也	助教	近畿大学	呼吸器疾患、アレルギー疾患	呼吸器専門医・アレルギー専門医・総合内科専門医
國田 裕貴	助教	近畿大学	呼吸器疾患、アレルギー疾患	―
川端 慶之	助教	近畿大学	―	―

9 メンタルヘルス科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 橋本 衛 主任教授

出身大学 大阪大学
専門分野 精神科全般、老年期精神医学（認知症、うつ病）、高次脳機能障害
専門医資格 精神科専門医・（※）

特殊［専門］疾患

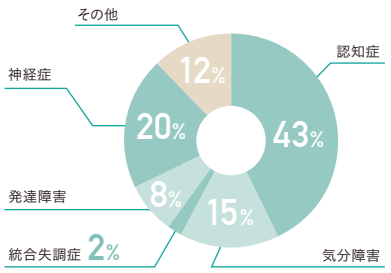
児童期、思春期、青年期、成人期、老年期におけるこころの病を幅広く扱っています。

- 児童期
  注意欠如・多動症や自閉スペクトラム症といった神経発達症や不安障害、不登校など（※小学生未満は扱っておりません）
- 思春期、青年期
  不登校、不安障害、うつ病や双極性障害などの気分障害、統合失調症など
- 成人期
  うつ病や双極性障害などの気分障害、統合失調症、不安障害、ストレス関連障害など
- 老年期
  認知症、うつ病、老年期精神病など

診療科の特徴

当科では、児童期から思春期、青年期、成人期、老年期にいたるまで幅広く、メンタルヘルス全般の障害や疾患の診療を行っています。こころの病には、患者さんの性格や体質に加えて、生い立ちや生活環境など多様な要因が関与しますので、一人一人の患者さんに対して十分な時間をかけて診察しています。
専門外来として物忘れ診断外来と小学生外来があります。本邦の高齢化の進展とともに、認知症患者さんも年々増加しています。当科では、認知症専門医が早期認知症センターと協働で、認知症の早期診断、MRIやアミロイドPET検査などの神経放射線画像検査、アルツハイマー病に対する抗アミロイドβ抗体治療、認知症に伴う精神症状や行動障害への対応など、最先端の認知症診療を行っています。小学生外来では、「学校で落ち着きがない」といった症状や不登校などの問題を抱える小学生に対して、専門医が診断、治療にあたっています。
外来には熟練した心理士が配属され、知能、人格、高次脳機能など、詳細な心理面の評価が可能です。また患者さんの生活面の困りごとに対して、精神保健福祉士がいつでも相談できる体制を整えています。
身体の病気で入院中の患者さんが、気分の落ち込みや不安、不眠、せん妄などのメンタル面の不調をきたすことは少なくありません。またメンタル面の不調から、自死を試みた患者さんが救急で搬送されてくるケースも年々増加しています。このような入院患者さんに対して、当科の医師、心理士、精神保健福祉士などの多職種チームが協働で、メンタル面へのサポートを行っています。近畿大学病院には現在精神科病床がありませんので、メンタル面の不調が顕著で精神科専門病院での入院対応が必要な患者さんに対しては、南大阪地域の精神科専門病院と連携して対応しています。
当科では、大学病院の特徴である高度で専門的な精神医療に加えて、南大阪地域に密着した精神科医療を実践しております。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

アルツハイマー病は脳の中にアミロイドβと呼ばれるたんぱく質が異常に蓄積し、神経細胞が障害されることによって記憶や判断力などの認知機能が低下し、日常生活に支障が生じる病気です。従来の治療薬は病気の原因には作用せず、病気の進行を遅らせることはできませんでした。しかし令和5年12月に、本邦で初めてアミロイドβを取り除き、認知症の進行を遅らせる薬剤（抗アミロイドβ抗体）が発売され、現在2種類の薬剤が使用できるようになりました。この薬剤は、適応となる患者さんの診断が難しく、副作用への対応にも高度な認知症専門医療が求められるため、治療可能な施設が限定されます。当科では、令和6年3月より抗アミロイドβ抗体治療を行っていますので、この治療を希望される場合は当科外来にご相談ください。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
柳 雅也	准教授／医局長	神戸大学	精神科全般、気分障害（双極性障害・うつ病）	精神科専門医・（※）
佐久田 静	医学部講師	熊本大学	精神科全般	精神科専門医・（※）
山形 祥礼	助教／外来医長	川崎医科大学	精神科全般	精神科専門医・（※）
森本 拓頌	助教	近畿大学	精神科全般	（※）
林 宏樹	助教	近畿大学	精神科全般	―
瀧川 清統	助教	近畿大学	精神科全般	―
中田 翼	助教	近畿大学	精神科全般	―

（※）…精神保健指定医

10 小児科・思春期科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 杉本 圭相 主任教授

出身大学 近畿大学
専門分野 腎臓疾患、ネフローゼ症候群、膠原病、リウマチ性疾患、夜尿症、心身症
専門医資格 小児科専門医・腎臓専門医

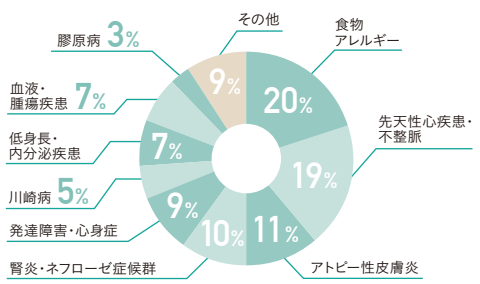
特殊［専門］疾患

- 腎臓病・腎不全
- 血液疾患（白血病、再生不良性貧血など）
- 悪性新生物（神経芽細胞腫、悪性リンパ腫など）
- アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギー）
- 膠原病（全身性エリテマトーデス）、リウマチ性疾患
- 先天性免疫不全症
- 感染症
- 神経（主にてんかん）・筋疾患
- 消化器疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群など）
- 内分泌（低身長症・甲状腺疾患など）
- 神経発達症（自閉スペクトラム症、注意欠如多動症など）
- 心身症（起立性調節障害など）
- 難治性夜尿症

診療科の特徴

当科は、“すべての子どもたちに、最良の医療を”をモットーに、新生児から思春期・若年成人まで幅広い年代の診療に対応しています。専門性の高いスタッフが一人ひとりの子どもと真摯に向き合い、最適な医療を提供しています。
新生児医療では、NICU（新生児集中治療室）を備え、低出生体重児やハイリスク新生児の治療に取り組んでいます。さらに、ドクターカーによる新生児搬送体制も整備し、地域の周産期医療を力強く支えています。
循環器領域では、先天性心疾患に対するカテーテル治療を年間50件以上実施。胎児期からの診断・治療介入、成人期への移行支援まで一貫した診療体制を誇ります。腎臓疾患や膠原病では、腎生検に基づく正確な診断と最先端の治療を展開。アレルギー疾患では、生物学的製剤の導入や食物経口負荷試験などにより、個別に最適化された医療を提供しています。血液・腫瘍疾患においては、幹細胞移植や個別化化学療法を駆使し、治療の精度と安全性を両立。内分泌・代謝疾患には成長ホルモン治療などを取り入れ、子どもたちの健やかな成長を支援しています。
また、思春期特有の課題にも力を入れています。起立性調節障害、摂食障害、心身症、発達障害など、身体と心の両面にわたる診療を、心理士や教育機関と連携して行っています。
地域の医療機関との連携も大切にし、紹介患者さんの受け入れ体制を強化。専用ダイレクトコールを設けるなど、スムーズな診療につなげています。教育・研究・臨床のすべてを支える大学病院として、南大阪の小児医療の未来を切り拓いてまいります。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

当科では、専門性と総合力を兼ね備えたチーム医療を展開しています。先天性心疾患のカテーテル治療は年間50件以上を実施し、胎児期から成人移行期まで一貫したフォローアップを実現。腎疾患・アレルギー・血液腫瘍領域でも最新の治療法を導入し、高度な専門診療を行っています。さらに、思春期の心身の不調や発達障害にも多職種連携で丁寧に対応。紹介専用ダイレクトコールや新生児搬送体制を整え、地域の皆さまとともに、すべての子どもたちの“いま”と“未来”を守る医療を実践しています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
和田 紀久	教授	愛知医科大学	新生児疾患	小児科専門医・周産期（新生児）専門医
稲村 昇	教授	旭川医科大学	先天性心疾患、成人先天性心疾患、胎児心臓病学、カテーテルインターベンション、画像診断	小児科専門医
坂田 尚己	准教授	和歌山県立医科大学	血液疾患・悪性腫瘍	小児科専門医・血液専門医
丸谷 怜	講師／医局長	近畿大学	先天性心疾患、成人先天性心疾患、川崎病心病変	小児科専門医
平松 英文	講師	京都大学	血液疾患・悪性腫瘍	小児科専門医・血液専門医
竹村 豊	医学部講師	近畿大学	アレルギー疾患	小児科専門医・アレルギー専門医
宮崎 紘平	医学部講師	近畿大学	腎疾患・ネフローゼ症候群、膠原病、感染症	小児科専門医・腎臓専門医
小西 悠平	医学部講師	近畿大学	新生児疾患	小児科専門医・周産期（新生児）専門医
今岡 のり	医学部講師／病棟医長	近畿大学	先天性心疾患、胎児心臓病学、川崎病心病変	小児科専門医
西 孝輔	助教／外来医長	近畿大学	先天性心疾患	小児科専門医
森本 優一	助教	川崎医科大学	小児一般、腎疾患・ネフローゼ症候群、膠原病	小児科専門医・腎臓専門医
龍神 雅子	助教	近畿大学	小児一般、心身症、発達障害	小児科専門医
益海 英樹	助教	近畿大学	小児一般、先天性心疾患	小児科専門医
久家 沙希那	助教	近畿大学	小児一般、新生児疾患	小児科専門医
上原 悠	助教	川崎医科大学	小児一般	小児科専門医
笹井 美伶	助教	近畿大学	小児一般、新生児疾患	小児科専門医

11 外科（上部消化管）

近畿大学病院HP　診療科HP

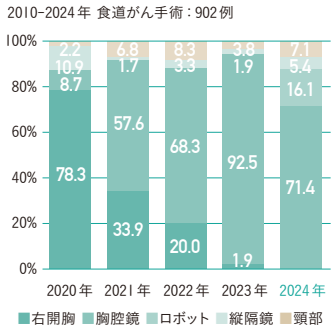
責任者／診療部長 安田 卓司 主任教授

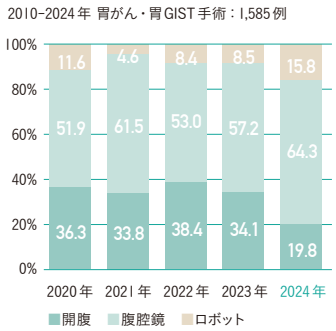
出身大学 大阪大学
専門分野 上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患、食道がん・胃がんの外科治療を中心とした集学的治療
専門医資格 外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・気管食道科専門医

特殊［専門］疾患

- 頸部および胸部食道がん
- 食道胃接合部がん
- 胃がん
- 食道粘膜下腫瘍
- 胃粘膜下腫瘍（GIST）
- 食道憩室
- 食道裂孔ヘルニア・横隔膜ヘルニア
- 食道アカラシア
- 逆流性食道炎
- 特発性食道破裂
- 胃・十二指腸潰瘍穿孔
- 術後再建困難症例など

疾患別診療実績（患者数割合）





診療科の特徴

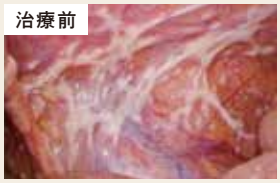
◎**高度医療を提供する専門施設**…食道がん・胃がんに対する食道外科専門医認定施設および日本胃癌学会施設認定Aを取得しています。
◎**キャンサー・ボード**…消化器外科・消化器内科・腫瘍内科・放射線治療科による合議を経て症例ごとに最先端で最良の方針を決定し、密な連携の基に迅速に治療を提供します。
◎**低侵襲外科手術**…進行がんにも胸腔鏡・腹腔鏡手術やロボット（Da Vinci、hinotori）支援手術を積極的に適応して手術侵襲を軽減し、周術期の安全性や生活の質の向上を図っています。
◎**「声を残してがんを治す」頸部食道がん治療**…化学療法、放射線療法、そして我々が開発した喉頭温存手術手技を駆使してがんの根治と発声機能の温存に取り組んでいます。
◎**可能性を追求する諦めない外科治療**
・**切除不能他臓器浸潤進行食道がん**…集学的治療と我々の開発した左右胸腔アプローチ法や浸潤臓器合併切除によって根治切除の可能性を追求します。
・**腹膜播種陽性進行胃がん**…治療困難な腹膜播種症例に対しても腹腔内化学療法が提供できる体制を整え、他院で治療を受けられた方も含め、積極的に治療を行っています。
◎**スタッフ全員による医療安全**…毎朝全員で入院患者の検査データの確認と回診を行い、病状の変化に対して遅滞なく対応することで、進行・高難度症例を対象にしているにもかかわらず、治療関連死はゼロで、縫合不全も3%にとどまっています。
◎**他職種連携チーム医療**…嚥下および呼吸リハビリや歯科衛生士による口腔ケアなどを積極的に実施し、食道がん術後の誤嚥や術後の肺炎の発症は、食道外科専門医認定施設の平均13.9%に対して当院では6.4%です。
◎**原則受診後1週間で診断と治療方針決定**…複数の治療を組み合わせて根治を目指す時代ですが、治療の順番が変わると結果も変わります。最適の治療法の決定には正確な進行度診断が不可欠で、可能な限り1週間で完了して治療に入ることを原則としています。

TOPICS

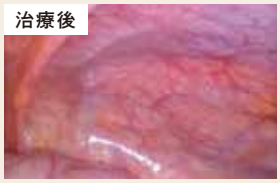
当科はあらゆる進行度の食道がん・胃がんに対応しますが、特に治療困難または切除不能とされた進行がんに対して関連診療科との連携・協力と独自に開発した術式を駆使して根治の可能性を追求します。「声を残せない（喉頭合併切除）」といわれた頸部食道がんも、半数以上で音声温存手術が可能です。気管あるいは大動脈に浸潤を疑うために切除不能といわれた胸部食道がんも、治療奏効例には積極的に手術を行っています。切除不能である腹膜播種陽性胃がんも、治癒切除が可能になる腹腔内化学療法を提供する体制を整えています。
南大阪の最後の砦として『諦めない治療』を提供します。

胃がん腹膜播種に対する腹腔内化学療法

治療前



治療後



医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
今野 元博	教授	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患、腹膜播種胃がんに対する腹腔内化学療法	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・細胞診専門医・気管支鏡専門医
新海 政幸	准教授	神戸大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患、胃がんに対する集学的的治療	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医
安田 篤	准教授	山梨医科大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患、胃がんに対する腹腔鏡下手術（技術認定医）、胃がんに対する集学的的治療	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医
白石 治	准教授／外来医長	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患、食道がんに対する胸腔鏡下手術（技術認定医）、食道がんに対する集学的的治療	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医
加藤 寛章	講師	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患、胃がんに対する腹腔鏡下手術（技術認定医）、胃がんに対する集学的的治療	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医
平木 洋子	医学部講師	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患	外科専門医
中西 智也	助教	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患	外科専門医・消化器外科専門医
好田 匡志	助教	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患	外科専門医
寺田 長央	助教	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患	外科専門医
山田 淳史	助教	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患	外科専門医
神波 奈央子	助教	近畿大学	上部消化管（食道・胃）悪性・良性疾患	外科専門医

11 外科（下部消化管）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 川村 純一郎 主任教授

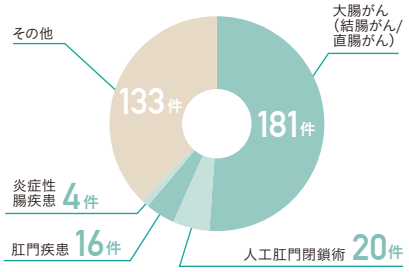
出身大学 京都大学
専門分野 下部消化管、内視鏡外科
専門医資格 外科専門医・消化器外科専門医

特殊［専門］疾患

下部消化管部門では、大腸がん（結腸がん・直腸がん）に対する先進的な外科手術を専門に行っています。特に、ロボット手術・腹腔鏡手術を中心とした低侵襲手術を積極的に取り入れ、多くの患者さんに提供しています。
また、従来の外科的切除のみでは根治が難しかった高度進行直腸がんに対しては、術前化学療法や術前放射線化学療法を組み合わせた集学的治療を行い、治療成績の向上を目指しています。

- 大腸がん（結腸がん、直腸がん）
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
- 小腸腫瘍（悪性リンパ腫、消化管間質腫瘍［GIST］）
- 後腹膜、腸間膜脂肪肉腫

疾患別診療実績（患者数割合）



診療科の特徴

◎内視鏡外科学会 技術認定医５名が在籍し、その高い技術力を生かしたハイクオリティな手術を提供します。
◎最新の手術支援ロボット（ダヴィンチ Xi, ヒノトリ）や腹腔鏡システム（4K高解像度カメラと近赤外線光イメージング）など充実した設備を導入しています。
◎外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線科が合同で行うキャンサーボードで、標準治療から先進医療まで、患者さん一人一人に最適な治療を立案しています。
◎直腸がん・結腸がんに関わらず、ロボット支援下手術を基本としています。また症例によっては腹腔鏡手術を行っています。
◎直腸がんに対しては約90%にロボット支援下手術を行っています。排尿・性機能温存に努めています。
◎肛門近傍の下部直腸がんに対しては、括約筋間切除（究極の肛門温存手術）により肛門温存を目指します。また進行直腸がんに対しては、抗がん剤治療や放射線治療を組み合わせること（術前化学放射線治療などの集学的治療）により根治を目指します。
◎再発直腸がんに対しても可能な限り腹腔鏡手術で行っています。
◎炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）は消化器内科と連携し、最適な手術時期を決定しています。
◎人工肛門を要する患者さんのケアに関しては、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）と連携を取りながら実践しています。

TOPICS 手術支援ロボット（ダヴィンチXi・ヒノトリ）を用いた大腸がん手術

ロボット支援下手術は、2018年４月より直腸がんに対する直腸切除・切断術で保険適用となりました。直腸周囲には重要な神経が走行しており、これらを損傷すると性機能障害や排尿障害などが引き起こされます。狭く深い骨盤内でこれらの神経を温存することは容易ではありませんが、ロボット支援下手術では、人の手以上の可動域をもつ関節機能や手ぶれ補正機能によって、開腹手術・腹腔鏡下手術以上に繊細な操作が可能です。その結果、がんの根治性に加えて機能温存率の向上が期待できます。当院では、現在ほとんどの直腸がんに対してロボット支援下手術を行っております。また、2022年４月の診療報酬改定により、結腸がんにもロボット支援下手術の適応が拡大されました。これに伴い、直腸がんと同様に多くの結腸がんに対しても、ロボット支援下手術を実施しています。
さらに、2024年10月からは、従来使用していたダヴィンチ Xi（da Vinci Xi）に加え、国産手術支援ロボットであるヒノトリ（hinotori）を導入し、大腸がん手術を開始いたしました。これまで培ってきた豊富な経験をもとに、２種類の手術支援ロボットを活用することで、従来以上に安全性が高く侵襲の少ない治療を提供できるよう取り組んでおります。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
上田 和毅（内視鏡外科部門）	教授	近畿大学	下部消化管・内視鏡外科	外科専門医・大腸肛門病専門医・消化器外科専門医
所 忠男	准教授	近畿大学	下部消化管・内視鏡外科	外科専門医・大腸肛門病専門医・消化器内視鏡専門医・消化器外科専門医
岩本 哲好	准教授	浜松医科大学	下部消化管・内視鏡外科	外科専門医・消化器外科専門医
大東 弘治（内視鏡外科部門）	医学部講師／医局長	近畿大学	内視鏡外科・下部消化管	外科専門医
吉岡 康多	医学部講師	近畿大学	下部消化管・内視鏡外科	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医・大腸肛門病専門医
村上 克宏	医学部講師	金沢医科大学	下部消化管・内視鏡外科	外科専門医
家根 由典（内視鏡外科部門）	医学部講師	近畿大学	内視鏡外科・下部消化管	外科専門医・消化器外科専門医
梅田 一生	助教	近畿大学	下部消化管・内視鏡外科	外科専門医・消化器外科専門医
波江野 真大（内視鏡外科部門）	助教	近畿大学	内視鏡外科・下部消化管	外科専門医

11 外科（内視鏡外科）

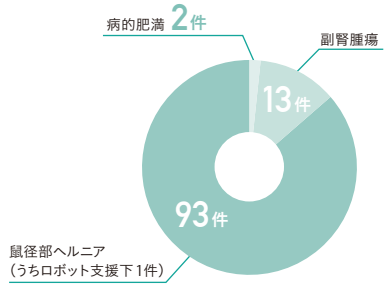
近畿大学病院HP　診療科HP

責任者 上田 和毅 教授
出身大学 近畿大学
専門分野 内視鏡外科、下部消化管
専門医資格 外科専門医・大腸肛門病専門医・消化器外科専門医

特殊［専門］疾患

- 病的肥満
- 副腎腫瘍（副腎偶発腫瘍、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、傍神経節腫、副腎がん）
- ヘルニア疾患（鼠径部ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア）、閉鎖孔ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア

疾患別診療実績



診療科の特徴

◎当部門に所属する医師は、外科の他の部門に所属しつつ、低侵襲（内視鏡外科）手術を専門に行っており、各種疾患に対する新たな手術手技の開発、技術向上、教育、普及に積極的に取り組んでいます。

◎**病的肥満に対する内視鏡外科治療**
初診時より、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、整形外科、麻酔科、栄養管理部門と密に連携し、併存疾患の評価と治療、外科治療に向けた自己管理の徹底、術前の減量支援行っています。
＊初診からすぐに手術を行うことはなく、現在は紹介患者に限り対応しております。
手術適応を満たし、ご本人および家族の同意が得られ、減量に前向きな姿勢が確認された患者さんに対して、腹腔鏡下胃袖状（スリーブ）切除術を実施します。

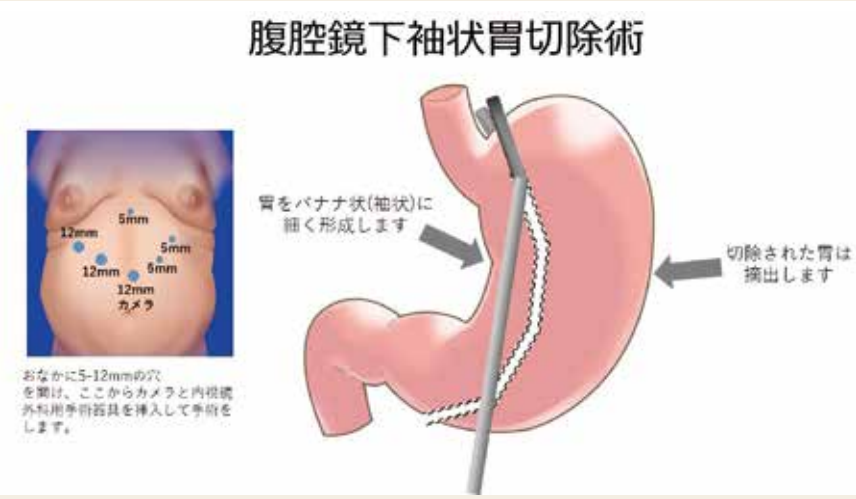
◎**副腎腫瘍に対しての外科治療**
内分泌・代謝・糖尿病内科との緊密な連携のもと、手術適応を慎重に判断し、腹腔鏡下副腎摘除術を通じて、できる限り低侵襲で安全な手術を提供しています。

◎**ヘルニア疾患に対する治療体制**
当院では専門の「ヘルニア外来」を設置し、個々の症例に応じた最適な治療法を検討しています。主に腹腔鏡下による低侵襲手術を行っており、特に鼠径（そけい）ヘルニアに対してはロボット支援下ヘルニア修復術（自費診療）による治療も実施しています。

◎**その他の低侵襲手術への取り組み**
上記以外の疾患に対しても、各外科診療部門と連携を図りながら、より身体への負担を少なくすることを目的に、細径鉗子を用いた内視鏡外科手術、単孔式腹腔鏡下手術、腹腔鏡下胃内手術など、先進的な手術手技を積極的に導入しています。

TOPICS 病的肥満に対する減量・代謝改善手術（腹腔鏡下スリーブ（袖状）胃切除術）について

腹腔鏡下スリーブ（袖状）胃切除術は、胃の大部分（約80%）を切除し、バナナのように細長い形状の胃を残す手術です（図）。この手術により、食事量の制限に加えて、食欲に関するホルモンが抑制されることで、効果的な体重減少が期待されます。
本術式は腹腔鏡下行われるため、傷が小さく、術後の痛みも比較的軽度です。加えて回復も早く、入院期間も術後およそ5日程度とされています。また長期的な体重減少効果が報告されており、病的肥満に伴って発症する、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症の改善も期待されます。
なお、この手術はすべての肥満患者さんが対象となるわけではなく、厳格な適応基準が設けられています。原則としてBMI32以上の方が対象となり、加えて学会が定める一定の併存疾患の有無によって適応が判断されます。



当院では、術前から術後まで継続的なチーム医療体制を整えています。内科、外科による医学的管理に加え、栄養管理部門による食事指導、メンタルヘルス科による心理サポートなど、他職種が連携し、患者さん一人ひとりに合わせた包括的なサポートを提供しています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
安田 篤	准教授	山梨医科大学	内視鏡外科、上部消化管	外科専門医・消化器病専門医・消化器外科専門医
大東 弘治	医学部講師／医局長	近畿大学	内視鏡外科、下部消化管	外科専門医
家根 由典	医学部講師	近畿大学	内視鏡外科、下部消化管	外科専門医・消化器外科専門医
波江野 真大	助教	近畿大学	内視鏡外科、下部消化管	外科専門医

11 外科（肝胆膵）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 松本 逸平 主任教授

出身大学 大阪医科大学（現大阪医科薬科大学）
専門分野 肝胆膵
専門医資格 外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医

特殊［専門］疾患

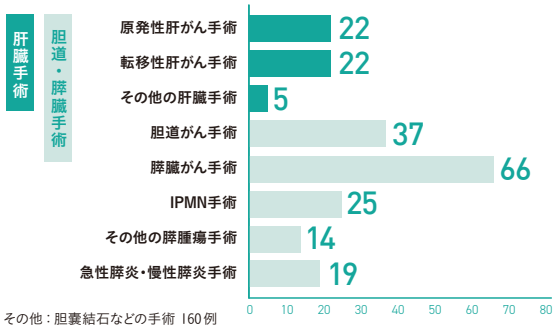
肝がん、胆道がん、膵がんをはじめとする、あらゆる肝胆膵疾患に対し先進的高度医療を提供します。
消化器内科、腫瘍内科、放射線科とも連携し、個々の患者さんに、最良の医療を提供いたします。

- 膵臓疾患
  膵がん、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）、膵神経内分泌腫瘍、膵嚢胞性腫瘍・その他の膵腫瘍、急性膵炎、慢性膵炎
- 胆道疾患
  胆道がん（肝内胆管がん、肝門部領域胆管がん、遠位胆管がん、胆嚢がん、十二指腸乳頭部がん）、十二指腸がん、膵・胆管合流異常、胆石症・急性胆嚢炎・胆嚢ポリープなどの良性疾患
- 肝臓疾患
  原発性肝がん、転移性肝がん、その他の肝腫瘍、肝内結石症、肝嚢胞

診療科の特徴

近年、肝胆膵疾患、とりわけ膵がん、胆道がんにおける罹患率は上昇傾向にあります。これらの疾患は診断、治療が容易でなく、安全な手術には高度な技術が必要とされています。当科は日本肝胆膵外科学会の修練施設Aに認定されています。年間の手術件数450件、そのうち学会が指定する高難度肝胆膵手術を年間130件以上実施し、全国有数の手術症例数を誇ります。安全、安心な肝胆膵外科治療の実践と発展のため、日々診療・研究・教育に取り組んでいます。さらに肝胆膵がんなどの悪性疾患だけでなく、良性疾患も含めたあらゆる肝胆膵疾患の外科治療を行っていることも特徴です。
特に膵がん、胆道がん、肝がんでは化学療法や放射線療法と手術を組み合わせた集学的治療により、近年着実に治療成績の向上がみられています。診断時切除不能でも長期間の化学療法や化学放射線療法により外科切除が可能となる症例も増加しています。このような症例では、他臓器合併切除や門脈・動脈合併切除再建など高難度の拡大手術となりますが、粘り強く最後まで諦めない外科治療を実践しています。当院では消化器内科をはじめ、他診療科・他部門との緊密な連携と協力により、個々の患者さんに最善の高度医療を提供するとともに、更なる治療成績向上を目指して新規集学的治療開発にも多く取り組んでいます。
一方、低侵襲である腹腔鏡・ロボット手術や臓器機能温存手術も積極的に行っています。特に膵疾患では術後糖尿病予防などを目的とした臓器機能温存、術後QOLに配慮した手術も行っています。急性膵炎・慢性膵炎に対する外科治療も数多く行っており、他院で治療に難渋した症例が遠方からも多数紹介されます。地域での重症患者の転送や受け入れが円滑に行えるよう、南大阪地域における急性膵炎診療の地域連携システム構築会議も年1回行っています。また、high volume centerの強みを活かし、患者さんを対象とした患者会や勉強会を実施し、日常生活や食生活など患者さんのQOL向上に向けた取り組みも積極的に行っています。

疾患別診療実績（2024年手術件数）



その他：胆嚢結石などの手術 160例
その他の手術　74例

TOPICS 患者さんに優しい肝胆膵手術の実現に向けて

外科治療における最優先事項は、疾患を安全かつ確実に治癒させることにあります。当科では、術後合併症の低減を目的に新規術式の開発や手技の工夫に継続的に取り組んでまいりました。そのうえで、安全性および根治性が担保される場合には、術後QOLの向上を重視した低侵襲・機能温存手術を積極的に導入しています。具体的には、腹腔鏡やロボット支援手術（ロボット肝切除、膵頭十二指腸切除など）による低侵襲で整容性に優れた手術を行っています。また、膵腫瘍核出術、膵中央切除、脾臓温存尾側膵切除など、機能温存を目的とした術式も積極的に実施し、可能な限り臓器機能の温存を図っています。さらに、糖尿病内科との共同研究を通じて、術後糖尿病の予測・予防・管理にも注力しています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
亀井 敬子	准教授	金沢医科大学	膵臓・胆道疾患	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医
武部 敦志	講師	神戸大学	肝臓・胆道疾患	外科専門医・消化器外科専門医・肝臓専門医
村瀬 貴昭	医学部講師／病棟医長	近畿大学	肝胆膵疾患	外科専門医・消化器外科専門医
吉田 雄太	医学部講師	近畿大学	肝胆膵疾患	外科専門医
登 千穂子	医学部講師	香川大学	肝胆膵疾患	外科専門医・消化器外科専門医・肝臓専門医
阿見 勝也	助教	島根大学	肝胆膵疾患	外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医・肝臓専門医
中野 大哉	助教	近畿大学	肝胆膵疾患	外科専門医

11 外科（呼吸器）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 津谷 康大 主任教授
出身大学 広島大学
専門分野 呼吸器（肺、縦隔）
専門医資格 外科専門医・呼吸器外科専門医

特殊［専門］疾患

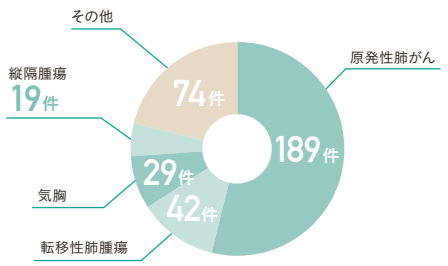
原発性肺がん・転移性肺腫瘍などの肺悪性腫瘍、胸腺がん・胸腺腫などの縦隔腫瘍を代表とする胸部腫瘍に対して高度医療を提供する専門施設で、外科・内科・放射線科と連携して、個々の患者さんに最適と思われる最先端の治療を提供しています。気胸・膿胸などの良性疾患を含めて、様々な胸部疾患に幅広く対応しています。

- 原発性肺がん
- 転移性肺腫瘍
- 胸腺がん
- 胸腺腫
- その他の肺腫瘍・縦隔腫瘍・胸壁腫瘍・胸膜腫瘍
- 気胸などの嚢胞性肺疾患
- 膿胸
- その他の胸部良性疾患

診療科の特徴

当科では、肺がんを中心とする胸部の病気に対し、患者さん一人ひとりに最適な手術や治療を提供しています。私たちは常に最新の医学的根拠（エビデンス）に基づいた診療を行っており、安全で質の高い医療を目指しています。
当科の特徴のひとつは、手術による身体への負担をできるだけ抑える「低侵襲手術」の積極的な導入です。胸に小さな穴を開けて行う胸腔鏡手術や、より精密で繊細な操作が可能なロボット支援手術を多数行っており、痛みや入院期間を抑えた治療が可能です。特に早期の肺がんに対しては、肺を必要以上に取り除かずに、病変だけを的確に切除する「区域切除」を専門的に実施しており、呼吸機能や生活の質（QOL）を保つことに努めています。この分野での経験と実績は全国的にも高く評価されています。
また、手術だけでなく、薬による治療（化学療法・分子標的薬・免疫療法）との組み合わせによる「周術期治療」にも力を入れています。当科は数多くの臨床試験や企業治験に積極的に参加しており、最先端の治療をいち早く取り入れ、患者さんに幅広い選択肢を提供できる体制を整えています。中には、国内外の最新薬剤や治療法を受けられるケースもあり、「ここでしか受けられない治療」があるという点も私たちの強みです。
さらに、他の診療科やがん専門医、看護師、リハビリスタッフなどと緊密に連携し、患者さんを中心としたチーム医療を行っています。治療だけでなく、手術前後のケアや再発予防、生活支援までを見据えた包括的なサポート体制を整えています。
私たち呼吸器外科は、「安心と信頼に基づいた、最も効果的でやさしい治療」を目指して、これからも専門性を活かした診療と研究を続けてまいります。

疾患別診療実績（年間手術件数）



TOPICS

呼吸器外科は、肺や気管、縦隔（じゅうかく）など、胸の中にある臓器の病気に対して手術を行う専門分野です。特に肺がんの治療が中心で、近年では体への負担が少ない胸腔鏡手術やロボットを使った手術が広く行われています。早期の肺がんでは、肺の一部だけを切除する「区域切除」により、呼吸機能をできるだけ保つ工夫もされています。また、薬による治療と手術を組み合わせた「集学的治療」によって、進行したがんに対しても治療効果が高まっています。呼吸器外科は、患者さん一人ひとりに合った、最も効果的でやさしい治療を目指しています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
氏家 秀樹	准教授	山形大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医・呼吸器外科専門医
武本 智樹	講師	近畿大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医・呼吸器外科専門医
千葉 眞人	講師	山形大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医・呼吸器外科専門医
伊藤 正興	医学部講師	広島大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医
濵田 顕	医学部講師	山形大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医・呼吸器外科専門医・気管支鏡専門医
西野 将矢	医学部講師	近畿大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医・呼吸器外科専門医
小原 秀太	医学部講師	近畿大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医・呼吸器外科専門医
仁科 麻衣	助教	近畿大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医
福田 祥大	助教	近畿大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医
老木 華	助教	川崎医科大学	呼吸器（肺、縦隔）	外科専門医

11 外科（乳腺・内分泌）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者 菰池 佳史 教授
出身大学 大阪大学
専門分野 乳腺・内分泌、二次性リンパ浮腫
専門医資格 外科専門医・乳腺専門医

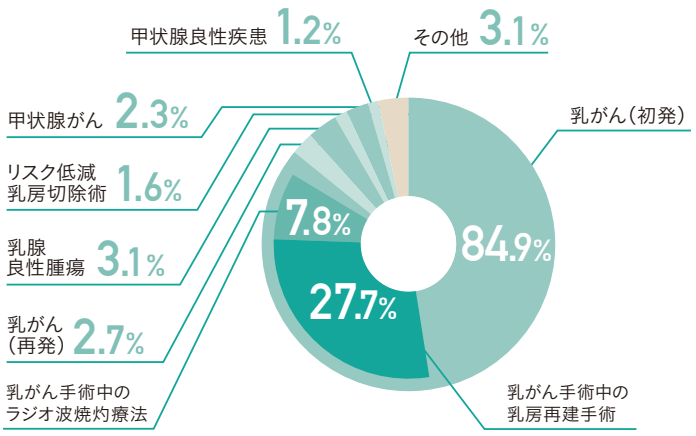
特殊［専門］疾患

- 初発乳がん
- 再発乳がん
- 遺伝性乳がん卵巣がん症候群
- 鑑別困難な乳腺疾患の診断
- 甲状腺がん
- Basedow病その他
  甲状腺良性疾患の外科治療
- 副甲状腺疾患の外科治療

診療科の特徴

乳腺内分泌グループでは、乳がんを中心とした乳腺の病気に対し、正確な診断に基づいた、最新で適切な治療を行っています。また、乳腺疾患以外に、甲状腺がんや副甲状腺腫などの手術も行っています。
われわれグループの最も大きな特徴は、他診療科医師（腫瘍内科・放射線治療科・放射線診断科・形成外科・病理診断科）、他職種（外科外来看護師・がん相談支援センター看護師・病棟看護師・WOCナース・臨床心理士など）と定期的に集まって、患者さんにとってのベストの治療を話し合って決定していることです。チームワークの良さが患者さんにとってのベストの医療を提供できると信じています。
乳がん診療においては、外科手術治療、放射線治療、薬物（抗がん剤やホルモン剤、分子標的剤）による治療を組み合わせ、個々の進行程度に応じた治療（オーダーメイド治療）を行います。特に初発乳がん治療においては、最新の画像診断や綿密な病理診断のもと、過不足のない適切な治療を提供します。個々の患者さんのライフスタイルも考慮して、最新のラジオ波焼灼療法のような低侵襲の治療も手がけ、乳房再建にも積極的に取り組み、進行がんや予後の悪いタイプの乳がんに対しては術前薬物療法を取り入れ予後向上を目指しています。転移再発治療においては、腫瘍内科での治療が主となりますが、スタッフ間で話し合って治療に取り組んでいます。科学的根拠に基づいた標準的治療の提供をベースに、個人の価値観に基づいたnarativeな治療方針にも柔軟に対応しています。総合力では全国的にも質の高い診療グループであることを自負しており、特にラジオ波焼灼療法・一次乳房再建（形成外科との密な連携）・新規薬物療法（腫瘍内科中心）・遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減手術やサーベイランスなどは多くの症例を経験しています。
また、乳がんは主に女性の疾患であるため、患者の気持ちのわかる女性スタッフが好まれる傾向にありますが、当科では、熱意のある優秀な女性スタッフが乳がん診療に従事しています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS 乳腺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法

2023年12月に乳腺悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（RFA）が保険収載となり、当科でも2024年4月から腫瘍径15mm以下の乳がんに対してRFAを施行できるようになりました。当科の位藤が同治療において臨床研究の段階で約300例の臨床経験があり、わが国10施設での多施設共同研究のデータを筆頭著者として発信し、国際的にも本治療の第一人者として認知されています。本治療は整容性において切除に比較し優れているだけでなく、手術時間、入院期間が短いことも特徴です。今後、検診発見等の小型乳がんに対して本治療希望者の増加とともに、わが国の乳がん検診受験者の増加および乳がん死の減少に繋がる可能性が期待されています。2024年は17例のRFAをおこないました。本治療を安全確実におこなうことで当科がさらに社会貢献できることを願っています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
位藤 俊一	特任准教授	兵庫医科大学	乳腺・内分泌、超音波診断・ラジオ波凝固治療・甲状腺疾患	外科専門医・乳腺専門医・超音波専門医
眞鍋 弘暢	助教	近畿大学	乳腺・内分泌	外科専門医

12 脳神経外科

近畿大学病院HP　診療科HP

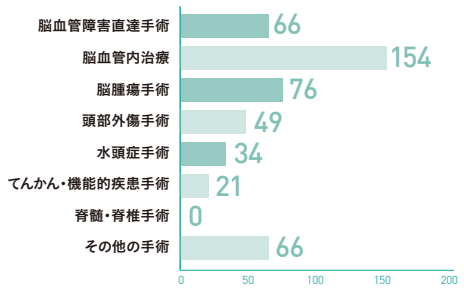
責任者／診療部長 髙橋 淳 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 脳血管障害の外科治療（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、もやもや病）
専門医資格 脳神経外科専門医

特殊［専門］疾患

- 急性期脳卒中
- 脳血管障害
- 脳腫瘍
- 機能的脳神経外科
- てんかん外科
- 脊椎・脊髄疾患
- 神経外傷

疾患別診療実績（2024年手術件数 計466件）



TOPICS 最先端の脳血管内治療

脳血管内治療とは、頭皮切開・開頭（頭蓋骨を開くこと）を行うことなく、カテーテルを用いて血管の中から脳の病気を治す方法です。低侵襲で身体への負担が少ないことが最大の利点ですが、複雑な病変を安全・確実に治療するためには、高い技術力・最新の治療機器・十分なマンパワー（人員配置）の3つが必要です。近畿大学脳神経外科はカテーテル治療の高度な知識と技能を有する日本脳神経血管内治療学会専門医5名（うち指導医2名）を擁し、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法をはじめ、脳動脈瘤コイル塞栓術、頚動脈ステント留置術、硬膜動静脈瘻塞栓術、脳動静脈奇形塞栓術など、あらゆる脳血管内治療に対応しています。また当院はハイブリッド手術室を備えており、高難度病変に対する開頭・血管内の同時複合治療も可能です。

診療科の特徴

当科では、特に①脳血管障害、②脳腫瘍、③機能的脳神経外科疾患の治療に力を注ぎ、最先端の診断・治療技術を提供しています。

①脳血管障害

- 脳卒中（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞）急性期の外科治療・血管内治療
  ※脳梗塞超急性期の機械的血栓回収療法を24時間365日実施可能な体制を整備しています。
- 脳動脈瘤・脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻に対する外科治療・血管内治療
- 頚動脈狭窄症に対する外科治療・血管内治療
- もやもや病（虚血型・出血型）に対する病態評価と脳血管バイパス手術
  ※小児・成人を問わず、全国から患者さんを受け入れています。

②脳腫瘍

- 悪性脳腫瘍（原発性・転移性）の集学的治療
- 間脳下垂体腫瘍の外科治療
- 良性脳腫瘍（髄膜腫・聴神経腫瘍）の外科治療
  ※治療困難な悪性脳腫瘍に対して各種神経モニタリングや覚醒下手術を取り入れ、高い腫瘍摘出率と安全性を維持しています（覚醒下脳手術認定施設）。また一部の原発性悪性脳腫瘍に対して光線力学的療法を導入し、治療成績向上を図っています。さらに神経内視鏡手術の高い技術を有しており、間脳下垂体腫瘍のみならず他の脳腫瘍手術にも積極的に導入し、安全かつ低侵襲な治療を実践しています。

③機能的脳神経外科

- 不随意運動・パーキンソン病・難治性疼痛に対する脳深部刺激術、脊髄刺激術
- てんかん診断のための、頭蓋内電極留置による脳波ビデオモニタリング
- 薬剤抵抗性てんかんに対する外科治療
  ※側頭葉海馬切除、脳梁離断術、迷走神経刺激術、神経機能温存のための覚醒下焦点切除術など、最新の治療が可能です。
- 痙縮に対する集学的治療（髄腔内バクロフェン投与療法、ボトックス療法）
- 顔面けいれん、三叉神経痛に対する外科治療
  ※血管による神経圧迫を顕微鏡手術で解除し、薬で改善しない症状を消失・緩和させます。

④その他の疾患

- 水頭症の診断と治療
  ※認知症と診断され見過ごされやすい「正常圧水頭症」を適切に診断し、症状を改善するための「髄液短絡術手術（シャント術）」を提供します。
- 頭部外傷に対する集学的治療

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
中野 直樹	准教授	近畿大学	てんかん外科治療、ジストニア、パーキンソン病、不随意運動、脳深部電気刺激療法、機能的脳外科治療	脳神経外科専門医・リハビリテーション科専門医
佐藤 徹	准教授	京都大学	脳血管障害の血管内治療（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、頚動脈狭窄症）	脳神経外科専門医・脳血管内治療専門医
眞田 寧皓	准教授	大阪大学	脳血管障害の外科治療（脳動脈瘤、脳動静脈奇形）聴神経鞘腫、髄膜腫、三叉神経痛、顔面痙攣	脳神経外科専門医
内山 卓也	講師／外来医長	近畿大学	髄腔内バクロフェン療法、ボツリヌス療法、脳深部電気刺激療法、脊髄電気刺激療法（痛み）、水頭症治療	脳神経外科専門医
奥田 武司	講師／医局長／病棟医長	近畿大学	脳腫瘍の外科治療、間脳下垂体腫瘍の外科的治療、神経内視鏡手術	脳神経外科専門医・内分泌代謝科専門医
辻 潔	講師	近畿大学	脳血管障害の外科治療・血管内治療（脳動脈瘤、頚動脈狭窄、脳血管内治療）	脳神経外科専門医・脳血管内治療専門医
吉岡 宏真	医学部講師	近畿大学	脳腫瘍の外科治療、水頭症	脳神経外科専門医
田中 寛大	医学部講師	大阪市立大学（現 大阪公立大学）	脳卒中内科、脳血管障害の血管内治療	神経内科専門医・脳血管内治療専門医
岩倉 倫裕	助教	近畿大学	脳神経外科全般	—
藤島 一紘	助教	近畿大学	脳血管障害の外科治療・血管内治療	脳神経外科専門医・脳血管内治療専門医
古川 健太郎	助教	近畿大学	脳血管障害の外科治療・血管内治療	脳神経外科専門医
中尾 剛幸	助教	近畿大学	脳神経外科全般	—
濵田 有深	助教	近畿大学	脳神経外科全般	脳神経外科専門医

13 心臓血管外科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 坂口 元一 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 虚血性心疾患、大動脈疾患、弁膜症
専門医資格 心臓血管外科専門医・外科専門医

特殊［専門］疾患

心臓血管外科の対象となる全ての分野に対して高度で良質な手術を提供している。
具体的には

- 虚血性心疾患
  （狭心症、心筋梗塞の合併症）
- 弁膜症
- 心筋症
- 大動脈疾患（大動脈解離、大動脈瘤）
- 不整脈
- 末梢血管疾患
  （閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞など）
- 先天性心疾患に対する外科的治療
- 補助人工心臓

診療科の特徴

【弁膜症】
弁形成術を積極的に行っています。約5～6cmの小切開術（MICS）や大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療（TAVI）を多数行っています。

【先天性心疾患】
新生児期から成人期まで、比較的軽度の心疾患から高度な技術を要する複雑心奇形まで、全ての先天性心疾患に対する根治手術および姑息手術を行っています。

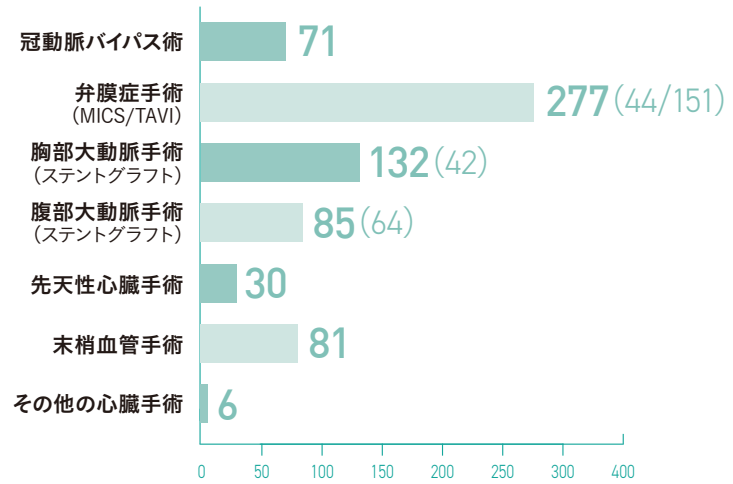
【虚血性心疾患】
狭心症に対する冠動脈バイパス術、心筋梗塞合併症（虚血性心筋症、左室瘤、心室中隔穿孔、僧帽弁閉鎖不全、心臓破裂など）に対する修復手術を行っています。

【大動脈疾患】
胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤に対する手術、特に破裂または切迫破裂に対する緊急手術、ステントグラフト治療は腹部大動脈瘤だけでなく、複雑な胸部大動脈瘤にも積極的に行っています。

【末梢血管】
急性、慢性動脈閉塞に対する血行再建術、カテーテルによる血管形成治療、下肢静脈瘤に対するレーザー治療を行っています。

【植え込み型補助人工心臓】
植え込み型補助人工心臓による重症心不全の補助を行っています。

疾患別診療実績（手術件数 2024年）



TOPICS

弁膜症治療は早期診断、早期治療が重要です。当科では低侵襲外科治療を積極的に導入しており、僧帽弁閉鎖不全症に対しては胸骨を切らない小切開僧帽弁形成術を行っています。大動脈弁に対しても小切開手術が可能で、高齢やリスクの高い患者さんには循環器内科と共同で経カテーテル大動脈弁埋め込み術を行っています。
近年高齢化に伴って増加してきた大動脈瘤症例にはステントグラフト治療を数多く行っています。しかしステントグラフト治療では対処できない症例や治療後の再発症例に対しては開胸あるいは開腹での人工血管置換術が必要となってきます。当科ではこのような症例、特に弓部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤の外科手術も積極的に行っています。患者さんの生命予後にとって最適の治療方法を選択することが大切です。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
浅田 聡	准教授／医局長	富山大学	先天性心疾患	心臓血管外科専門医・外科専門医
小谷 真介	医学部講師／病棟医長	大阪市立大学（現 大阪公立大学）	虚血性心疾患、大動脈疾患疾患、弁膜症	心臓血管外科専門医・外科専門医・循環器専門医
宮下 直也	医学部講師	鳥取大学	虚血性心疾患、大動脈疾患疾患、弁膜症	心臓血管外科専門医・外科専門医
濱田 隆介	助教／外来医長	近畿大学	虚血性心疾患、大動脈疾患、弁膜症	外科専門医

14 整形外科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 後藤 公志 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 人工関節置換術・股関節外科
専門医資格 整形外科専門医

特殊［専門］疾患

運動器の障害や損傷に対する外科治療を通じて、日常生活活動（ADL）や生活の質（QOL）を改善し、また、積極的な社会参加をサポートすることにより、患者さんの健康と福祉に貢献します。

1. **関節疾患：**変形性関節症（股・膝・足・肩・肘など）、関節リウマチ、スポーツ活動に伴う関節障害や外傷、肩腱板損傷、関節の感染症、など
2. **脊柱疾患：**腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、頚椎症性脊髄症・神経根症、脊柱変形による立位保持困難、骨粗しょう症、脊柱の感染症、など
3. **手・上肢疾患、末梢神経障害：**手根管症候群、肘部管症候群、その他の末梢神経障害、顕微鏡下再建手術を要する損傷・外傷
4. **運動器腫瘍：**骨・軟部の良性および悪性腫瘍、転移性骨腫瘍
5. **運動器外傷：**四肢・骨盤・脊柱の損傷、多発外傷

診療科の特徴

関節疾患：人工股関節置換術、人工膝関節置換術のみならず、人工肩関節置換術においても日本有数の高い技術力と症例数を誇っています。きめ細かい合併症対策の下で、安全・安心な治療を提供しています。重度内科疾患のある高齢患者にも特定機能病院の強みを生かして安心して手術を受けて頂けます。股関節、膝関節、肩関節については、ロボット、ナビゲーション、3Dプリント、3D解析技術を駆使して正確なインプラント設置を実現しています。股関節、膝関節は豊富な骨切り症例数を誇り、肩関節、膝関節、股関節の関節鏡手術も多数手がけており、極めて良好な治療成績を上げています。

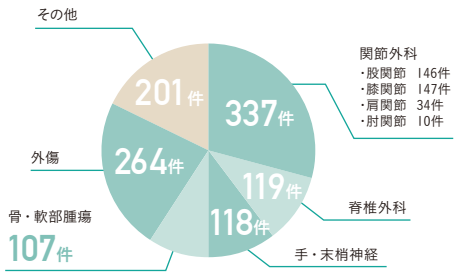
脊柱疾患：様々な原因による脊柱管狭窄による脊髄・神経根圧迫による痺れや麻痺に対応します。また、脊柱の変形による姿勢保持困難など難治性の症例にも、ハイブリッド手術室ナビゲーションシステムを用いて安全・確実な手術を実施しています。

手、上肢疾患：手は非常に繊細な運動器で、その治療には高度な専門性を必要とします。一般的な手外科手術に加えて、マイクロサージェリー（顕微鏡手術）による機能再建術・血行再建術を行なっています。

腫瘍疾患：骨・軟部の良性・悪性腫瘍の診断と治療は大学病院の重要な業務で、地域一帯から多くの患者さんが集まり、集学的な治療により良好な成績を上げています。がん拠点病院である当院では骨転移症例も多く、当科でもこれに対応しています。

運動器外傷：運動器外傷センター、救命救急センターと密接に連携しつつ地域で発生する全ての運動器外傷・損傷に対応しています。

疾患別2023年度手術実績（件数）



TOPICS

人工股関節置換術の手術件数は2023年度131件、2024年度186件と増加傾向にあり、2023年度、2024年度の2年間では、初回人工股関節置換術の術後人工関節周囲感染0件、人工股関節脱臼0件、インプラント周囲骨折0件、再手術率0%となっていて、安心して手術を受けて頂ける体制を整えています。
人工膝関節置換術においては、ロボットCORIを用いて骨を1mm・1°未満の誤差精度で掘削することにより、インプラントの理想的な設置を実現しています。
高度脊柱変形に対する脊椎矯正固定手術においては、ハイブリッド手術室ナビゲーションシステムを用いて安全・確実な手術を実施しています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
大谷 和裕	教授	近畿大学	手・上肢外科、外傷外科、関節リウマチ	整形外科専門医・リウマチ専門医
池田 光正	准教授	近畿大学	脊椎・脊髄外科、関節リウマチ	整形外科専門医・リウマチ専門医
西村 俊司	講師	近畿大学	骨・軟部腫瘍、外傷外科	整形外科専門医
橋本 和彦	医学部講師／特命准教授	近畿大学	骨・軟部腫瘍、関節リウマチ	整形外科専門医・リウマチ専門医
中川 晃一	医学部講師／医局長	近畿大学	人工関節置換術、肩関節・スポーツ・外傷外科	整形外科専門医
山岸 孝太郎	医学部講師／病棟医長	近畿大学	人工関節置換術、下肢関節外科	整形外科専門医
石濱 嘉紘	医学部講師／外来医長	近畿大学	脊椎・脊髄外科、骨粗鬆症	整形外科専門医
森竹 章公	医学部講師	近畿大学	人工関節置換術、股関節外科	整形外科専門医
吉元 孝一	助教	高知大学	手・上肢外科、外傷外科	整形外科専門医
橋本 晃明	助教	近畿大学	人工関節置換術、下肢関節外科	整形外科専門医
家村 駿輝	助教	近畿大学	脊椎・脊髄外科、骨粗鬆症	整形外科専門医
鳥海 賢介	助教	札幌医科大学	脊椎・脊髄外科、骨粗鬆症	整形外科専門医
松村 大智	助教	近畿大学	外傷外科、人工関節置換術	整形外科専門医
小林 敬也	助教	近畿大学	手・上肢外科、外傷外科	整形外科専門医

15 皮膚科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 大塚 篤司 主任教授

出身大学 信州大学
専門分野 アトピー性皮膚炎の治療、悪性黒色腫の治療、乾癬の治療
専門医資格 アレルギー専門医・皮膚科専門医

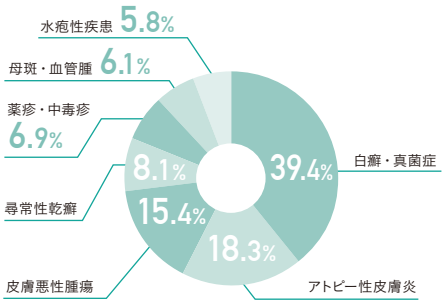
特殊［専門］疾患

- アトピー性皮膚炎
- 乾癬（関節症性乾癬を含む）
- 掌蹠膿疱症
- 接触皮膚炎（かぶれ）
- 薬剤アレルギー（薬疹）
- 自己免疫性水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）
- ざ瘡（にきび）
- 太田母斑
- 異所性蒙古斑
- 乳児血管腫などのアザ
- 皮膚悪性腫瘍（メラノーマ、有棘細胞がん、基底細胞がん、悪性リンパ腫など）
- 日光黒子（老人斑）、肝斑、雀卵斑（シミ・ソバカス）
- 白斑（尋常性白斑）
- 円形脱毛症
- 足白癬・爪白癬
- 角化異常疾患（魚鱗癬）
- お年寄りにみられる皮膚病（そう痒症、乾皮症）

診療科の特徴

当科では、日常的な皮膚疾患から専門的かつ高度な治療が必要な疾患まで、幅広い皮膚のトラブルに対応しています。アトピー性皮膚炎や乾癬、接触皮膚炎、薬剤アレルギーなどの炎症性疾患に対しては、近年登場した生物学的製剤や最新の外用・内服薬を積極的に導入し、エビデンスに基づいた最適な治療を提供しています。特に乾癬とアトピー性皮膚炎に関しては、それぞれ専門外来を設置しており、病態に応じたきめ細かな診療を実施しています。
また、皮膚悪性腫瘍（メラノーマ、有棘細胞がん、基底細胞がんなど）に対しては、形成外科と連携して「スキンサージェリーセンター」を運営し、精密検査から外科的切除、化学療法、治験までを含む包括的な治療体制を整えています。診断にはダーモスコピーや組織検査を用い、治療は個々の病態に合わせて選択します。皮膚悪性腫瘍に対する化学療法も積極的に行っています。
レーザー治療にも力を入れており、Qスイッチルビーレーザー、ピコレーザー、色素ダイレーザー、炭酸ガスレーザーなど多種の装置を完備しています。これらは太田母斑、異所性蒙古斑、血管腫、シミ・ソバカスなどの色素性病変に対して高い治療効果を上げています。また、各種紫外線治療（PUVA、ナローバンドUVB、エキシマライト）を行い、患者さんのQOL向上に貢献しています。
そのほかにも、円形脱毛症に対する感作療法、女性のスキンケア指導、糖尿病による足病変の管理、膠原病に伴う皮膚症状の治療など、多岐にわたる皮膚疾患に対応。皮膚の症状は全身疾患の初発症状であることも多く、内科や他科との連携も重視しています。
患者さん一人ひとりに寄り添い、「見える病気」である皮膚の異常を的確に診断し、安心して治療を受けていただける体制を整えています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS 乾癬・アトピー性皮膚炎・難治性円形脱毛症に対する新規の治療

乾癬は皮膚が赤くなって（紅斑）、皮がむける（鱗屑）病気で、関節に痛みを伴うこともあります。現在は生物学的製剤という注射薬の登場により、患者さんの状態に応じた有効な治療が可能です。アトピー性皮膚炎は強いかゆみを伴う湿疹が広がる病気で、近年ではアレルギーを抑える生物学的製剤や、新たな塗り薬・内服薬が使用可能となり、当科では専門外来で力を入れて治療を行っています。また、難治性の円形脱毛症に対しても新たにJAK阻害薬の内服治療が可能となり、これまで有効な治療が限られていた患者さんにも新たな選択肢を提供できるようになりました。これらの疾患でお困りの方は、ぜひ当科の専門外来にご相談ください。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
藤井 一恭	准教授	鹿児島大学	皮膚リンパ腫	皮膚科専門医
中嶋 千紗	講師／特命准教授／医局長	大阪市立大学（現 大阪公立大学）	アトピー性皮膚炎の治療	皮膚科専門医・アレルギー専門医
佐藤 雅子	医学部講師	近畿大学	乾癬の治療、アトピー性皮膚炎の治療	皮膚科専門医
臼居 駿也	医学部講師／病棟医長／外来医長	金沢大学	皮膚悪性腫瘍の治療、皮膚病理	皮膚科専門医・アレルギー専門医
岩津 理世	助教	近畿大学	紫外線治療	皮膚科専門医
香川 奈菜	助教	近畿大学	皮膚科一般	―
松尾 彩子	助教	兵庫医科大学	皮膚科一般	―
河野 奈央	助教	島根大学	皮膚科一般	皮膚科専門医

16 形成外科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 冨田 興一 主任教授

出身大学 大阪大学
専門分野 乳房再建、マイクロサージャリー
専門医資格 形成外科専門医

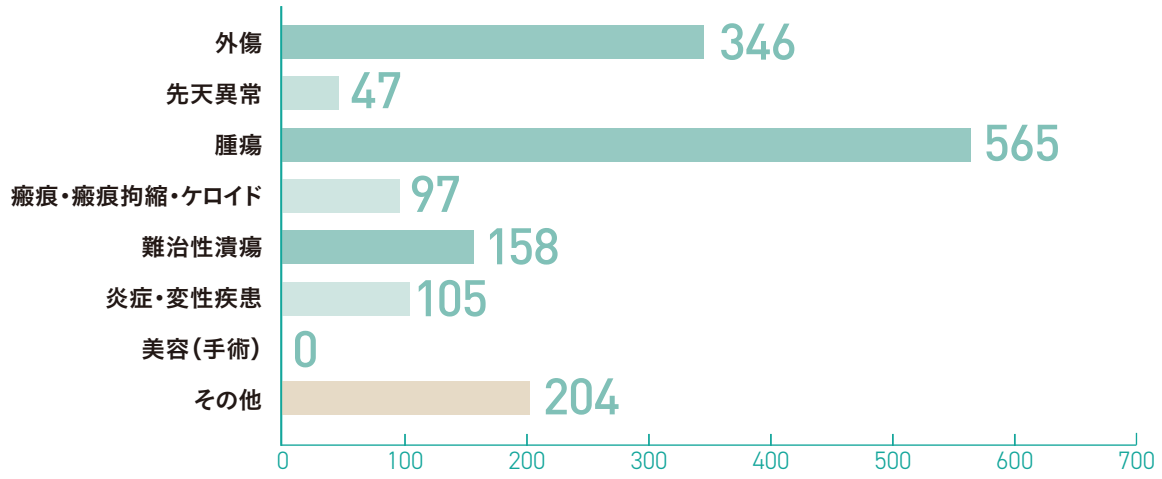
特殊［専門］疾患

- 乳房再建（一次、二次、三次再建）
- 上肢・下肢の外傷、顔面骨折、顔面軟部組織損傷、頭部・頸部・体幹の外傷、熱傷
- 顔面・頸部・四肢・体幹の先天異常
- 皮膚悪性腫瘍、腫瘍切除後の組織欠損（一次・二次再建）
- 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド
- 褥瘡、その他の潰瘍（下腿・足潰瘍を含む）
- 眼瞼下垂、腋臭症、顔面神経麻痺、手足の炎症・変性疾患

診療科の特徴

当科は、教室伝統の「独創精神」を継承し、常に新しい手術技術の開発を志向する先進的な診療科です。乳房再建術やマイクロサージャリーを用いた手の外科、四肢のリンパ浮腫治療などを専門とし、多様な再建外科治療を実践しています。特に乳房再建では、遊離皮弁、有茎皮弁、脂肪注入、人工物など多彩な手法を駆使し、患者一人ひとりに最適な治療を提供しています。さらに、消化器外科、頭頸部外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、泌尿器科といった多くの診療科と連携し、頭頸部や四肢、腹壁など全身にわたる再建手術を行うことで、患者の生活の質（QOL）の向上を図っています。
また、眼瞼下垂の治療をはじめとした抗加齢医療にも注力し、機能と美容の両立を目指した医療を提供しています。2020年には、皮膚科と協力して「スキンサージャリーセンター」を開設し、皮膚悪性腫瘍に対する最先端かつ包括的な診療体制も整備されました。高い専門性と多診療科連携による柔軟な対応力が、当院形成外科の大きな特徴です。

疾患別診療実績（疾患大分類手技数）



TOPICS

当科では、乳房再建において年間100例以上の症例を扱っており、全国でも有数の実績を誇ります。乳がん手術と同時に行う一次再建に加え、他院からの紹介による二次再建、さらには既にインプラントによる再建を受けた患者さんに対し、自家組織への転換を行う三次再建にも積極的に取り組んでいます。遊離皮弁や有茎皮弁、脂肪注入、人工物など多彩な再建法を駆使し、機能面と整容面の両立を追求しています。冨田主任教授を中心とした専門チームが、患者さんの状態や希望に応じて最適な治療法を選択し、安心・安全な再建医療を提供しています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
中尾 仁美	医学部講師／医局長／病棟医長	徳島大学	眼瞼下垂、皮膚腫瘍	形成外科専門医
末吉 遊	医学部講師／外来医長	近畿大学	手外科、マイクロサージャリー	形成外科専門医

17 泌尿器科

近畿大学病院HP　診療科HP

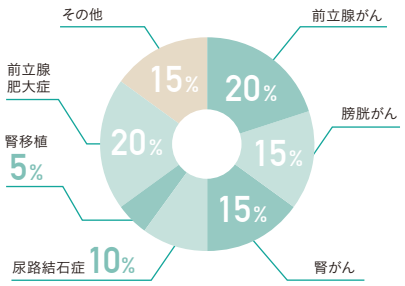
責任者／診療部長 藤田 和利 主任教授

出身大学 大阪大学
専門分野 尿路悪性腫瘍、内視鏡手術、アンドロロジー
専門医資格 泌尿器科専門医・生殖医療専門医

特殊［専門］疾患

一般泌尿器科（血尿の精査・前立腺肥大症・尿路感染症など）はもちろんの事、特に尿路性器腫瘍（前立腺がん、膀胱がん・腎がん・精巣がん・陰茎がん・副腎腫瘍・他の後腹膜腫瘍など）の外科的治療（ロボット支援手術、腹腔鏡手術など）および薬物療法、排尿障害、尿路結石症、腎移植（献腎・生体）、男性不妊症に重点をおいた診療を行っています。また、現在開発中の新薬に関する多くの臨床試験（治験）にも参加し、先進的医療も含め常に最新の医療の提供に取り組んでいます。

疾患別診療実績（患者数割合）



診療科の特徴

腫瘍

◎**尿路性器悪性腫瘍：**根治が期待できる症例は手術療法が主体ですが、化学療法、放射線療法なども組み合わせた集学的治療計画を立てます。
◎前立腺がんは最近増加傾向にあり、触診、腫瘍マーカー、エコーやMRIで疑わしい所見があれば積極的に針生検を行い早期発見に努めています。限局がんの場合は手術だけでなく前立腺がん小線源治療（Brachytherapy）や強度変調放射線治療法（IMRT）も行っています。
◎悪性腫瘍に対する手術療法は腎がん、腎盂・尿管がん、前立腺がん、膀胱がんを中心に体腔鏡やダヴィンチ手術支援ロボットによる治療も積極的に行っています。

移植

◎**腎移植：**大阪府下における献腎移植（登録）施設の１つとして認定されています。また、生体腎移植を希望される方にも対応しています。

その他

◎**血尿：**理学的所見、検尿・尿沈査・血液検査やレントゲン検査などにより原因疾患を調べます。膀胱鏡検査を行うこともあります。
◎**排尿障害：**排尿時疼痛、尿失禁、頻尿、尿線狭小化・途絶、尿勢減弱等々に関して理学的所見、神経学的検査、血液検査やレントゲン検査などにより原因を調べます。
◎**尿路性器の疼痛：**結石や腫瘍などを鑑別するため、理学的所見、検尿・尿沈査、血液検査やレントゲン検査などを行います。
◎**前立腺肥大症：**最近では薬物療法が進歩し第一選択になります。手術療法では経尿道的切除術が主体となります。
◎**神経因性膀胱：**神経疾患、糖尿病、骨盤内手術後などに合併した排尿障害に対し、ウロダイナミックス（尿流量率、尿道内圧、膀胱内圧測定、括約筋筋電図により蓄尿、排尿機能を総合的に判定します）などの結果をもとにQOLを念頭において膀胱、腎機能温存を第一の目的とした最適な尿路管理法を検討します。
◎**尿失禁：**中高年女性に比較的多い尿失禁に対しては、薬物療法や骨盤底筋群体操などを第一選択とし、手術適応例には積極的に尿失禁防止手術を施行します。
◎**尿路結石症**：経尿道的尿路結石除去術が主体ですが、結石発生原因を検索し再発予防に重点をおいた治療をしています。
◎**膀胱尿管逆流症：**軽症例に対しては、内視鏡的逆流防止術を積極的に行っており、入院期間も数日です。
◎**男性不妊：**「顕微授精」を行うことを目的として精子を採取する精巣内精子採取術を行います。

TOPICS

ロボット支援下手術は腹腔鏡手術と同じように小さな切開創で、医師の操作に従って行う内視鏡手術です。本術式は、合併症リスクが低下し、入院期間が短いという利点があります。前立腺・膀胱全摘除術、腎部分切除術、腎全摘除術・腎尿管全摘除術・副腎摘出術が保険適応となっています。2022年４月から、人工授精等の「一般不妊治療」、体外受精・顕微授精等の「生殖補助医療」が、保険適用となりました。泌尿器科において行っている精巣内精子採取術は、「顕微授精」を行うことを目的として精子を採取する手術のことを指します。造精機能がある程度保たれている場合は、精巣を少し切開して精細管を採取する方法（精巣精子採取術（TESE：testicular sperm extraction）、造精機能が障害されている場合は、顕微鏡を使って、精子が造られていそうな精細管を限定的に回収する方法（顕微鏡下精巣精子採取術（MD-TESE：microdissection TESE））があります。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
吉村　一宏	教授	和歌山県立医科大学	尿路結石、内視鏡手術、尿路悪性腫瘍	泌尿器科専門医
南　高文	准教授	近畿大学	尿路悪性腫瘍、内視鏡手術	泌尿器科専門医
橋本　士	医学部講師／外来医長／医局長	三重大学	下部尿路機能障害、尿路悪性腫瘍、内視鏡手術	泌尿器科専門医
豊田　信吾	医学部講師／病棟医長	近畿大学	尿路悪性腫瘍、内視鏡手術	泌尿器科専門医
菊池　尭	医学部講師	近畿大学	腎移植・腎不全、尿路悪性腫瘍、内視鏡手術	泌尿器科専門医
藤本　西蔵	助教	徳島大学	泌尿器全般、内視鏡手術	泌尿器科専門医
北　博行	助教	大阪市立大学（現 大阪公立大学）	腎移植・腎不全、泌尿器全般、内視鏡手術	泌尿器科専門医
中山　尭仁	助教	近畿大学	泌尿器全般	泌尿器科専門医

18 眼科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 日下 俊次 主任教授

出身大学 大阪大学
専門分野 網膜硝子体疾患、白内障
専門医資格 眼科専門医

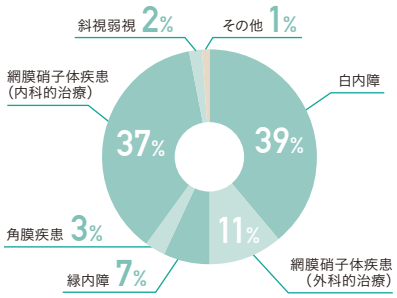
特殊［専門］疾患

- 眼科一般
- 角膜疾患
- 白内障
- 網膜硝子体疾患（サージカル網膜）
- 網膜硝子体疾患（メディカル網膜）
- 緑内障
- 斜視弱視
- ぶどう膜炎
- コンタクトレンズ

診療科の特徴

眼は体の中では小さな器官ですが、角膜、水晶体、硝子体、網膜等の様々な組織により構成されています。そのため病気によっては専門性の高い治療が必要になってきます。また、眼の疾患には薬物や注射などで経過を見ながら治す保存的（内科的）治療が必要な疾患、手術加療が必要な疾患があります。当科は、南大阪エリアでは唯一、角膜、網膜硝子体、緑内障、斜視弱視、ぶどう膜炎といった幅広い疾患に対して保存的治療と手術治療のどちらにも対応できる体制を整えております。
特に手術加療については積極的に行っており、2023年は3,835件の手術を行っております。サージカル網膜領域では未熟児網膜症をはじめとする難治性小児網膜疾患の手術治療、網膜剥離、黄斑円孔、増殖性硝子体網膜症、増殖糖尿病網膜症など、多岐にわたる疾患に対して手術を行い、よりよい視機能予後を目指しています。また、緑内障領域では線維柱帯切開、線維柱帯切除、チューブインプラント手術等、病状に合わせた手術加療、角膜疾患領域では全層移植、深層層状移植、デスメ膜内皮移植など症例に応じた角膜移植術、再発翼状片や瘢痕性角結膜上皮症など難治性前眼部疾患に対する羊膜移植術などを行っております。手術対象疾患以外に対しても、電気生理学的手法および分子生物学的手法を用いた網膜変性疾患の診断、加齢黄斑変性その他の疾患に対する抗VEGF治療および光線力学療法、視野検査と眼底画像解析を用いた病状評価、塗抹検鏡やメタゲノム解析などを用いた眼感染症の迅速かつ厳密な診断と治療、眼炎症疾患に対する診断および免疫抑制や生物学的製剤による治療など、詳細な診断のもと個々の病態に応じた治療に努めています。経過でお困りの方がいらっしゃいましたら、眼科外来までお問い合わせください。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

未熟児網膜症や家族性滲出性硝子体網膜症を代表とする小児の網膜硝子体疾患は眼疾患の中でも非常に難治性の高い疾患です。当科では小児科及び麻酔科医の協力体制のもと、国内外より多くの小児網膜硝子体疾患患児をご紹介いただき手術加療を行っております。また網膜動脈閉塞症や難治性黄斑円孔に対する硝子体手術、血管新生緑内障に対する硝子体手術併用チューブインプラント手術、角膜疾患に対するデスメ膜内皮移植術（DMEK）、硝子体手術併用角膜移植手術等を行っております。外傷、網膜剥離等の緊急手術が必要な場合はご連絡いただけましたら可能なかぎり時間外でも対応いたしますので、お問い合わせください。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
國吉　一樹	教授	大阪市立大学（現 大阪公立大学）	網膜硝子体疾患	眼科専門医
江口　洋	准教授	徳島大学	角膜疾患、結膜疾患、眼瞼疾患	眼科専門医
野本　裕貴	准教授／病棟医長	近畿大学	緑内障、網膜硝子体疾患	眼科専門医
中川　喜博	講師／外来医長	東海大学	網膜硝子体疾患	眼科専門医
岩橋　千春	講師／医局長	大阪大学	ぶどう膜疾患	眼科専門医
坂本　万寿夫	医学部講師	近畿大学	ぶどう膜疾患、網膜硝子体疾患	眼科専門医
堀田　芙美香	医学部講師	徳島大学	角膜疾患	眼科専門医
眞野　福太郎	医学部講師	大阪医科大学（現 大阪医科薬科大学）	網膜硝子体疾患	眼科専門医
福島　正樹	助教	富山大学	網膜硝子体疾患	眼科専門医
杉野　日彦	助教	福井大学	眼科一般	―
増子　佳菜子	助教	近畿大学	眼科一般	―

19 耳鼻咽喉・頭頸部外科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 安松 隆治 主任教授

出身大学 山口大学
専門分野 頭頸部外科、頭頸部腫瘍
専門医資格 耳鼻咽喉科専門医

特殊［専門］疾患

- 頭頸部疾患
  口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、甲状腺腫瘍、唾液腺腫瘍、音声・嚥下障害、扁桃炎など
- 中耳疾患
  慢性化膿性中耳炎、真珠腫瘍中耳炎、耳硬化症、中耳奇形など
- 難聴疾患
  突発性難聴、遺伝性難聴、加齢性難聴、外リンパ瘻など
- めまい疾患
  メニエール病、良性発作性頭位めまい、前庭神経炎、聴神経腫瘍など
- 顔面神経麻痺
  ベル麻痺、ハント症候群、外傷性顔面神経麻痺など
- 側頭骨病変
  中耳・外耳の良性腫瘍、外耳がん、中耳がんなど
- 鼻副鼻腔疾患
  アレルギー性鼻炎、急性・慢性鼻副鼻腔炎、鼻副鼻腔がん、鼻出血など

診療科の特徴

耳鼻咽喉科、頭頸部外科疾患全般の診療を行っており、以下の専門外来を開設している。

◎腫瘍外来
根治性とQOLの維持に重点を置いている。化学放射線療法、ロボット支援下経口的咽頭悪性腫瘍手術など低侵襲治療とともに、必要な場合には形成外科や外科と連携し、広範囲切除と再建手術を積極的に実施している。手術適応外の症例には免疫チェックポイント阻害剤などを含む薬物療法を行っている。

◎めまい外来
前庭機能に加え、中枢や全身的要因等、総合的にめまい病態を評価している。メニエール病には、中耳加圧治療、手術治療（内リンパ嚢開放術）を行っている。

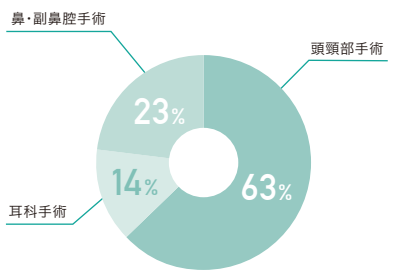
◎耳科外来
慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対して鼓室形成術、伝音難聴に対しては鼓膜―耳小骨再建術（アブミ骨手術）を手掛けてる。高度難聴には人工内耳手術を行っている。

◎小児難聴外来
新生児聴覚スクリーニング後の精密検査や、小児聴覚検査を行っている。ABR、ASSR、OAE、乳幼児聴力検査等の検査を組み合わせて行い、聴覚の状態を判断している。小児の人工内耳手術も可能である。

◎鼻・副鼻腔外来
慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、副鼻腔真菌症、術後性頬部嚢胞や乳頭腫などの良性腫瘍に対する鼻内視鏡手術を行っている。ナビゲーションシステムを使用して安全な手術を心がけている。アレルギー性鼻炎に対する薬物治療、舌下免疫療法や難治性好酸球性副鼻腔炎に対する分子標的薬を用いた薬物療法も実施している。

◎嚥下・音声外来
嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査をもとにSTによる嚥下リハビリテーションや嚥下改善手術あるいは誤嚥防止術を行っている。音声障害に対しては声帯結節やポリープに対する喉頭微細手術をはじめ、声帯麻痺に対しては音声改善手術、外来でコラーゲン注入術を行っている。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS 最先端の耳鼻咽喉科診療 ―頭頸部がん診療と感覚器医療

耳鼻咽喉科が取り扱う疾患は、難聴、めまい、嗅覚・味覚障害、音声・嚥下障害、頭頸部腫瘍と多岐にわたり、いずれの疾患でも患者さんの日常生活における QOL の低下に直結する。近畿大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科では、頭頸部がん診療と感覚器医療を中心に、耳・鼻・咽喉頭の各専門外来においてそれぞれ最先端の診療を行っている。
頭頸部がん診療では、耳鼻咽喉・頭頸部外科、腫瘍内科、放射線科との腫瘍カンファレンスで治療方針を決定した後、頭頸部外科手術全般に関しての高い手術技能と豊富な経験を生かし、エビデンスのある医療、集学的な頭頸部がん診療を提供している。最先端の放射線治療や、抗がん剤治療についても適切な対応が可能で、個々の患者さんの QOL を最優先とする最新の頭頸部がん診療を実施している。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
山中　敏彰	教授	奈良県立医科大学	耳科、めまい平衡	耳鼻咽喉科専門医
若崎　高裕	准教授／病棟医長	九州大学	頭頸部外科、頭頸部腫瘍	耳鼻咽喉科専門医
北野　睦三	講師	近畿大学	頭頸部腫瘍、嚥下	耳鼻咽喉科専門医
佐藤　満雄	講師／医局長	近畿大学	耳科、頭頸部腫瘍	耳鼻咽喉科専門医
安倍　大輔	助教	広島大学	耳鼻咽喉科一般	耳鼻咽喉科専門医
木村　隆幸	助教／外来医長	近畿大学	頭頸部腫瘍、鼻・副鼻腔	耳鼻咽喉科専門医
宮本　一宏	助教	岩手医科大学	耳鼻咽喉科一般	―
小池　智	助教	近畿大学	耳鼻咽喉科一般	―
玉木　久智	助教	近畿大学	耳鼻咽喉科一般	―

20 産婦人科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 松村 謙臣 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 腫瘍、周産期
専門医資格 産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医

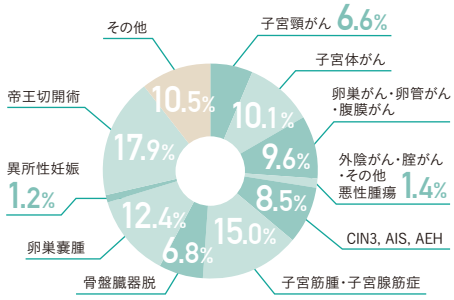
特殊［専門］疾患

- 子宮頸がん
- 子宮体がん
- 卵巣がん
- 外陰・膣がん
- 子宮肉腫
- 子宮筋腫
- 子宮内膜症
- 子宮腺筋症
- 卵巣のう腫
- 骨盤臓器脱
- 合併症妊娠
- 胎児異常
- 絨毛性疾患
- 不妊症
- 更年期障害

診療科の特徴

当科は、大学病院の特性を活かし、婦人科腫瘍、良性疾患、周産期、生殖医療といった産婦人科領域全般において高度で専門的な医療を提供しています。特に婦人科悪性腫瘍においては、腹腔鏡やロボット支援手術を中心とした低侵襲手術から、広汎子宮全摘出術を含む拡大手術、化学療法、放射線療法まで、各分野の専門家と連携した集学的治療を行っており、患者一人ひとりに最適な医療を提供しています。また、再発症例や難治例に対しても積極的に対応しており、地域のがん診療連携拠点病院として多数のご紹介をいただいております。良性婦人科疾患に対しては、可能な限り腹腔鏡手術やロボット支援手術を導入し、低侵襲かつ早期回復を目指した治療を行っています。特に子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍に対する手術症例が多く、近年は骨盤臓器脱に対する手術も増加しており、ロボット支援下仙骨腟固定術や腟式手術など、多様な術式に対応可能です。周産期医療においては、胎児疾患、母体合併症妊娠、切迫早産、多胎妊娠など、ハイリスク妊娠を中心に広く対応しており、NICUや麻酔科とも密接に連携した周産期管理を行っています。紹介患者さんの分娩も多数受け入れており、希望される方には無痛分娩の対応も行っています。さらに生殖医療の分野では、一般不妊治療から体外受精・顕微授精といった高度生殖補助医療まで幅広く提供しており、子宮内膜症合併例などの難治性の不妊症、またがん患者に対する妊孕性温存（卵子・胚凍結）などの相談も積極的にお受けしています。今後も地域の先生方と連携しながら、患者さんに寄り添い、安心・安全で質の高い医療を提供してまいります。どうぞお気軽にご紹介・ご相談ください。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS ロボット支援下手術の進化

当科では、低侵襲かつ高精度な手術を実現する手術支援ロボット「da Vinci（ダヴィンチ）」を用いたロボット支援下手術を積極的に導入してきました。これにより、従来の腹腔鏡手術では困難であった複雑な操作や繊細な縫合が可能となり、術者の負担軽減と安全性の向上を同時に実現しています。さらに2024年秋には、国産の手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を新たに導入し、より多くの手術にロボット支援を適用できる体制が整いました。hinotoriは日本の医療現場に即した設計がなされており、術者にとって操作性が高く、快適な手術環境を提供します。また、患者さんにとっても術後の疼痛が軽く、回復が早いという大きなメリットがあります。当科では、今後も安全性と低侵襲性を両立した最先端手術の提供に努めてまいります。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
中井 英勝	准教授／外来医長	近畿大学	腫瘍	産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医・細胞診専門医
小谷 泰史	講師／婦人科病棟医長	近畿大学	女性医学、腫瘍	産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医
髙矢 寿光	医学部講師	京都府立医科大学	腫瘍	産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医
貫戸 明子	医学部講師	近畿大学	女性医学	産婦人科専門医
村上 幸祐	医学部講師／医局長	神戸大学	腫瘍、生殖	産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医
葉 宜慧	医学部講師／産科病棟医長	近畿大学	周産期	産婦人科専門医
川﨑 薫	医学部講師	京都大学	周産期	産婦人科専門医・超音波専門医
岩橋 尚幸	助教	和歌山県立医科大学	腫瘍	産婦人科専門医
甲斐 冴	助教	関西医科大学	女性医学	産婦人科専門医
森内 芳	助教	岡山大学	周産期	産婦人科専門医・超音波専門医・臨床遺伝専門医
黄 彩実	助教	岐阜大学	周産期	産婦人科専門医
山本 貴子	助教	兵庫医科大学	生殖	産婦人科専門医
加嶋 洋子	助教	徳島大学	腫瘍	産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医
阿部 秋子	助教	熊本大学	産婦人科一般	―
和田 知春	助教	近畿大学	産婦人科一般	―

21 放射線診断科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 石井 一成 主任教授

出身大学 神戸大学
専門分野 放射線診断学、核医学
専門医資格 放射線診断専門医・核医学専門医

特殊［専門］疾患

最新型の画像診断装置を揃え、全身の画像検査・診断を行っています。また、各診療科と連携して様々な疾患に対するIVR治療を行っています。

［主な画像診断装置］

- CT…4台（64列、80列、256列、320列　各1台）
- MRI…4台（1.5T 3台、3T 1台）
- SPECT・SPECT/CT…2台
- PET/CT…1台
- 頭部・乳房専用 PET…1台
- 血管造影装置…6台

診療科の特徴

当科では、放射線診断、核医学、IVR（インターベンショナルラジオロジー：画像下治療）の3つの専門分野において、高度な医療を提供しています。

放射線診断：全身の画像検査（単純X線撮影、CT、MRI、消化管造影など）を実施し、厳格な精度管理のもと、質の高い診断を行っています。また、各診療科とのカンファレンスに積極的に参加することで、より正確な疾患診断と最適な治療方針の決定に貢献しています。

核医学：SPECTやPETなどの核医学検査を通じて、疾患の診断を行っています。特にがんの病期分類、認知症の早期診断に力を入れており、近畿大学高度先端総合医療センターPET分子イメージング部と連携し、アミロイドPETやSPECTといった最新の技術に基づいた診断と研究に取り組んでいます。

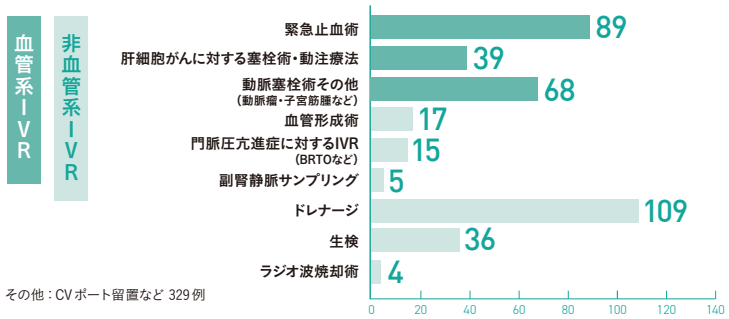
IVR: 肝細胞がんに対する動脈塞栓術などのカテーテル治療をはじめ、近年保険適応となった腎腫瘍などに対するラジオ波焼灼術や子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術といった新たな治療まで、幅広いIVR治療に対応しています。また、周産期出血に対する止血術のような緊急性の高い手技においては、関連各科と緊密に連携して24時間体制で対応することで、地域の患者さんの命を守る体制を構築しています。また、救急医など放射線科医以外の医師のIVR修練についても積極的に引き受けています。

TOPICS

画像診断・核医学：
各種画像検査（CT・MRI・核医学検査・PET）については近隣の病院からの御依頼も受け付けております。また、PETについては検診も行っています。

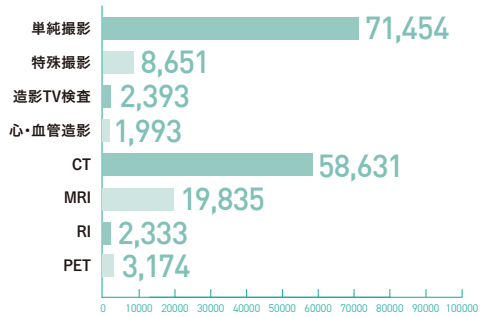
IVR：
生検やCVポート留置、透析シャント狭窄に対する血管形成術など侵襲の少ないIVR治療については、日帰りあるいは1泊2日の入院にて行っています。その他、他施設で実施困難な高難度IVRについても対応しますのでお困りの症例がありましたらいつでも御相談ください。

疾患別診療実績（IVR治療件数）



その他：CVポート留置など 329例

疾患別診療実績（件数 2024年）



医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
甲斐田 勇人 PET分子イメージング部	准教授	近畿大学	核医学	放射線診断専門医・核医学専門医
兵頭 朋子 中央放射線部	准教授	愛媛大学	放射線診断学	放射線診断専門医
河野 淳	准教授	神戸大学	放射線診断学	放射線診断専門医・核医学専門医
岡田 卓也	准教授／外来医長／病棟医長	神戸大学	IVR、放射線診断学	放射線診断専門医
任 誠雲	講師／医局長	近畿大学	放射線診断学	放射線診断専門医・核医学専門医
谷 龍一郎	医学部講師	三重大学	IVR、放射線診断学	放射線診断専門医・救急科専門医
平山 歩	医学部講師	滋賀医科大学	放射線診断学	放射線診断専門医・核医学専門医
浦瀬 篤史	助教	聖マリアンナ医科大学	IVR、放射線診断学	救急科専門医

22 放射線治療科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 松尾 幸憲 主任教授

出身大学 京都大学
専門分野 肺がん、消化器がん
専門医資格 放射線科専門医

特殊［専門］疾患

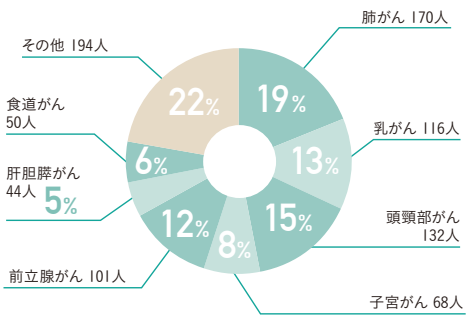
放射線治療は、手術や薬物療法とならんで、悪性腫瘍（がん）の重要な治療法であり、その適応範囲は頭部から骨盤部、早期から遠隔転移期、若年者から高齢者と非常に多岐にわたります。

- 悪性腫瘍（がん）
  脳腫瘍、頭頸部がん、食道がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、膵臓がん、胆道がん、子宮がん、前立腺がん、膀胱がん、腎臓がん、直腸がん、皮膚がん、悪性リンパ腫、神経内分泌腫瘍、骨転移、脳転移、リンパ節転移その他、悪性腫瘍全般
- 良性疾患
  ケロイド、翼状片

診療科の特徴

我が国において年間のがん罹患数は100万人におよび、その克服は国民的課題の一つとなっています。放射線治療は、手術および抗がん剤と並ぶ、がん治療の3本柱の一つを担います。他の治療と比べて、放射線治療には機能と形態の温存が可能であるという大きな特長があります。がん患者の半数が治癒できるようになった現在、寿命を長らえるだけでなく社会復帰の可能な QOL（quality of life）の高い本治療への社会的要請が強まっています。
放射線治療は、高エネルギーX線や電子線を発生する直線加速器（リニアック）、あるいは放射性同位元素を体内に挿入する小線源治療装置で治療します。当科では6名の放射線治療専門医が外来を担当し、2台の最新型高精度リニアックを用いた強度変調放射線治療（IMRT）、体幹部定位放射線治療（SBRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）、ヨウ素 125 線源の永久挿入による前立腺がん小線源治療、子宮がん腟内照射などすべての高精度放射線治療が可能です。
また、近年では放射性同位元素を薬剤として体内に投与する核医学治療も注目されています。当科は1名の核医学専門医を中心に本治療を担っています。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

当科で実施可能な特殊治療には以下のものがあります

- 強度変調放射線療法（IMRT）：腫瘍の形状に合った線量分布ができる照射法
- 脳および体幹部定位放射線治療（SRS, SBRT）：小さな腫瘍をピンポイントで高線量照射する
- 画像誘導放射線治療（IGRT）：直線加速器の治療台上で画像を撮影し、治療部位を合わせる
- 192Ir 高線量率小線源治療：子宮がんの腟内照射
- 125I 永久挿入密封小線源治療：前立腺がんに対する組織内照射
- 呼吸同期・停止照射法：肺がんなどで呼吸の動きに合わせて照射する
- PET/CT シミュレーション、4D-CT シミュレーション：正確な治療計画法
- 核医学治療：神経内分泌腫瘍などに対する放射線同位元素を用いた治療法

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
細野 眞	教授	京都大学	核医学、RI内用療法	放射線科専門医・核医学専門医
中松 清志	准教授／医局長	近畿大学	脳腫瘍、婦人科腫瘍、前立腺がん、肺がんなど	放射線科専門医
土井 啓至	准教授	高知大学	消化器がん、肺がん、乳がん、骨軟部腫瘍など	放射線科専門医
稲田 正浩	医学部講師／外来医長	近畿大学	頭頸部がん、食道がん、前立腺がんの密封小線源治療	放射線科専門医
植原 拓也	医学部講師／病棟医長	近畿大学	婦人科腫瘍、頭頸部腫瘍、婦人科腫瘍の小線源治療	放射線科専門医
今村 沙織	助教	福井大学	放射線治療	放射線科専門医
濱澤 奈緒子	助教	宮崎大学	放射線治療	放射線科専門医
福田 隼己	助教	近畿大学	放射線治療	―

23 麻酔科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／診療部長 中嶋 康文 主任教授

出身大学 京都府立医科大学
専門分野 手術麻酔管理、集中治療医学
専門医資格 麻酔科専門医

特殊［専門］疾患

手術麻酔管理は、低出生体重児から超高齢者までのすべての科の麻酔管理（特に、年間300例以上の開心術、ロボット支援手術、小児カテーテルアブレーション、未熟児網膜症などが特徴です）を行っています。集中治療部（ICU: Intensive Care Unit）の管理と疼痛制御センター（ペインクリニック）の業務も行っています。

診療実績（2024年度）

手術麻酔管理	6,537 例
小児の麻酔	123 例
心血管外科の麻酔	610 例
脳神経外科の麻酔	139 例
帝王切開の麻酔	62 例
胸部外科の麻酔	346 例
ペインクリニック患者数	7,282 人
新規患者	278 人
集中治療室延べ患者数	3,211 人

診療科の特徴

【手術麻酔管理】
◎手術室における全身麻酔・区域麻酔管理。血管造影室での小児カテーテルアブレーションの全身麻酔管理。
◎麻酔科の主な仕事は、全身管理と疼痛管理です。手術麻酔管理では、患者さんの手術中の安全を確保し命を守ることを使命としています。
◎術前外来を行い、全身麻酔を含む麻酔全般についての御説明（実際の麻酔のビデオ鑑賞を含む）を行い麻酔について理解していただくとともに、安全な麻酔管理を行うため、様々な病態についても患者さんから再度お聞きしています。
◎様々な最新のモニター（心電図、血圧、パルスオキシメータ、カプノメータや bispectral indexの他に、経食道心エコー、近赤外線分光法、運動誘発電位や感覚誘発電位等）を駆使して、安全な麻酔管理を行います。
◎手術後の痛みは、患者さんが苦しいだけでなく、手術からの回復が遅れたり手術後の合併症が増えるといわれています。硬膜外鎮痛・各種神経ブロック・静脈内鎮痛薬持続投与など様々な手法を用いて、手術中のみならず手術後の痛みを軽減するようにしていますのでご安心下さい。

【集中治療部】
◎大手術（開心術や食道手術等）後の管理や重症患者の手術後の管理。各病棟など院内発症の重症患者の管理。
◎ ICUは、厚生労働省が規定する特定集中治療室管理料1の施設基準を満たしています。ここでは、ICU専門医の資格を有する麻酔科医が中心となり、主治医、各科専門の医師、看護師、臨床工学士、薬剤師や作業療法士等が協力して、病院の最高の知識と最高の技術を提供し、24時間体制で重症患者の治療に当たっています。

【疼痛制御センター】
◎難治性疼痛全般の治療
◎疼痛制御センター（ペインクリニック）部門では、各種神経ブロック療法に加え、脊髄電気刺激療法などの高度な技術と知識を駆使して、難治性疼痛全般（帯状疱疹後神経痛などの神経障害性痛、頭痛、三叉神経痛、がん性痛など）の治療を行っています。
また、運動器疼痛（腰椎、頸椎疾患など）に関しては手術と薬物治療の中間的治療により、日常生活動作の改善に尽力しています。

TOPICS 多様式鎮痛法（multimodal analgesia）による手術後の痛みの軽減

手術後の痛みは、患者さんにとって苦痛であるとともに、様々な合併症を引き起こしたり免疫能を低下させるため、手術からの回復を遅らせる原因ともなります。多様式鎮痛法とは、メカニズムの異なる様々な鎮痛（痛みの軽減）法を駆使してより効果的な鎮痛を得るだけでなく、個々の鎮痛法の副作用も減らすことができます。その中には、様々な薬物による鎮痛、硬膜外麻酔による鎮痛、末梢神経ブロックによる鎮痛等が含まれ、手術後に傷が直るまでほとんど痛みを感じることなく過ごすこともできます。また患者さんに合った鎮痛法を選択することもできますので、手術の前に行なう麻酔科の術前外来で御相談いただけたらと思っています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
大田 典之 ICU部	教授	大阪大学	手術麻酔管理、集中治療医学	麻酔科専門医
湯浅 晴之	准教授	近畿大学	手術麻酔管理	麻酔科専門医
冬田 昌樹 感染症内科	講師	近畿大学	手術麻酔管理、集中治療医学、ペインクリニック	麻酔科専門医・ペインクリニック専門医
岩元 辰篤	講師／病棟医長／外来医長	近畿大学	手術麻酔管理、集中治療医学、ペインクリニック	麻酔科専門医・ペインクリニック専門医
中山 力恒	講師／医局長	京都府立医科大学	手術麻酔管理	麻酔科専門医
上原 圭司	医学部講師	近畿大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	麻酔科専門医・ペインクリニック専門医
松島 麻由佳 中央手術部	医学部講師	近畿大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	麻酔科専門医・ペインクリニック専門医
北浦 淳寛	医学部講師	近畿大学	手術麻酔管理、集中治療医学	麻酔科専門医
辻本 宜敏	医学部講師	信州大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	麻酔科専門医
法里 慧	医学部講師	近畿大学	手術麻酔管理	麻酔科専門医
松本 知之	医学部講師	近畿大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	麻酔科専門医・ペインクリニック専門医
藤井 真樹子	助教	川崎医科大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	麻酔科専門医・ペインクリニック専門医
湯浅 あかね	助教	徳島大学	手術麻酔管理	―
岡本 健	助教	神戸大学	手術麻酔管理、集中治療医学	―
髙岡 敦	助教	近畿大学	手術麻酔管理	麻酔科専門医
古藤 大和	助教	近畿大学	手術麻酔管理	麻酔科専門医
坂本 悠篤	助教	関西医科大学	手術麻酔管理、集中治療医学	麻酔科専門医
眞鍋 理紗	助教	徳島大学	手術麻酔管理	
石﨑 智哉子	助教	近畿大学	手術麻酔管理	麻酔科専門医
小角 怜子	助教	近畿大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	―
福田 一成	助教	近畿大学	手術麻酔管理、ペインクリニック	―

24 歯科口腔外科

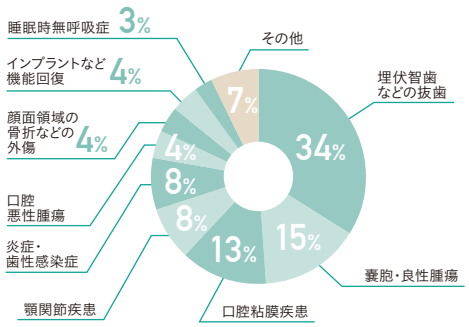
近畿大学病院HP　診療科HP

責任者 榎本 明史 教授
出身大学 大阪大学
専門分野 口腔腫瘍、顎関節疾患、口腔インプラント、口腔感染症、口腔顎顔面外傷、口腔粘膜疾患など
専門医資格 口腔外科専門医

特殊［専門］疾患

1. 顎顔面口腔機能回復治療
2. 周術期・がん治療などにおける口腔機能管理
3. 口腔がん治療
4. 顎関節疾患
5. 睡眠時無呼吸症の歯科的治療
6. 口腔感染症
7. 顎変形症

疾患別診療実績（患者数割合）



診療科の特徴

◎口腔外科疾患全般の入院治療

当科では口腔外科疾患全般に対しての外来及び入院での加療を実施しています。低位埋伏智歯抜歯や顎骨嚢胞・腫瘍の摘出術、口腔インプラント埋入手術などにおいても患者負担軽減を目指し、診療を行っています。

◎周術期・がん治療などにおける口腔機能管理

口腔衛生不良で口腔内細菌が増殖すると、肺炎や創部感染などの術後合併症が起こりやすくなることが知られています。肺や食道などのがんや人工関節の手術を受ける患者さんには、合併症を減らす目的で、治療の一環として口腔ケアを行っております。また化学療法や放射線療法といったがん治療の副作用の中に口腔粘膜炎がありますが、口腔ケア行うことで症状を軽減できます。手術やがん治療が順調に進み、苦痛が少なく治療を受けていただけるような口腔機能管理を行っております。

◎顎顔面口腔インプラント治療

喪失した歯牙の代わりに人工歯根を顎骨に埋入し、咀嚼機能を回復・獲得する口腔インプラント治療を行っています。一般的な歯科インプラント治療だけでなく、口腔領域の外傷・腫瘍・先天異常により広範囲での歯牙・顎骨欠損が生じた症例に対して実施する口腔インプラント治療も行っております。口腔腫瘍治療のための外科手術実施のみにとどまらず、その後の口腔の QOL の回復を含めて骨移植を含めた包括的な治療を行っております。

◎口腔がん治療

がん拠点病院の歯科口腔外科として口腔がん治療に携わっています。診断から治療開始まで迅速に行える体制を整えています。耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科、形成外科などの関係診療科と連携し、集学的治療を行っています。単にがんを根治することにとどまらず、治療に伴う口腔機能障害に対し、口腔疾患のスペシャリストとしてリハビリテーションも積極的に行っています。

TOPICS

当科は、1979年の開設後、46年目となり南大阪地域での医科歯科地域医療の連携の中心として発展してきました。診療領域は、口腔外科一般に加え、口腔腫瘍、口腔顎顔面外傷、顎変形症、顎顔面インプラント、重症口腔感染症、顎関節疾患、口腔機能管理を伴う疾患など多岐にわたっており、南大阪での特定機能病院としての役割を果たすべく活動を行っています。当科では、地域の診療所との連携を取り、年間3000件程度の新規の患者さんの診察を行っています。また診療所だけでなく、病院同士の病病連携も充実させており、各病院施設とも連携を取り年間1700件程度の外来手術、250症例程度の入院手術を行っています。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
李 篤史	講師／病棟医長	東北大学	口腔腫瘍、口腔顎顔面外傷、顎変形症	口腔外科専門医
岩崎 早苗	医学部講師／医局長	大阪大学	口腔顎顔面外傷、顎関節疾患、口腔感染症	口腔外科専門医
下出 孟史	医学部講師／外来医長	広島大学	口腔感染症、口腔インプラント、睡眠時無呼吸症、顎関節疾患、口腔腫瘍、口腔顎顔面外傷、口腔粘膜疾患	口腔外科専門医
木下 優子	助教	大阪大学	口腔外科一般、口腔感染症、睡眠時無呼吸症、顎関節疾患、口腔腫瘍、口腔顎顔面外傷、口腔粘膜疾患	—
髙田 雄斗	助教	朝日大学	口腔外科一般、口腔感染症、睡眠時無呼吸症、顎関節疾患、口腔腫瘍、口腔顎顔面外傷、口腔粘膜疾患	—

25 漢方診療科（東洋医学研究所）

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者／所長　武田 卓 教授

出身大学　大阪大学

専門分野　漢方全般、女性医学、腫瘍

専門医資格　漢方専門医・産婦人科専門医・内分泌代謝科専門医・婦人科腫瘍専門医

特殊［専門］疾患

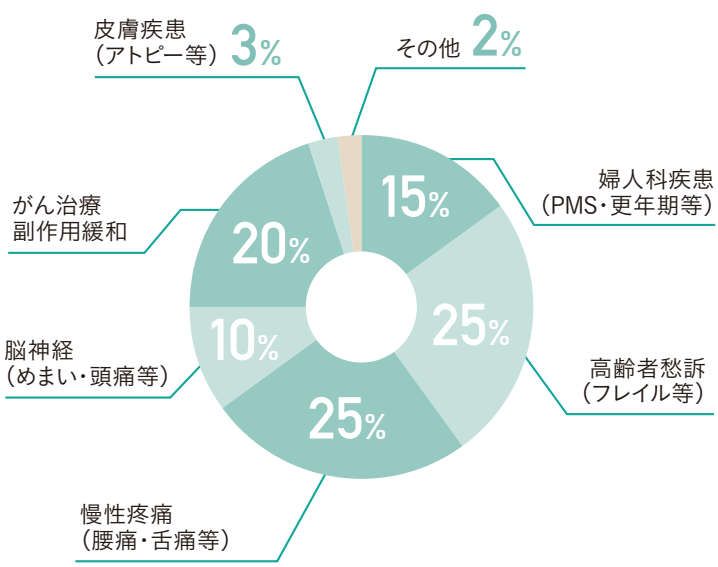
漢方薬と鍼灸を用いた東洋医学的診療を幅広く行っている。外科的治療が優先されるような疾患（悪性腫瘍等）においても、治療（手術、抗がん剤、放射線治療）にともなう症状緩和が可能である。特に、女性疾患（更年期障害、月経前症候群、月経困難症等）、皮膚疾患（アトピー性皮膚炎等）、冷え症については専門外来として、西洋医学的専門性をもった治療を行っている。

診療科の特徴

本診療科は、東洋医学に基づいた漢方治療を主軸に、患者一人ひとりの体質や症状の違いを丁寧に見極めた個別化医療を提供しています。西洋医学における病名中心の治療とは異なり、東洋医学的な診断法を用いて、身体全体のバランスを整えることを重視しています。近畿大学病院ではエキス剤を用いた保険診療として漢方治療を実施しており、附属診療所では自由診療を採用することで、より柔軟かつ多角的な治療が可能となっています。自由診療では、保険適用の有無にかかわらず有効なエキス剤が使用できるほか、患者の状態に合わせて厳選された高品質な生薬を用いた煎じ薬によるオーダーメイド処方を行っています（新病院移転後は漢方診療科内で、保険外来・自由診療外来として実施予定です）。

女性特有の症状にも力を入れており、月経困難症、更年期障害、月経前症候群（PMS）、不妊症、子宮筋腫、子宮内膜症など、女性のライフステージに応じた幅広い悩みに専門的に対応しています。また、冷え症やサルコペニア・フレイルといった高齢者疾患に対しても、保険診療では通常行われないような詳細な問診票や体質評価を通して、きめ細かな診断と治療を行います。必要に応じて西洋薬との併用も視野に入れ、東西両医学の長所を生かした診療が特徴です。さらに、医師の指示のもと、専門の鍼灸師による鍼灸治療も併用することで、より高い治療効果が期待される包括的な医療を提供しています（新病院移転後は、外部の鍼灸治療施設と連携予定です）。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS　フレイルに対する東洋医学の応用

超高齢化社会において、加齢による虚弱（フレイル）が注目されています。当科でも、食欲不振や、歩行速度が遅くなった訴えで、受診される高齢者のかたが急増しています。単なる筋力低下だけでなく、意欲の低下なども含んだ概念であり、西洋医学では、確立された治療法はありません。自由診療外来では、東洋医学的診断だけではなく、体組成計による四肢筋肉量測定や筋力測定等も実施しています。治療には、食欲や意欲を出す漢方薬の処方が多いですが、漢方薬は様々な生薬が複合されており、フレイルの様々な症状に対しても１種類の漢方薬で効果が期待できます。痛みに対する鍼灸治療の併用により活動性向上も期待できます。世界標準の最新の診断に東洋医学を組みあわせた多面的な診断治療を実施しています。

26 リハビリテーション科

近畿大学病院HP　診療科HP

責任者 東本 有司 教授
出身大学 和歌山県立医科大学
専門分野 リハビリテーション、呼吸器疾患
専門医資格 リハビリテーション科専門医・総合内科専門医・呼吸器専門医・老年病専門医

特殊［専門］疾患

急性期疾患を主な対象として、
- 心大血管疾患
- 脳血管疾患
- 運動器疾患
- 呼吸器疾患
- 悪性疾患
- 摂食嚥下障害

に対してリハビリテーションを実施している。

診療科の特徴

◎脳卒中の早期機能訓練、心大血管術後の早期離床、骨折後の機能訓練、スポーツ外傷に対するリハビリテーション、神経筋疾患、末梢神経障害、小児神経疾患などが中心である。

◎慢性呼吸器疾患の増悪や急性心筋梗塞後の患者に対しては、早期に社会復帰ができるよう心肺機能や運動能力の回復も行っている。

◎悪性疾患術前後のリハビリテーションを行っている。

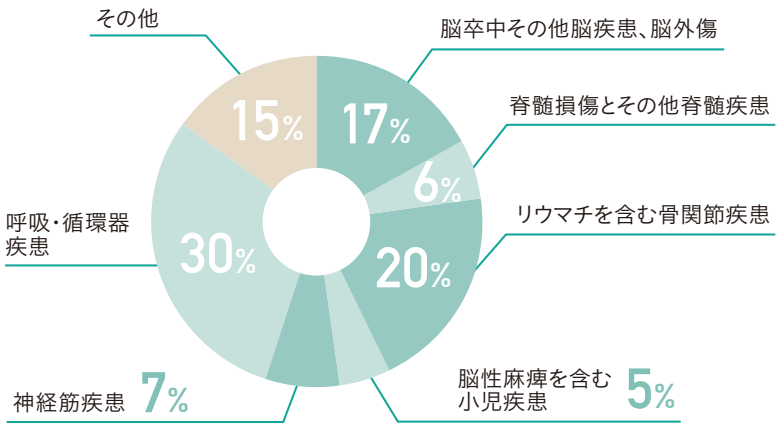
◎治療手段として、運動療法、装具療法、義肢作製など。

◎特定機能病院の特殊性である各科先端医療との連携を行っている。

◎嚥下内視鏡検査、造影検査の結果に基づいた干渉波刺激、低周波刺激を用いた嚥下訓練。

◎健康医学、予防医学、スポーツ医学の観点から、疾病の管理・進展防止、発症予防、さらに健康の維持・増進をはかる。

疾患別診療実績（患者数割合）



TOPICS

- 神経難病の患者に対してロボットスーツ HAL によるリハビリテーションも実施している。
- 慢性呼吸器疾患の呼吸リハビリテーション実施時には横隔膜機能評価として、超音波による横隔膜移動距離を計測してリハビリテーションに活用している。
- 肺がんの術前には心肺運動負荷試験（CPX）を実施して術後の合併症の予測と予防に活用している。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
花田　一志	講師	近畿大学	リハビリテーション、メンタルヘルス	精神科専門医・老年病専門医
糸数　万紀	講師	近畿大学	リハビリテーション、運動器疾患	リハビリテーション科専門医・整形外科専門医
稲田　莉乃	医学部講師	近畿大学	リハビリテーション、脳神経疾患	神経内科専門医・総合内科専門医

KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL

各種センターのご案内

27 救急災害センター
救命救急センター／熱傷センター 46
心臓血管センター 47
脳卒中センター 48
28 その他センター
中央手術部（中央手術センター） 49
中央手術部（低侵襲外科センター） 49
内視鏡センター 50
PET分子イメージング部（高度先端総合医療センター） 50
血液浄化センター 51
早期認知症センター 51
アレルギーセンター 52
睡眠センター 52
てんかんセンター 53
スキンサージェリーセンター 53
リウマチセンター 54
運動器外傷センター 54
人工関節センター 55
脊椎センター 55
周産期母子医療センター（NICU） 56
周産期母子医療センター（分娩部） 56
炎症性腸疾患（IBD）センター 57
胆膵疾患センター 57
肝がん高度先端治療・研究センター 58
がんセンター 58
ゲノム医療センター 59
遺伝子診療部 59

27 救急災害センター

近畿大学病院HP　救命救急センターHP

責任者／診療部長 髙橋 淳 主任教授
出身大学 京都大学
専門分野 脳血管障害の外科治療（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、もやもや病）
専門医資格 脳神経外科専門医

救命救急センター／熱傷センター

救命救急センター長 篠崎 広一郎 主任教授
出身大学 千葉大学
専門分野 救急（ER）、集中治療
専門医資格 救急科専門医

特殊［専門］疾患

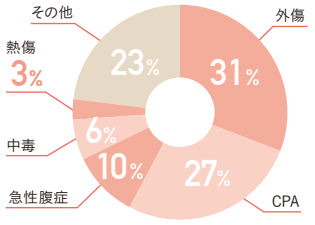
救命救急センター

3次救急疾患全般
- 重度外傷
- 特殊救急疾病
- 脳血管障害
- 急性肝不全
- 重症急性膵炎
- 急性中毒
- 広範囲熱傷
- 四肢指切断
- 急性大動脈疾患等
- 重症敗血症　など
- 緊急の治療を要する急性疾患

熱傷センター

- 広範囲熱傷（全身熱傷）
- 化学熱傷
- 複合熱傷

疾患別診療実績（患者数割合）



センターの特徴

救命救急センター

3次救急疾患全般

◎敗血症性ショック・多臓器不全に対する集中治療　◎重度多発外傷に対する集中治療
◎腹部実質臓器損傷や骨盤骨折に対するIVRを含めた高度医療　◎重度熱傷に対する戦略的治療
◎重症急性膵炎に対する複数科連携による集中治療　◎消化管出血に対する緊急消化管内視鏡検査と治療
◎急性冠不全に対する治療　◎院外心肺停止に対する高度医療　◎脳卒中に対するインターベンションを含めた治療
◎急性大動脈疾患に対する緊急医療　◎切断指の再接着治療
上記の様な重症疾病に対し、各診療科と協力しながら救急受入れならびに治療を行います。

救急外来（ER）

◎原因疾患が明らかではない症状（発熱や各種痛み）や急な治療を要する症状（腹痛・意識障害）などに対して、初期診断と処置を行ない専門診療科へのスムーズな橋渡しを行う。
◎特に心筋梗塞、脳卒中、消化管出血などの疾患を確実に専門治療につなげる。
◎プライマリ・ケア領域疾患については、初期診療を提供し、地域の医療機関の診療につなげる。
◎急性期の状態にある患者さんの診断と初期治療に特化し、病院の窓口機能やセーフティネット機能、災害時におけるリザーバー機能をもつ。
◎専門診療科や救命救急センターとの連携を軸に、コーディネート型の疾病救急を提供する。医学生や臨床研修医に診断推論やプライマリ・ケア教育を行い、他の医療専門職（看護師・薬剤師・救急救命士など）にもチーム医療教育を提供し、次世代の優れた医療従事者の育成にも役割を果たす。

熱傷センター

小児熱傷、会陰部熱傷、広範囲熱傷、気道熱傷、化学熱傷、高齢者熱傷

◎軽症熱傷から重症熱傷まで全ての「熱傷」患者を24時間365日診療します。
◎他院からの処置困難な熱傷患者も受け入れます。
◎軽症患者・小範囲熱傷はおもにER・形成外科で対応し、重症・広範囲熱傷は救命救急センターで治療を行います。重症患者が軽快した後は形成外科にて晩期合併症（熱傷潰瘍や拘縮）などの治療を行います。入院時より医師・看護師・ケースワーカー・作業療法士・言語療法士などの多職種にて患者さんの治療方針を組み立て、急性期から慢性期までの治療をチーム医療で行います。

TOPICS

1982年に南大阪で初めての救命救急センターとして指定を受けて以来、今年で開所40年目に入りました。乳幼児から超高齢者まであらゆる年齢層の種々の重症疾患の患者さんに対して、大学病院である強みを生かすことにより各診療科と協力しながら急性期の初期治療から集中治療までの診療を担っています。また、近年発生が危惧されている南海トラフ巨大地震や巨大台風などの自然災害、そしてテロ活動などの人為災害に対する医療体制の構築にも積極的に取り組んでいます。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
重岡　宏典	教授	近畿大学	消化器外科、一般外科	外科専門医・消化器外科専門医
太田　育夫	准教授	近畿大学	救急全般、内科疾患	救急科専門医
植嶋　利文	講師	近畿大学	救急全般、災害医療	救急科専門医・脳神経外科専門医
松島　知秀	医学部講師	近畿大学	外傷、救急外科、熱傷	救急科専門医
石部　琢也	医学部講師	近畿大学	救急外科	救急科専門医

治療方針

◎365日、24時間体制の3次救急施設
◎年間約1,000人の3次重症救急患者を治療している。外傷患者の割合は25%である。
◎院外心肺停止患者は年120例受け入れている。
◎救急外来（ER）と連携を密にして2次から3次までの救急患者に対応できるシステムをとっている。
◎災害拠点病院　◎ DMAT（災害時医療派遣チーム）を有する。
◎大阪府南河内地域メディカルコントロール体制の基幹センター

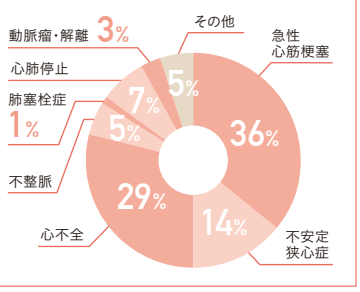
心臓血管センター

センター長 栗田 隆志 教授
出身大学 福岡大学
専門分野 不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT
専門医資格 循環器専門医

特殊［専門］疾患

- 急性心筋梗塞
- 不安定狭心症
- 重症心不全
- 心原性ショック
- 重症不整脈
- 急性肺血栓塞栓症
- 劇症型心筋炎
- 大動脈解離
- 動脈瘤切迫破裂
- 重症弁膜症　など

疾患別診療実績（患者数割合）



センターの特徴

緊急性のある心臓疾患全般

◎一刻も早い治療を要する急性冠症候群（急性心筋梗塞、不安定狭心症など）に対して、緊急冠動脈インターベンションを積極的に行っている。ほとんどの症例においてDoor to Balloon Time（患者さんが来院して冠動脈血流を再開させるまでの時間）90分以内を達成しており、今後も、十分な体勢を24時間整えていく。
◎緊急搬送依頼に遅滞なく対応するため、CCU当直医がダイレクトコール（ハートコール）を24時間携帯し、あらゆる現場からの要請に応えている。

ハートコール：0120-145（イーヨゴ）-810（ハート）

◎重症心不全、心原性ショックに対して補助循環（IABP、PCPS、IMPELLAなど）を常に適応できる体勢を整えている。
◎薬物抵抗性の重症心室不整脈に対する緊急カテーテルアブレーション
◎循環器内科と心臓血管外科との連携を緊密に行い、急性冠症候群や大動脈解離に対する緊急手術を常に行える体勢を整えている
◎緊急冠動脈インターベンション
◎冠動脈狭窄のイメージング……血管内視鏡、IVUS、OCT
◎補助循環……IABP、PCPS、LVAD、IMPELLA
◎経カテーテル的大動脈弁植え込み術、経皮的僧帽弁クリップ術
◎緊急心臓血管外科的治療
◎心大血管緊急手術

TOPICS　〝どんな患者さんも絶対に断らない〟をポリシーに

CCU（cardiac care unit）は急性心筋梗塞や不安定狭心症などの重症冠動脈疾患だけでなく、重症心不全、重症不整脈、大動脈解離などの大動脈疾患、また心肺停止蘇生後など様々な疾患の患者さんに対して治療を行う循環器系集中治療部門です。当院では救急災害センターの4階にCCUは6床確保されており、循環器救急患者さんは絶対に断らないという理念のもと日々診療を行っております。
CCUは24時間365日体制で循環器内科、心臓血管外科医師が院内で待機しており、ハートコールといった医師直通のホットラインシステムを利用することで、一刻一秒を争う患者さんに速やかに対応が出来るようになっており、また心臓カテーテル検査室に関しても、心臓血管撮影装置2台が併設されていることで緊急治療を要するような急性心筋梗塞の患者さんの搬送が重なった場合にも、すぐに対応できる体制が整っております。
また、重症心不全、心肺停止蘇生後の患者さんなどに対する補助循環装置による高度で専門的な治療から高齢者に対するカテーテル治療を含めた低侵襲心血管治療まで最先端の治療を積極的に取り入れております。当センターでは循環器の専門医が中心となり、看護師、臨床工学技士、検査技師、放射線技師など多くの専門職がチームとなり治療にあたることで、患者さんに対してより高度で安全な医療を提供しております。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
野田 崇	准教授	広島大学	不整脈、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、CRT	循環器専門医・総合内科専門医

27 救急災害センター

責任者／診療部長　髙橋 淳 主任教授

出身大学　京都大学
専門分野　脳血管障害の外科治療（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、もやもや病）
専門医資格　脳神経外科専門医

脳卒中センター

センター長代行　佐藤 徹 准教授

出身大学　京都大学
専門分野　脳血管障害、脳血管内治療
専門医資格　脳神経外科専門医・脳血管内治療専門医

特殊［専門］疾患

- 脳卒中
  （脳梗塞、脳内出血、
  くも膜下出血など）
- 一過性脳虚血発作

センターの特徴

緊急対応が必要な脳卒中（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血など）

◎脳卒中患者が SCU（Stroke Care Unit）を有する脳卒中センターに搬送されると、24時間365日迅速な画像診断と高度治療が専門医により施され、救命率のみならず神経機能回復を改善させます。

◎救急隊・一次救急病院 ER・近隣病院院内発症からの発症直後の緊急搬送依頼に対して、専門医が脳卒中コール（専門医へのダイレクトホットライン）にて常に迅速応需しています。

◎脳梗塞超急性期に対する経静脈的血栓溶解療法および機械的血栓回収療法を迅速に行い、治療成績を劇的に改善させています。

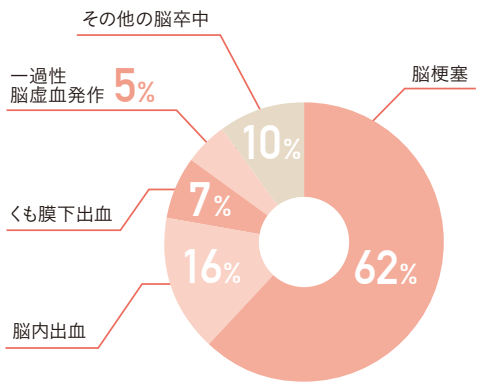
◎脳内出血およびくも膜下出血に対し、病態に応じて血管内治療もしくは直達手術のどちらか最適な治療を行い、救命率・機能転帰の向上を得ています。

◎脳卒中地域連携パスによる急性期から回復期へのリハビリテーションやかかりつけ医へのシームレスな連携が行われ、高い在宅復帰率・復職率を得ています。かかりつけ医と再発予防治療の連携を推進しております。

脳卒中治療は時間との勝負です。脳卒中を疑う症例では脳卒中コールにご連絡ください。

脳卒中コール：072-366-0920

疾患別診療実績（患者総数519）



TOPICS　脳血管内治療・外科治療と脳卒中内科のハイブリッド体制で最善の脳卒中治療を提供します

脳卒中は突然に起こり、患者さんとその周囲の人の生活を一変させる可能性の高い疾患です。近年、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法、くも膜下出血（脳動脈瘤破裂）に対する脳動脈瘤コイル塞栓術といった脳血管内治療の発展により、脳卒中の予後が改善してきています。当センターには日本脳神経血管内治療学会指導医２名（佐藤、辻）、専門医１名（田中）が在籍しており、脳神経外科（血管内治療専門医２名、血栓回収療法実施医２名が在籍）との緊密な連携の下、脳卒中に対する迅速かつ的確な対応を行っています。血管内治療もしくは直達手術を行わない保存的加療の患者についても神経内科専門医の田中を中心に脳卒中ガイドラインに基づく最新の医療を提供し、慢性期に至るまでシームレスな医療を提供しております。

医師名	役職／職位	出身大学	専門分野	専門医資格
辻 潔	講師	近畿大学	脳血管障害、脳血管内治療	脳神経外科専門医・脳血管内治療専門医
田中 寛大	医学部講師	大阪市立大学（現 大阪公立大学）	脳血管障害、脳血管内治療、脳神経超音波検査	神経内科専門医・脳血管内治療専門医

中央手術部（中央手術センター）

中央手術部長　坂口 元一 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　虚血性心疾患、大動脈疾患、弁膜症
専門医資格　心臓血管外科専門医・外科専門医

センターの特徴

中央手術センターは外科系診療科だけでなく循環器内科など各分野の専門医が連携して年間多数の高度な手術を実施しています。また緊急性の高い症例に対しても24時間体制で対応しています。地域の救急医療のバックアップとして迅速かつ確実な手術体制を整備しています。高感度内視鏡手術装置、高精度ナビゲーションシステム、ハイブリッド手術室、Da VinciやHinotoriのロボット支援下手術など最先端の医療機器を多数導入しています。また厳格な感染対策、麻酔管理のもと安全性を追求した手術環境を提供しています。

TOPICS

本年度11月に新病院へ移転いたします。新病院では手術室が増室され、より多くの高度手術が可能となります。ハイブリッド手術室は2部屋に増室されて、主に循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科がより多くの最先端な手術を行うことが可能となります。また新病院では外来手術の体制を整備して、より多くの日帰り手術を行う予定です。

中央手術部（低侵襲外科センター）

低侵襲外科センター長　吉村 一宏 教授
出身大学　和歌山県立医科大学
専門分野　尿路結石、内視鏡手術、尿路悪性腫瘍
専門医資格　泌尿器科専門医

センターの特徴

低侵襲外科センターでは内視鏡を用いた治療を行っています。内視鏡治療のメリットとして、創部が小さい、目立たない、術後の疼痛が開腹手術と比較し少ない、術後の回復が早く、入院日数が短くなるなどがあげられます。
当院では2014年からDa Vinciサージカルシステムを用いたロボット支援下腹腔鏡手術に取り組んでいます。現在では食道、肺、肝臓、大腸、子宮、卵巣、腎、前立腺、膀胱などの悪性腫瘍はロボット支援下腹腔鏡手術が主流となっております。ロボット　支援手術の特徴は従来の腹腔鏡手術と比較し、より繊細な鉗子操作ができる点で、これにより複雑な縫合等の手技を短時間で行うことができるようになりました。

TOPICS

2024年からhinotoriサージカルロボットシステムを導入しています。hinotoriサージカルロボットシステムはわが国で開発されたわが国初のロボット支援システムで、Da Vinci同様の正確な鉗子操作により、難しい手術手技をより短時間で行うことができます。新病院に移転した後はDa Vinciサージカルシステムおよびhinotoriサージカルロボットシステムの2台体制で患者さんによりよい医療をとどけて参りたいと考えております。

内視鏡センター

診療部長　工藤 正俊 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B 型肝炎、C 型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格　総合内科専門医・消化器病専門医・肝臓専門医・超音波専門医・消化器内視鏡専門医

センターの特徴

当センターでは上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、小腸内視鏡、胆膵内視鏡、気管支鏡、胸腔鏡を行なっており、消化器内科、外科、呼吸器内科、腫瘍内科が連携して運営しています。消化管内視鏡では胃がん、大腸がんの診断、治療、胆膵内視鏡では膵がん、胆道がんの診断や胆管結石の治療、呼吸器内視鏡では肺がんやびまん性肺疾患の診断や膿胸などの治療を行っています。鎮静下内視鏡も行っており、苦痛の少ない検査、治療を心がけています。消化管出血や閉塞性黄疸、胆管炎などの救急対応、緊急内視鏡にも対応しています。

TOPICS

消化管分野では内視鏡的粘膜下層剥離術を数多く行っており、困難部位や瘢痕、治療後再発などの困難例にも対応可能です。小腸内視鏡も行っており、バルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡による診断、治療の経験も豊富です。胆膵分野では胆道ドレナージ、超音波内視鏡下瘻孔形成術などを数多く行っており、巨大結石などの難治例にも対応可能です。またバルーン内視鏡を用いた術後再建腸管例の胆道処置も行っています。
呼吸器分野では気管支鏡での超音波下リンパ節生検やクライオバイオプシーなどを行い、診断率が向上しています。また、膿胸に対する胸腔鏡下胸膜掻爬術も行っています。

PET分子イメージング部（高度先端総合医療センター）

高度先端総合医療センター長　東田 有智 病院長
出身大学　近畿大学
専門分野　呼吸器内科、アレルギー内科
専門医資格　呼吸器専門医・アレルギー専門医
気管支鏡専門医・気管食道科専門医

PET 分子イメージング部長　石井 一成 主任教授
出身大学　神戸大学
専門分野　放射線診断学、核医学
専門医資格　放射線科専門医・核医学専門医

センターの特徴

当センターは平成 17 年に南大阪エリアで初の PET施設として設立されました。現在、PET/CT装置で保険適応である PETがん診断と臨床研究を行うとともに、自由診療・臨床研究による認知症 PET検査を行っています。また世界初の頭部・乳房専用 PET装置を有しており、脳アミロイド PET、脳腫瘍 PET、乳がん PETとして非常に高分解能の画像を提供しています。大学病院の強みを活かしたがんの早期治療を目指した PET検診センターとして、多数の PET検診コースを設定してご利用頂いております。新病院では最新の PET/CT装置の導入を予定しています。これからも、高度な専門知識を有するスタッフとともに、PET/CTや MRIなどの総合的な画像診断を行い、最先端の医療のみならず、研究・教育の向上を目指して努めてまいります。

TOPICS

アミロイド PET はアルツハイマー病の早期診断や治療選択に不可欠なバイオマーカー技術として注目されており、近年、抗アミロイド薬の普及に伴い、アミロイド陽性の正確な判定をアミロイド PET で可能となっています。頭部専用 PET 装置は高分解能かつ高感度な撮像を可能にし、微細なアミロイド沈着や脳領域間の集積差の検出に優れ、定量性の向上も期待されています。当院では世界初の頭部・乳房専用 PET を導入してアミロイド PET のみならず脳代謝 PET、脳腫瘍用アミノ酸 PET にも使用され、従来の全身用装置と比較して、被ばく低減や撮像時間短縮の利点もあり、臨床・研究双方での活用が進んでいます。

血液浄化センター

センター長　有馬 秀二 主任教授
出身大学　東北大学
専門分野　腎臓病一般、血液浄化療法、高血圧
専門医資格　総合内科専門医・腎臓専門医・老年科専門医

センターの特徴

当センターは腎不全に対する人工透析のみでなく、重症患者や難病疾患に対する特殊な血液浄化、集中治療室での持続血液浄化など、血液浄化療法全般に対応しており、2025年4月に人工透析部から血液浄化センターに名称変更いたしました。当センターの特徴としまして、慢性腎不全の患者さんに対しては腎代替療法の選択から導入の準備、導入期の管理を行い、血液透析については導入後維持透析施設にご紹介、腹膜透析については導入後も当院にて管理を行っています。また維持透析患者さんが合併症などで当院に入院された際には、透析担当医にて入院中の透析管理をさせていただいています。またそれ以外の特殊血液浄化に関しましても最新のデバイスを取り入れ、各科の連携を密に行い、治療の充足を図っています。

TOPICS

当センターでは月間約300件の血液透析、平均約30人の腹膜透析患者さんの管理、また、月間平均約20件程度の特殊血液浄化、月間約100件程度の持続血液透析濾過を施行、管理しています。
最近の特殊血液浄化療法においては、自己免疫性神経疾患に対する血漿交換や、炎症性腸疾患に対する顆粒球除去療法、腹水症例に対する腹水濾過濃縮再静注法など，難病に対する治療の一環として、また持続血液透析濾過療法では腎不全に対する治療以外に、敗血症や重症急性膵炎などに対する病勢管理を目的とした治療も行っています。
新病院移転後はこれまでの治療に加え、さらなる設備の充足を図っています。例えばCCUやICUなど各ユニットにRO水の供給口を配置して当センター同等の治療も行うことが可能となり、またセンター内では血液浄化機器のみならずモニターやベッドなど設備の充足により様々な病態の患者さんに対応できるよう計画しています。

早期認知症センター

センター長　橋本 衛 主任教授
出身大学　大阪大学
専門分野　精神医学全般、老年精神医学（認知症を含む）、高次脳機能障害学
専門医資格　精神科専門医

センターの特徴

当センターでは、アルツハイマー病をはじめとするさまざまな認知症疾患の診療を専門的に行っています。認知症の多くはいまだ根治させることができませんが、特発性正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫のように、手術によって治癒が期待できる認知症があります。また根治が期待できないアルツハイマー病も、病気の進行を遅らせる治療薬が近年発売されました。これらの治療は、早期に行うほどより大きな効果が期待できますので、認知症の早期診断はとても大切です。当センターでは、3TMRIやアミロイドPET検査などの高度な脳画像検査や、詳細な認知機能検査を活用し、認知症専門医が認知症の早期診断と治療に取り組んでいます。

TOPICS

アルツハイマー病は脳の中にアミロイドβと呼ばれるたんぱく質が異常に蓄積し、神経細胞が障害されることによって記憶や判断力などの認知機能が低下し、日常生活に支障が生じる病気です。令和5年12月に、脳内のアミロイドβを取り除き認知症の進行を遅らせる薬剤（抗アミロイドβ抗体）が発売され、現在2種類の薬剤が使用できるようになりました。この薬剤による治療では、適応となる患者さんの診断が難しく、また脳出血などの重大な副作用が生じる可能性があります。そのため高度な脳画像検査や認知症専門医療が求められ、南大阪地域でも治療可能な施設は少数です。当センターでは、令和6年3月より抗アミロイドβ抗体治療を行っていますので、治療を希望される場合は物忘れ診断外来にご相談ください。

アレルギーセンター

センター長　東田 有智 病院長
出身大学　近畿大学
専門分野　呼吸器内科、アレルギー内科
専門医資格　呼吸器専門医・アレルギー専門医・気管支鏡専門医・気管食道科専門医

センターの特徴

当センターは、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院として、内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科口腔外科が連携する複合診療体制を構築し、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症を中心とするアレルギー疾患に対応しています。特に重症患者や複合するアレルギー疾患を持つ患者の専門的治療を重要な課題として、分子標的治療薬、生物学的製剤による治療や、アレルギー免疫療法なども行っています。また、アレルギー疾患療養指導士や小児アレルギーエデュケーターによる患者教育、生活指導を通じて自己管理能力を高める支援を行っています。地域の医療機関との連携を通じた診療を実践しています。

TOPICS

重症の喘息、アトピー性皮膚炎、好酸球性副鼻腔炎、花粉症に対しては種々の生物学的製剤や分子標的治療薬が使用可能となり高い治療効果を示しています。ただし、これらの薬剤は臨床経験のある専門医によって適切に使用することが推奨されていますが、当センターでは各科専門医が揃っていますので是非ご相談ください。また、大阪府との共催で、アレルギー疾患についての市民公開講座や医療従事者向け講習会を開催し、最新の知識についての情報提供を行っています。これらの活動によって、地域のアレルギー疾患への正しい理解、診療レベルの向上に貢献しています。当院アレルギーセンターのホームページを確認してご活用いただければ幸甚です。

睡眠センター

センター長代行　東田 有智 病院長
出身大学　近畿大学
専門分野　呼吸器内科、アレルギー内科
専門医資格　呼吸器専門医・アレルギー専門医・気管支鏡専門医・気管食道科専門医

センターの特徴

当センターでは睡眠障害や、眠りに関わる体内時計の乱れなどに対して専門的な医療を提供しています。最新の医療技術と専門知識を活用し、患者さん一人ひとりの病状に合わせた治療を行い、睡眠の質の向上を目指します。睡眠時無呼吸症候群、不眠症、過眠症など幅広い疾患に対応し、専門医が丁寧に診察して、快適な睡眠を取り戻すためのCPAP治療、薬物療法、当院歯科口腔外科と連携した口腔内装置による治療を行っております。

TOPICS

日本では中等症以上の睡眠時無呼吸症候群の患者数は約900万人とされていますが、CPAP治療を受けているのは約50万人しかいません。睡眠時無呼吸症候群を放っておくと、仕事中や授業中の居眠りのため労働や学業に支障を来すほか、居眠り運転による交通事故を起こしてしまう可能性が高まります。近年では高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病になる危険性も高まることがわかってきましたので、「いびきがひどい」、「日中の眠気で大事な会議中にうとうとする」などの症状があれば積極的な受診が勧められます。

てんかんセンター

センター長代行　中野 直樹 准教授
出身大学　近畿大学
専門分野　てんかん外科治療、ジストニア、パーキンソン、不随意運動、脳深部電気刺激療法、機能的脳外科治療
専門医資格　脳神経外科専門医・リハビリテーション専門医

センターの特徴

診察対象は、てんかん（初発てんかん、薬剤を使用してもコントロールに難渋するてんかん）です。「てんかん」は、脳の異常な活動によって引き起こされ、脳の部位により様々な症状を呈します。このため、問診、画像、生理検査を行い、時には入院にて長時間ビデオ脳波モニタリングを行い、実際の発作の状態を把握し、総合的に「てんかん」と判断します。「てんかん」と診断されれば、数ある抗てんかん剤の中から適切な薬剤の治療へと各科の担当医からご提示します。場合によっては薬剤でのコントロールが困難な場合には、外科治療を考慮します。外科治療には切除術、離断術、迷走神経刺激術などがあります。当センターでは、診断から薬物治療、外科治療に至る包括的な体制をとっております。

TOPICS

てんかんの診断から薬物治療～外科治療が行える施設はそう多くはありません。当センターはその一角を担っており、特に南大阪地区では唯一の施設となっております。診断に必要な長時間ビデオ脳波計、画像異常の検知に欠かせない、かつ脳機能の情報を得るための高磁場 MRI、てんかん焦点を探る FDG-PET などの機器を備えています。内科的な治療では、概ね国内で流通している抗てんかん剤を使用できるような体制となっています。外科治療は、高精度な精度が確約できる Hybrid 室で、定位脳手術やてんかん焦点切除術、脳梁離断術、迷走神経刺激術を行っています。

スキンサージェリーセンター

センター長代行　大塚 篤司 主任教授
出身大学　信州大学
専門分野　アトピー性皮膚炎の治療、悪性黒色腫の治療、乾癬の治療
専門医資格　アレルギー専門医・皮膚科専門医

センターの特徴

皮膚外科では、基底細胞がん、有棘細胞がん、悪性黒色腫、乳房外パジェット病、その他の皮膚悪性腫瘍の治療をメインで行っております。母斑や粉瘤、脂肪腫などの良性腫瘍、化膿性汗腺炎、陥入爪などに対する治療も行っております。
とくに、顔面など整容的配慮が求められる部位には、局所皮弁や植皮などを用いてできる限り自然な仕上がりを目指しています。また、皮膚悪性腫瘍に対しては、診断から切除・再建・必要に応じた他科との連携まで一貫した体制で治療を行っています。
日帰り手術にも対応しており、患者さんの生活に配慮した柔軟な診療体制を整えています。皮膚の手術に関するお悩みがあれば、お気軽にご相談ください。

TOPICS

当センターでは、皮膚悪性腫瘍の治療を中心に、整容的配慮が求められる顔面再建や高難度の皮膚外科手術にも積極的に取り組んでいます。基底細胞がん、有棘細胞がん、乳房外パジェット病、悪性黒色腫などに対し、確実な切除と機能・整容の両立を図る再建術を提供しています。希少腫瘍も診断から再建・術後管理まで包括的に対応しており、皮膚腫瘍は外観が類似し診断が難しいこともあるため、少しでもご不安があればご紹介いただければ幸いです。他院との共同研究や医療連携も推進しています。

リウマチセンター

センター長代行　野﨑 祐史 准教授
出身大学　近畿大学
専門分野　リウマチ・膠原病一般、腎臓病一般、アレルギー性疾患
専門医資格　総合内科専門医・リウマチ専門医・腎臓専門医・アレルギー専門医

センターの特徴

当センターでは、関節リウマチなどの自己免疫疾患・膠原病に対する専門診療を行っています。関節リウマチは関節の腫れや痛み、こわばりを特徴とし、進行すると関節の変形や機能障害を招くことがあります。近年は治療薬が進歩し、免疫抑制剤、生物学的製剤、JAK阻害薬などにより、症状の改善と生活の質の維持が可能になりました。関節超音波で炎症を可視化し、治療効果を評価しながら薬剤を調整し、安定した方には減薬や中止も検討します。整形外科と連携し、手術やリハビリにも対応。2023年には母性外来を開設し、妊娠・出産への支援も行っています。関節の痛みや治療への不安がある方は、ぜひご相談ください。

TOPICS

当センターでは、関節超音波検査を積極的に活用し、関節内の炎症を詳細に評価することで、治療効果の判定や薬剤調整に役立てています。メトトレキサートを含む免疫抑制剤、生物学的製剤、JAK阻害薬の導入を適切に行いながらも、状態が安定した患者さんには薬剤の減量や中止も慎重に検討し、必要最小限の治療を目指しています。また、全身性エリテマトーデスや皮膚筋炎などの難治性疾患に対する臨床試験も積極的に実施しており、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスの臨床試験導入数は日本でもトップクラスです。

運動器外傷センター

センター長　大谷 和裕 教授
出身大学　近畿大学
専門分野　手・上肢外科、外傷外科、関節リウマチ
専門医資格　整形外科専門医・リウマチ専門医

センターの特徴

当センターは2018年4月から稼働しているセンターです。診療内容は救急災害棟で救命センターかERに搬送される患者の診療にあたっています。具体的には一つは救命センターに搬送される外傷でこれには高所からの転落や交通事故などによる高エネルギー外傷（多発外傷、開放性損傷、骨盤骨折、脊椎損傷など）が該当します。もう一つは、ERで対応する外傷で、これには四肢の単発外傷と比較的全身状態が安定している多発外傷、小児の骨折などの運動器外傷が該当します。
当センターの利点は救命センターと連携して治療ができるので迅速に対応ができることです。状態が安定すれば整形外科病棟へ移動して治療を継続できます。また、麻酔科医が常駐してますので特別な場合を除いて、開放骨折や小児の骨折に対する緊急手術の対応できます。

TOPICS

現在、大谷和裕（センター長、臨床教授）、中川晃一（病院講師）、吉元孝一（助教）の3人で診療にあたっています。3人とも整形外科専門医で、大谷（上肢、外傷全般）、中川（肩、下肢関節、外傷全般）、吉元（上肢、外傷全般）それぞれの専門性を持って治療を行います。脊椎損傷に関しては整形外科の脊椎チームと連携して治療を行っています。脊椎手術ではナビゲーションを駆使し、四肢の手術ではコンパクトで解像度の高いミニCアームも随時使用し治療にあたっています。大学病院という利点を生かして他科との連携を図って集学的に治療を行っています。連携病院も充実しており、術後の回復期リハビリテーションへの移行も円滑に行えます。

人工関節センター

センター長　後藤 公志 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　人工関節置換術、股関節外科
専門医資格　整形外科専門医

センターの特徴

人工股関節置換術、人工膝関節置換術のみならず、人工肩関節置換術においても日本有数の高い技術力と症例数を誇っています。きめ細かい合併症対策の下で、安全・安心な治療を提供しています。重度内科疾患のある高齢患者にも特定機能病院の強みを生かして安心して手術を受けて頂けます。股関節、膝関節、肩関節については、ロボット、ナビゲーション、3Dプリント、3D解析技術を駆使して正確なインプラント設置を実現しています。股関節、膝関節は豊富な骨切り症例数を誇り、肩関節、膝関節、股関節の関節鏡手術も多数手がけており、極めて良好な治療成績を上げています。

TOPICS

人工股関節置換術の手術件数は2023年度129件、2024年度186件と著明に増加しており、2023年度、2024年度の2年間では、初回人工股関節置換術の術後人工関節周囲感染0件、人工股関節脱臼0件、インプラント周囲骨折0件、再手術率0%を達成しています。また、人工股関節置換術における皮膚切開方法を従来の縦切開から横切開に近づけることによって、手術瘢痕が目立たない手術方法を確立しています。

脊椎センター

診療部長　後藤 公志 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　人工関節置換術、股関節外科
専門医資格　整形外科専門医

センターの特徴

当センターでは、ハイブリッド手術室を使用し高難度変形（頚椎首下がり、腰曲がり、成人側弯）の手術を施行しています。年間150件以上の脊椎手術を行っています。術中の体位でのリアルタイムCTの撮影が可能であり、本情報を基にナビゲーションシステムを用いて正確に椎弓根スクリューの固定や、骨切除、変形矯正を行う体制を整えています。リアルタイムCTにて骨切り後やスクリュー刺入後の位置確認を術中に行うことができる為、上位頚椎の偽腫瘍、頚椎後弯症の矯正などの高難度手術も安全に行うことが可能です。また、脊椎の転移性腫瘍、原発性腫瘍、硬膜内腫瘍の摘出手術も行っています。低侵襲治療としては，内視鏡を用いた椎間板ヘルニア摘出術、椎弓切除術も行っています。高度救命救急センターと連携して外傷性脊髄損傷の治療も積極的に行っています。

※脊椎専門医の診察日は休診日を除く毎週火曜日と金曜日です。

TOPICS

当センターでは、2024年度から外傷性脊髄損傷患者に対する、脊髄再生治療も行っています。患者さんの骨髄液を採取し、骨髄液から脊髄再生因子を抽出し点滴治療を行います。この治療の一部は保険治療の対象となっています。ただし、この治療はすべての外傷性脊髄損傷患者に適応となる訳ではなく、厳格な適応基準を満たす場合に限られています。

周産期母子医療センター（NICU）

NICU部　和田 紀久 教授
出身大学　愛知医科大学
専門分野　新生児疾患
専門医資格　小児科専門医・周産期（新生児）専門医

センターの特徴

大阪府指定の地域周産期母子医療センター NICUです。
出生体重1000g未満の超低出生体重児の入院年間4件以上、宿日直を行わない、すなわち夜間も日中同様の医療を提供する専任の医師が常時勤務していることが条件となる、新生児特定集中治療室管理料1の施設です。低出生体重児を中心に、先天性心疾患、消化管疾患などで手術を要する新生児や、低体温療法、一酸化窒素（NO）ガス吸入療法や、持続血液濾過（透析）などの高度医療を必要とする重症児も受け入れています。当院は最重症合併症妊婦受け入れ医療機関として大阪府の指定も受けており、重症合併症を持った妊婦から出生した児の診療に関しては南大阪で中心的な役割を担っています。

TOPICS

NICUは日本周産期・新生児医学会の基幹認定施設であり、新生児専門医・指導医が2名勤務し、若手医師数名が新生児専門医を目指して研修中です。2024年度は220件を越える入院があり、超低出生体重児は16人、心臓外科手術を受けた児は6人でした。心疾患の診療は小児科循環器チームと連携して行っており、昨年度は超低出生体重児の心房内疣贅をカテーテルで除去する世界初の治療に成功しています。院内出生のみならず、院外出生児も積極的に受け入れ、紹介元からの依頼に応じて自院ドクターカーによる搬入も行っています。また、当院は眼科で未熟児網膜症に対する硝子体手術を行う日本唯一の施設で、重症未熟児網膜症の児が全国から転院してきます。

周産期母子医療センター（分娩部）

分娩部　松村 謙臣 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　腫瘍、周産期
専門医資格　産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医

センターの特徴

当センターは、大阪府最重症合併症妊産婦受入病院に指定され、救急救命センターやNICU、麻酔科、放射線科、手術部、輸血部など関連部門と連携し、24時間体制で母体救命に対応しています。周産期コール（ホットライン）を設置し、緊急時にも迅速な受け入れが可能です。また、超緊急帝王切開シミュレーションや新生児蘇生法（NCPR）、母体急変対応（JCIMELS）シミュレーションコースも定期的に開催し、急変時にも的確に対応できる体制の整備に努めています。さらに、遺伝専門医・認定遺伝カウンセラーによる出生前診断、周産期専門医による合併症妊娠管理、超音波専門医による胎児診断も実施し、妊婦さんが安心して分娩に臨める周産期医療を提供しています。

TOPICS

妊娠年齢の高年化や生殖補助治療の増加により、妊娠前からの健康管理（プレコンセプションケア）の重要性が高まっています。当院では、リウマチセンターと連携し、プレコンセプションケアの一環として母性外来を開設しています。専門医や助産師が、妊娠や持病・薬に不安のある女性に対し、妊娠前カウンセリングを行い、安心して妊娠に臨めるよう丁寧に説明や相談を行っています。また、プレコンセプションケアに加えて、産後から次の妊娠までの健康管理（インターコンセプションケア）にも力を入れています。1か月健診以降も継続的にフォローし、合併症妊娠の既往がある方にも専門的なサポートを提供しています。

炎症性腸疾患（IBD）センター

診療部長　工藤 正俊 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B 型肝炎、C 型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格　総合内科専門医・消化器病専門医・肝臓専門医・超音波専門医・消化器内視鏡専門医

センターの特徴

当院では、潰瘍性大腸炎やクローン病をはじめとする炎症性腸疾患（IBD：Inflammatory Bowel Disease）患者の増加を背景に、より専門性の高い診療体制の構築を目指し、2025 年 4 月に「炎症性腸疾患（IBD）センター」を新たに開設いたしました。
IBDは、再燃と寛解を繰り返す慢性炎症性疾患であり、患者さんの生活の質（QOL）に大きな影響を与えることが知られています。当センターでは、患者さん一人ひとりの病態や生活背景に応じた、個別化医療の提供を重視しています。さらに、消化器内科、外科、小児科、血液浄化センター、看護部、薬剤部、栄養部など、院内の多職種が連携し、診断から治療、生活指導、さらには社会復帰支援に至るまで、包括的な医療体制を整えています。

TOPICS

当院炎症性腸疾患（IBD）センターでは、潰瘍性大腸炎やクローン病に対して、正確な診断と最適な治療の提供を目指しています。内視鏡、カプセル・バルーン小腸内視鏡、血液・便・尿のバイオマーカーを用いた多面的評価を行い、5-ASA 製剤、ステロイド、生物学的製剤、JAK 阻害薬、外科的治療を組み合わせた個別化医療を実践。多職種が連携し、寛解維持・再燃予防から生活支援・社会復帰まで一貫して対応します。専門外来は週複数回設置し、安定した通院体制を確保。患者教育や治療選択支援にも注力し、新薬の治験参加も可能です。さらに、地域医療機関との連携を強化し、病診連携による継続的な診療体制を構築。寛解後の逆紹介や情報共有も積極的に行っています。

胆膵疾患センター

診療部長　工藤 正俊 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B 型肝炎、C 型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格　総合内科専門医・消化器病専門医・肝臓専門医・超音波専門医・消化器内視鏡専門医

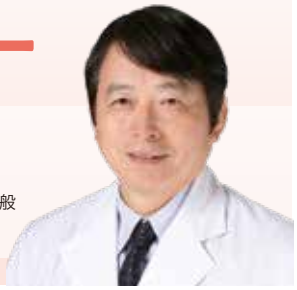
センターの特徴

全国的な胆膵疾患患者の増加に伴い、専門的な診療・特殊内視鏡検査 / 治療が求められる患者が増加しています。当センターは消化器内科、外科、看護師、薬剤師、栄養士、医療支援課などの専門チームが連携することで、胆膵疾患に対し、総合的かつ質の高い医療を提供いたします。当センターの特徴は「質・件数ともに全国トップレベルの超音波内視鏡下生検（EUS-FNA）、超音波内視鏡下経消化管的胆道ドレナージ（EUS-BD）などの胆膵内視鏡精査・治療」「膵癌診療ガイドラインを含む多くのガイドラインへの参画による各種学会との強い連携」「国内外のロールモデルとされる、膵癌早期診断プロジェクトや重症急性膵炎治療プロジェクトなどの地域連携診療構築」が挙げられます。私どもは医療の質向上が患者さんの生活の質向上に繋がり、地域の胆膵疾患診療の中核として機能することで、地域医療全体の発展に寄与させていただければ、と考えております。

TOPICS　世界初の膵癌特異的スクリーニング法

膵がんは膵臓に発生する悪性腫瘍であり、2021 年の統計（部位別がん死亡数）によると、膵がんによる死亡数は男性で第 4 位、女性で第 3 位となっています。また、膵がんは年間の罹患数と死亡数がほぼ等しく、早期診断や治療の難しさが課題とされています。膵がんの罹患率は年々上昇しており、いかに早期診断を行い、効果的な治療につなげるかが重要な課題となっています。当センターは九州大学病院を含めた国内外 18 施設および国内 2 企業の研究チームと、胃の内視鏡検査の際にカメラの先端からカテーテルを出して十二指腸液を採取し、十二指腸液に含まれる膵がん細胞が産生する特定のタンパク質（S100P）を安全に測定できるシステムを開発しました。この検査法の有効性を検証するために、国内外で合計 1,140 名（膵がん患者 333 名、膵疾患患者 430 名、健常者 377 名）を対象とした 4 回の臨床研究を実施した結果、最終的な本検査の検査性能は、感度 82.4%、特異度 77.6%、陽性的中率 62.2%、陰性的中率 90.8% でした。本検査法は、胃内視鏡検査のオプションとして提供されるだけではなく、原因不明の腹痛がある方や膵がんリスクが高い方（糖尿病、肥満、喫煙歴、家族歴、膵嚢胞を有する方）に対するスクリーニング検査としての活用が期待されています。最終的には、臨床性能試験を行い、薬事承認を目指しています。

肝がん高度先端治療・研究センター



診療部長　工藤 正俊 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　肝疾患（特に肝細胞がんの診断と治療）、B 型肝炎、C 型肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、消化器疾患全般
専門医資格　総合内科専門医・消化器病専門医・肝臓専門医・超音波専門医・消化器内視鏡専門医

センターの特徴

肝がんは発見が難しく進行が早いがんです。肝がん高度先端治療・研究センターはその克服に向け、世界をリードする取り組みを進めています。当センターでは、日本国内の肝がん例のデータを集積する一般社団法人・肝癌研究会の事務局として膨大なデータを解析し、肝がんの発症前に介入する先制医療に関する取り組みを行なっています。さらに、早期診断の鍵となる超音波検査を支援する人工知能の開発に取り組み、すでに実用化可能な段階に到達する成果を挙げています。こうした医学と工学の融合に加え、当センターはグローバルで行われるほぼ全ての肝がん臨床試験に本邦を代表して参加しており、その研究成果は世界のトップジャーナルに多数掲載されています。例えば肝がんの分子標的薬として最も使われている「レンバチニブ」の開発や、それを用いて TACEの効果を高める「LEN-TACE」、さらに複合免疫療法と局所療法の組み合わせにより進行肝がんを根治に持ち込む「ABCコンバージョン」「LEN-ペムブロリズマブ +TAC治療」といった新たな治療法を創出し、これらの成果は国内外のガイドラインで取り上げられています。加えて、肝がんの個別化医療の実現を視野に、遺伝子解析や免疫学的アプローチに基づいた肝がん薬物療法の効果的な使用に関するトランスレーショナルリサーチを展開しています。肝がん診療の領域では、世界最先端の研究・治療を行う拠点であると自負しています。

TOPICS　免疫チェックポイント阻害剤の効果と肝がんの腫瘍免疫微小環境

免疫チェックポイント阻害剤は免疫のブレーキを外してがん細胞への攻撃を促す薬です。最近、肝がん一次治療においてこれらを組みあせて使う併用療法が注目されています。例えば、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用（IMbrave150 試験）では従来治療より生存期間が有意に延長し、デュルバルマブ+トレメリムマブ併用（HIMALAYA 試験）でもソラフェニブを上回る成果が得られました。さらに、ニボルマブ+イピリムマブ併用（CheckMate-9DW 試験）でも生存延長が報告されています。一方、肝がんの微小環境は長期の炎症・線維化のもとで免疫を抑える細胞・因子が優勢になりやすく、免疫療法の効果に影響します。これら免疫療法は臨床応用が進む一方で、その治療反応を予測する有効なバイオマーカーがないため効果予測が難しく、重篤な副作用の管理も課題です。その解決のため、遺伝子変異や遺伝子発現、がんに浸潤している免疫細胞の種類やがん細胞との位置関係などの包括的、網羅的解析が進められており、当センターからも多くの重要な成果が発表されています。今後は効果予測マーカーの開発や他療法との組み合わせ研究などが進み、免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療の効果向上を目指して研究・治療に取り組んでいます。

がんセンター

センター長　中川 和彦 特任教授
出身大学　熊本大学
専門分野　肺がんの早期診断、肺がんの治療、固形がんの薬物療法
新規抗がん剤の臨床試験、がんの分子標的治療、縦隔腫瘍の診断と治療

センターの特徴

当院はがん診療の品質向上を目指して、がん診療にたずさわる診療科とがん診療に特化した中央部門を統括する「がんセンター」を組織しています。当院でがん診療を受けておられる患者さんの安全ネットとして、がん相談支援センターと緩和ケアセンターを配置して日常的な相談に対応し、必要に応じた身体的、精神的負担の軽減に努めています。がん薬物療法を安全で効率的に実施するために通院治療センターを開設し、医師、看護師、薬剤師の多職種チーム医療を展開しています。放射線治療は外科的治療と並んで治癒を目指す局所治療です。放射線腫瘍専門医をはじめとして、放射線技師、物理医学士、放射線治療認定看護師など専門的技術を身に着けた優秀なスタッフで構成されています。

TOPICS

大阪南部エリアで唯一の大学病院内に設置された「がんセンター」。がん診療に特化した診療科とがんとは関係ない一般疾患の診療科が連携できるのが強み。特に近年のがん薬物療法では免疫チェックポイント阻害剤のように多彩で稀な副作用が発生し早期の診断と適切な対応が重要です。また、当院は大阪府で治験が最も多い病院です。その中心はがん領域であり、治療法の限られたがん診療では新薬開発治験は患者さんにとっても貴重な選択肢です。

ゲノム医療センター

センター長　中川 和彦 特任教授
出身大学　熊本大学
専門分野　肺がんの早期診断、肺がんの治療、固形がんの薬物療法
新規抗がん剤の臨床試験、がんの分子標的治療、縦隔腫瘍の診断と治療

センターの特徴

当センターは治療方針の決定に重要性を増している遺伝子検査の実施をサポートする組織です。国指定のがん診療連携拠点病院である当院は、がんゲノム医療中核拠点病院の大阪大学医学部をはじめとして、大阪国際がんセンターとともにがんゲノム医療拠点病院にも指定され大阪府におけるがんゲノム医療を担っています。近畿大学病院は、大阪府内で最大の治験センターとなっており、遺伝子検査の結果に対応する治験を一人でも多くの患者さんに提供することができるよう努めています。

TOPICS

大阪南部エリアで唯一のがんゲノム医療拠点病院。オンコマイン遺伝子検査を内製化しているのは大阪府内では近畿大学病院のみ。検体の吟味、遺伝子検査のプロセスと結果の深い洞察で最高水準の信頼度を実現。当院は大阪府内でもっとも治験実施件数が多く、遺伝子異常に合致した治験への参加もできます。

遺伝子診療部

診療部長　松村 謙臣 主任教授
出身大学　京都大学
専門分野　腫瘍、周産期
専門医資格　産婦人科専門医・婦人科腫瘍専門医

センターの特徴

遺伝子診療部では、地域の医療機関から患者の紹介を受け、遺伝性疾患の検査・診断を行っています。同時に、遺伝についての心配や、より深い遺伝情報の提供の場として、遺伝カウンセリングを行い適切な医療に繋げています。主な診療内容として、小児・成人の遺伝性難病疾患や遺伝性腫瘍における遺伝学的診断および医療介入、周産期における出生前検査（NIPTや母体血清マーカー）などです。年間約500件の遺伝カウンセリングを行っており、患者やその血縁者が受診しております。また、当院は、遠方の血縁者に対しても一緒に説明を聞くことができるようにオンラインでの遺伝カウンセリングも提供しています。

TOPICS

当遺伝外来では、300以上の遺伝学的検査を保険適用もしくは自費診療で受検できます。さらに、2024年度より胎児の染色体疾患の検査をする出生前検査も実施できるようになりました。この検査は、生まれてくる子どもの準備に役立てることができます。また、遺伝カウンセリングは各専門領域の臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーで行っております。生まれながらの体質について医療管理や血縁者への影響など、時間をかけてゆっくりと説明しています。その他にも、遺伝学的検査の受検前に検査のメリット・デメリットについても一人ひとりに寄り添い伝えています。

掲載専門医資格について

本冊子に掲載されている専門医資格は、医療に関する情報公開を進め、患者さんの選択を拡大する観点から医師等の専門性に関して告示で定める基準を満たし、厚生労働省への届出が受理された以下の学会が認定する資格を掲載しています。

医師の専門性資格

[団体名]	[資格名]
(公社) 日本整形外科学会	整形外科専門医
(公社) 日本皮膚科学会	皮膚科専門医
(公社) 日本麻酔科学会	麻酔科専門医
(公社) 日本医学放射線学会	放射線科専門医
(公社) 日本眼科学会	眼科専門医
(公社) 日本産科婦人科学会	産婦人科専門医
(一社) 日本耳鼻咽喉科学会	耳鼻咽喉科専門医
(一社) 日本泌尿器科学会	泌尿器科専門医
(一社) 日本形成外科学会	形成外科専門医
(一社) 日本病理学会	病理専門医
(一社) 日本内科学会	総合内科専門医
(一社) 日本外科学会	外科専門医
(一社) 日本糖尿病学会	糖尿病専門医
(一社) 日本肝臓学会	肝臓専門医
(一社) 日本感染症学会	感染症専門医
(一社) 日本救急医学会	救急科専門医
(一社) 日本血液学会	血液専門医
(一社) 日本循環器学会	循環器専門医
(一社) 日本呼吸器学会	呼吸器専門医
(一財) 日本消化器病学会	消化器病専門医
(一社) 日本腎臓学会	腎臓専門医
(公社) 日本小児科学会	小児科専門医
(一社) 日本内分泌学会	内分泌代謝科専門医
(一社) 日本消化器外科学会	消化器外科専門医
(公社) 日本超音波医学会	超音波専門医
(公社) 日本臨床細胞学会	細胞診専門医
(一社) 日本透析医学会	透析専門医
(一社) 日本脳神経外科学会	脳神経外科専門医
(公社) 日本リハビリテーション医学会	リハビリテーション科専門医
(一社) 日本老年医学会	老年病専門医
(NPO) 日本胸部外科学会	心臓血管外科専門医
(NPO) 日本血管外科学会	心臓血管外科専門医
(NPO) 日本心臓血管外科学会	心臓血管外科専門医
(NPO) 日本胸部外科学会	呼吸器外科専門医
(NPO) 日本呼吸器外科学会	呼吸器外科専門医
(一社) 日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡専門医
(NPO) 日本小児外科学会	小児外科専門医
(一社) 日本神経学会	神経内科専門医
(一社) 日本リウマチ学会	リウマチ専門医
(一社) 日本乳癌学会	乳腺専門医
(一社) 日本人類遺伝学会	臨床遺伝専門医
(一社) 日本東洋医学会	漢方専門医
(NPO) 日本レーザー医学会	レーザー専門医
(NPO) 日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医
(一社) 日本アレルギー学会	アレルギー専門医
(一社) 日本核医学会	核医学専門医
(NPO) 日本気管食道科学会	気管食道科専門医
(一社) 日本大腸肛門病学会	大腸肛門病専門医
(公社) 日本婦人科腫瘍学会	婦人科腫瘍専門医
(一社) 日本ペインクリニック学会	ペインクリニック専門医
(一社) 日本熱傷学会	熱傷専門医
(NPO) 日本脳神経血管内治療学会	脳血管内治療専門医
(公社) 日本臨床腫瘍学会	がん薬物療法専門医
(一社) 日本周産期・新生児医学会	周産期(新生児)専門医
(一社) 日本生殖医学会	生殖医療専門医
(一社) 日本小児神経学会	小児神経専門医
(NPO) 日本心療内科学会	心療内科専門医
(一社) 日本総合病院精神医学会	一般病院連携精神医学専門医
(公社) 日本精神神経学会	精神科専門医

歯科医師の専門性資格

[団体名]	[資格名]
(公社) 日本口腔外科学会	口腔外科専門医
(NPO) 日本歯周病学会	歯周病専門医
(一社) 日本歯科麻酔学会	歯科麻酔専門医
(公社) 日本小児歯科学会	小児歯科専門医
(NPO) 日本歯科放射線学会	歯科放射線専門医

近畿大学病院は、以下の関連機関と共により良い医療を目指し、今後も大学病院として先進医療機能の充実を計るとともに、地域の皆様に安心して受診いただける医療が提供出来る様に努力して参ります。

近畿大学奈良病院

理念　患者本位の開かれた病院として、安全で質の高い先進医療を提供します

基本方針
❶大学病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します
❷教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します
❸奈良県における基幹病院として地域医療に貢献します
❹働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します

病院の概要
高度急性期病院（平成 11 年 10 月開院）
地域災害拠点病院（平成 16 年 3 月認可）
地域がん診療連携拠点病院（平成 20 年 2 月認可）
地域医療支援病院（令和 4 年 4 月認可）

病院長	村木　正人
所在地	〒 630-0293 奈良県生駒市乙田町 1248 番地 1
TEL	0743-77-0880
E-mail	infonara@med.kindai.ac.jp
HP	https://www.med.kindai.ac.jp/nara/
診療科目	循環器内科／消化器内科／内分泌・代謝・糖尿病内科／血液内科 リウマチ・膠原病内科／腎臓内科／呼吸器・アレルギー内科／腫瘍内科／脳神経内科 消化器外科／乳腺・内分泌外科／呼吸器外科／脳神経外科／産婦人科／小児科／眼科 皮膚科／泌尿器科／耳鼻咽喉・頭頸部外科／形成外科・美容外科／メンタルヘルス科 歯科口腔外科／整形外科／放射線科（腫瘍部門・診断部門） 麻酔科／病理診断科／救命救急科／緩和ケア科／小児外科／心臓血管外科
病床数	518 床

2025年11月
近畿大学医学部と病院が「堺

Moving to

SAKAI-IZUMIGA

KINDAI UNIVERSITY

Faculty of Medicine | Hos

近畿大学医学部・病院

※パースはイメージであり、変更になる可能性があります。

「堺市 泉ヶ丘」で生まれ変わります。

GAOKA

2026年4月
看護学部（仮称・設置認可申請中）

※設置計画は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

Hospital

最新の移転情報、医学部や健康に関する情報を発信

移転情報

病院SNS一覧

LINE 近畿大学病院

緊急患者紹介方法について

地域連携課 直通TEL

072-366-0257（受付時間 平日 9：00～17：00）

直ちに専門医療が必要な症例、病院事務から専門医に電話回送

救命救急センター

※072-366-0250 24時間体制、年中無休

重度外傷・重症疾病、中毒・熱傷、その他の高度な救急医療

緊急時要請出動ドクターカーシステム

0120-145-810（ハートコール／心臓血管センター）

072-366-0221 3138（内線）（心臓血管外科）

医療機関からの要請により当院医師がドクターカーに同乗して患者さんをお迎えにあがります。

主な対象　心臓血管系・循環器疾患の重症患者さん

体　制　心臓血管センター（循環器内科）・心臓血管外科・脳神経外科

平日　9：00～17：00

土　9：00～12：45

※日・祝、12/29～1/3、11/5（創立記念日）は除く

脳卒中コール

※072-366-0920 24時間体制、年中無休

脳卒中を疑う①急性発症の麻痺や言語障害（一過性を含む）、②意識障害、③突然の激しい頭痛、などを呈する患者さん

ハートコール

※0120-145-810（イーヨゴ ハート） 24時間体制、年中無休

狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、大動脈解離、又はその疑いなどの重症循環器疾患

周産期コール

※072-366-0133 24時間体制、年中無休

産科救急（母体救急、胎児救急）、婦人科救急

救急災害センター FAX

救命救急センター／脳卒中コール／ハートコール

072-365-8307

※病院・診察所・救急隊からの連絡用です。

地域医療連携について

地域連携課

TEL

紹介予約に関するお問い合わせ

072-366-0241

（受付時間 平日 9：00～20：00）

その他お問い合わせ

072-366-0257

（受付時間 平日 9：00～17：00）

FAX

072-365-7161

近畿大学病院
KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL
特定機能病院

〒589-8511
大阪府大阪狭山市大野東377-2
TEL（072）366-0221（代表）
FAX（072）365-7161
https://www.med.kindai.ac.jp

公式HP　公式LINE